

---

# プリンタドライバ説明書

---

# 目次

はじめに.....	1
1. プリンタドライバ.....	2
1.1. プリンタドライバについて.....	2
1.2. Windows Vista での印刷設定起動時の注意点.....	2
1.3. バージョン表示.....	5
1.4. 用紙.....	6
1.4.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TASSHA.....	6
1.4.2. TR400e/410e.....	8
1.4.3. ST308R/312R.....	10
1.4.4. SR400 シリーズ.....	12
1.4.5. エヴィ シリーズ.....	14
1.4.6. RT308R.....	16
1.5. 用紙 (MT/MR110w).....	22
1.6. TrueType フォント.....	34
1.7. 動作モード.....	36
1.7.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、MT/MR110w、TASSHA.....	36
1.7.2. TR400e/TR410e、ST308R/312R、RT308R.....	37
1.7.3. SR400 シリーズ.....	38
1.7.4. エヴィ シリーズ.....	39
1.8. 拡張処理設定.....	40
1.9. デバイスの設定.....	42
1.9.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、MT/MR110w、TASSHA.....	42
1.9.2. TR400e/410e、ST308R/312R、RT308R.....	43
1.9.3. SR400 シリーズ、エヴィ シリーズ.....	44
1.10. クリエイトフォント.....	45
1.11. ユーティリティ.....	49
1.11.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ.....	49
1.12. ダウンロードフォント・ロゴフォント情報.....	50
1.12.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ.....	50
1.13. 設定情報読みだし・保存.....	51
1.13.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ.....	51
1.14. テスト印字.....	52
1.14.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ.....	52
1.15. サトー専用ポートの追加設定手順.....	53
1.15.1. サトー専用ポートの追加手順.....	53
1.15.2. サトー専用ポート設定手順.....	56
2. インストーラ起動手順.....	61
2.1. メインメニュー画面.....	61
2.2. プリンタメニュー画面.....	62
2.3. プリンタドライバ画面.....	63
2.4. プリンタドライバのインストール方法選択画面.....	64
3. インストール手順.....	65
3.1. プリンタドライバ インストール画面.....	65
3.2. 接続先ポート指定画面.....	67
3.3. ポート選択画面.....	68

3.3.1.	シリアルポート選択画面	68
3.3.2.	SATO COM ポート選択画面	68
3.3.3.	パラレルポート選択画面	69
3.3.4.	SATO LPT ポート選択画面	70
3.3.5.	SATO LAN ポート登録画面	71
3.3.6.	SATO USB ポート登録画面	72
3.4.	インストールの終了画面	74
3.5.	特殊設定画面	75
4.	アンインストール手順	76
4.1.	アンインストール画面	76
4.2.	アンインストール プリンタ選択画面	77
4.3.	アンインストール 終了画面	78
5.	USB 標準印刷サポートのインストール方法	79
5.1.	USB 標準印刷サポートのインストール手順	79
5.1.1.	Windows Vista でのインストール手順	79
5.1.2.	Windows XP でのインストール手順	87
5.2.	インストール情報ファイルについて	92
5.3.	USB 標準印刷サポートインストール時の障害回避方法	94
6.	注意事項	95
6.1.	インストール起動時のエラーメッセージ	95
6.2.	アンインストール時のポート共有メッセージ	96
6.3.	Plug & Play 回避方法	97

## はじめに

本書で説明しているプリンタドライバ画面は、特に断りがない限り MT400e シリーズと SR400 シリーズを使用しています。そのため、実際にお使いになるプリンタ機種によっては、画面構成が異なる場合がありますので、ご了承ください。

また、本書のプリンタドライバのプロパティ画面、インストーラは、Windows Vista を使用しています。Windows2000/XP/Server2003/Server2008 では画面構成が異なる場合がありますので、ご了承ください。

※1 プリンタドライバは全て、32bit 版になります。64bit 版は未対応です。

※2 画面の解像度は 1024x768 ピクセル以上を推奨します。それ以下の場合一部表示されない場合があります。

プリンタドライバプロパティ画面は、下記のグループに分けて説明しております。

e シリーズ	:	MR400e、MR410e、MR600e、MR610e、MT400e、MT410e
SATOC シリーズ	:	TR400e、TR410e、ST308R、ST312R
M-48Pro シリーズ	:	M-48Pro8、M-48Pro12、M-48Pro24
SR400 シリーズ	:	SR408、SR412、SR424
MT/MR110w	:	MR110w、MT110w
TASSHA	:	TASSHA
パートロニクス	:	RT308R
エヴィ	:	EV208R、EV212R

## 1. プリンタドライバ

### 1.1. プリンタドライバについて

Windows2000/XP/Server2003/Vista/Server2008用MT400eシリーズのプリンタドライバは、「印刷設定(I)」として、独自に「バージョン情報」、「用紙」、「動作モード」、「拡張機能設定」、「クリエイティブフォント」、「ユーティリティ」、「TrueType フォント」の7個のタブを所有しており、各タブにおいて様々な設定が可能です。

### 1.2. Windows Vista での印刷設定起動時の注意点

Windows Vista で「印刷設定(I)」を設定するためには、**管理者権限**にて行う必要があります。管理者権限以外で設定値の変更、またはプリンタポートの追加などの処理を行っても、エラー画面が表示され、反映されません。指定の方法は、「プリンタ」フォルダの中にある、MT400e プリンタを選択し、「ファイル(F)」⇒「管理者として実行(A)」⇒「プロパティ(R)」と選択するか、図 1.2.1 のように MT400e 選択⇒右クリック⇒「管理者として実行(A)」⇒「プロパティ(R)」と選択します。

Windows Vista 以外の OS の場合は「印刷設定(I)」を設定する為には、図 1.2.2 に示すように「プリンタ」フォルダの中にある、MT400e プリンタを選択し、「プリンタ(P)」⇒「プロパティ(R)」⇒「全般」タブの「印刷設定(F)」メニューを選択するか、右クリックして「印刷設定(E)」メニューを選択します。

**注意 1)** 「印刷設定」で設定可能な項目には、「プリンタ設定ツール」で設定可能な項目と重複するものがありますが、プリンタドライバを使用して印字を行う場合は「印刷設定」での指定が有効となります。またアプリケーションソフトの印刷画面から呼び出すプロパティでは、一時的な設定変更を目的としており、機能も限定されています。

プリンタの名称はドライバセットアップ時に任意に設定できます。  
デフォルト指定では、MT400eは「SATO MT400e」、MT410eは「SATO MT410e」となります。

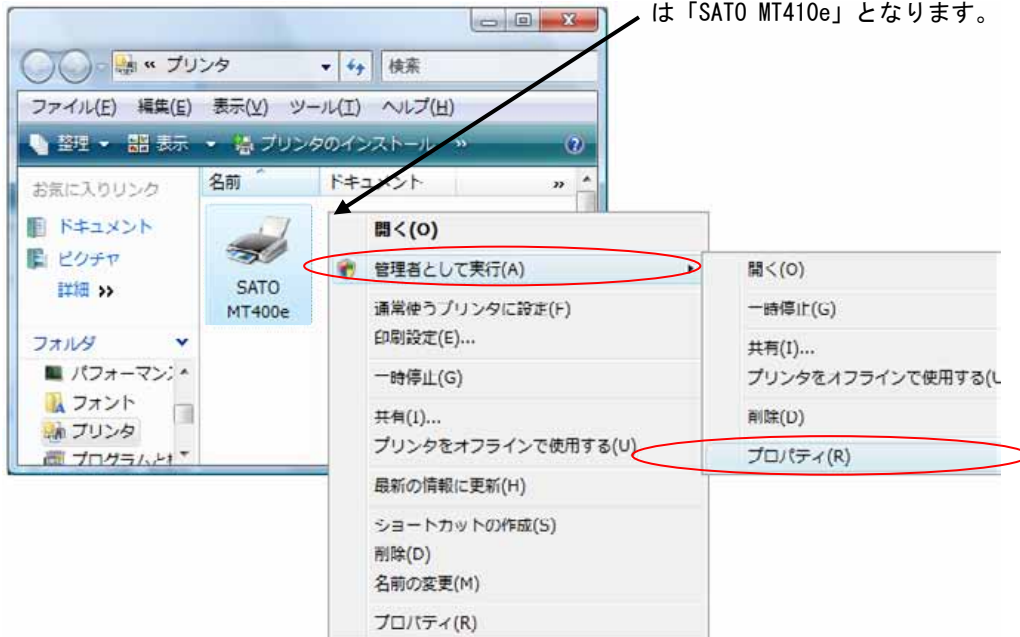


図 1.2.1. 「プリンタフォルダ」画面  
Windows Vista の場合

**※Windows Vista での「印刷設定」**

Windows Vista でのプロパティに関する設定変更は、全て**管理者権限**が必要です。従って、図 1.2.1 のように「SATO MT400e」を右クリック⇒「管理者として実行(A)」⇒「プロパティ(R)」と選択し、プリンタプロパティの「全般」タブの「印刷設定(I)」から設定します。  
**管理者権限以外では各種設定値の変更は一切行えません。**



図 1.2.2. 「プリンタフォルダ」画面  
Windows 2000/XP/Server2003/Server2008 の場合

**※Windows 2000/XP/Server2003/Server2008 での「印刷設定」**

Windows Vista 以外での印刷設定は、「SATO MT400e」を右クリックし、次に「印刷設定(E)」をクリックします。または「SATO MT400e」を選択し、「プリンタ(P)」⇒「プロパティ(R)」⇒「全般」タブの「印刷設定(I)」から設定します。

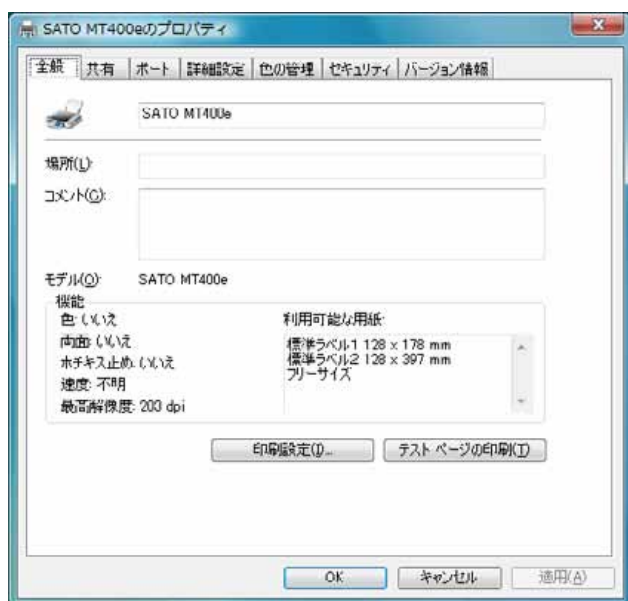


図 1.2.3 「プロパティ」の「全般タブ」画面  
Windows 2000/XP/Server2003/Vista/Server2008 の場合



図 1.2.4 「印刷設定」画面  
Windows 2000/XP/Server2003/Vista/Server2008 の場合

※ Version の表示が 0.00 になっておりますが、実際に表示した際は対応した Version が表示されます。

### 1.3. バージョン表示

「バージョン情報」タブをクリックすることで、プリンタドライバのバージョンを表示します。



図 1.3.1. 「バージョン情報」画面

Windows 2000/XP/Server2003/Vista/Server2008

※ Versionの表示が0.00になっておりますが、実際に表示した際は対応したVersionが表示されます。



## 1.4. 用紙

### 1.4.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TASSHA

図 1.4.1 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

(1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。

(2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。

(3) 印字エリア外の基点を補正します。通常は0です\*\*。

(4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。

(5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.2 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。

(6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（フリーサイズの設定値は適用できません）。

(7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。

図 1.4.1. 「用紙」画面

(8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 1.4.3 に示す画面が表示されます。

(9) 登録する用紙の名称を設定します。

(10) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。

(11) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。

(12) 設定する各項目の単位を設定します。

(13) 登録する用紙のサイズを設定します。\*）ギャップサイズは通常3.0(mm)です。

(14) 印字可能領域の左端位置を設定します。\*）

(15) 印字可能領域の上端位置を設定します。\*）

(16) 印字可能領域の幅を設定します。\*）

(17) 印字可能領域の高さを設定します。\*）

(18) センサ無視モードの印字停止位置を設定します。

\*）詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。

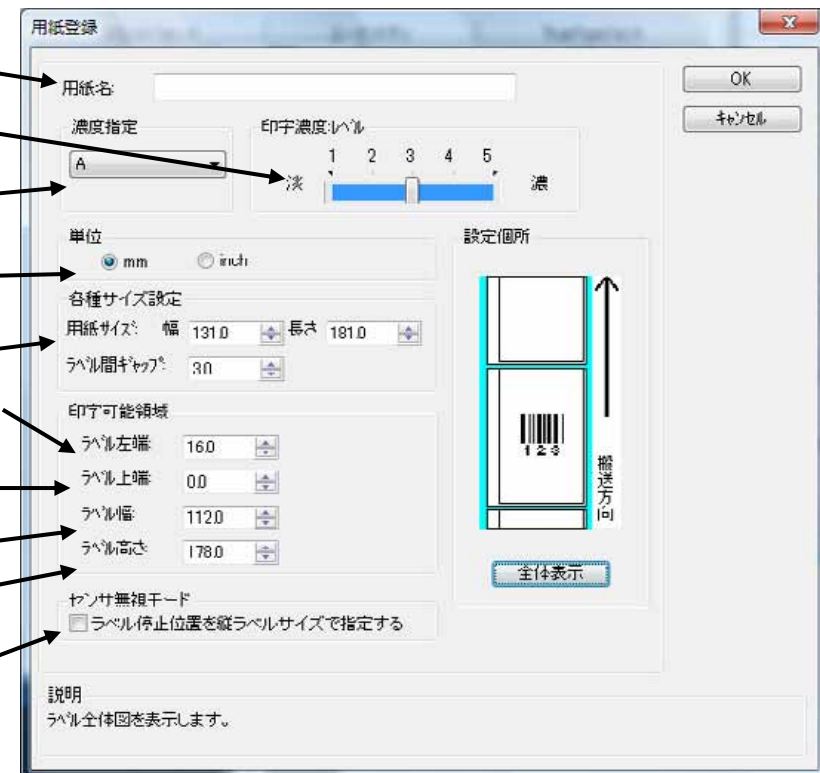
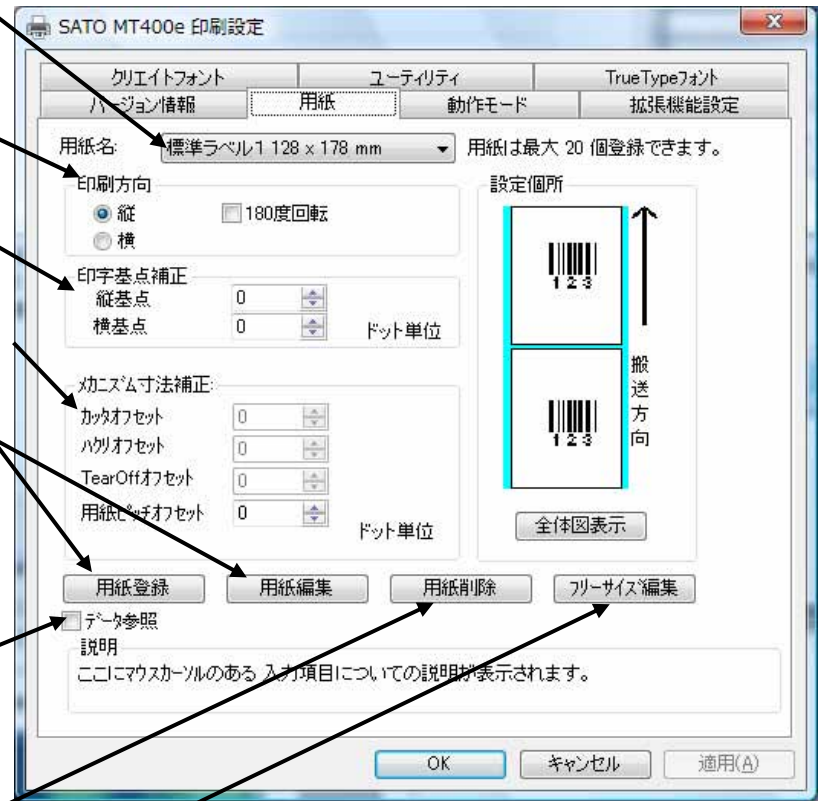
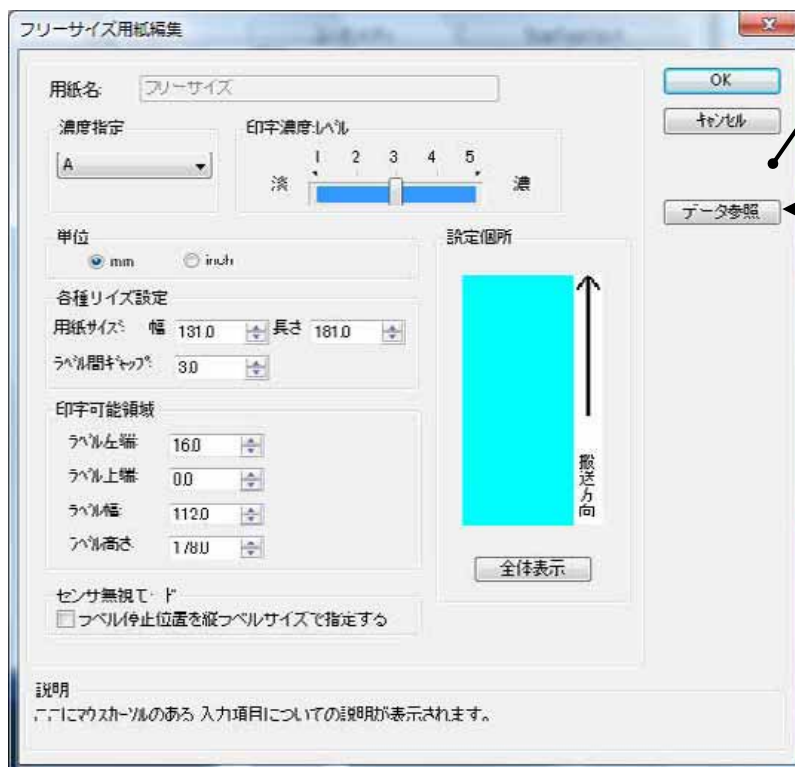


図 1.4.2. 「用紙登録」画面



設定内容は図 1.4.2 と同様です。

(19) 各設定値を登録済みの用紙から参照します。クリックすることにより、図 1.4.4 に示す画面が表示されます。

図 1.4.3. 「フリーサイズ用紙編集」画面

(20) 設定値を参照する用紙を選択します。

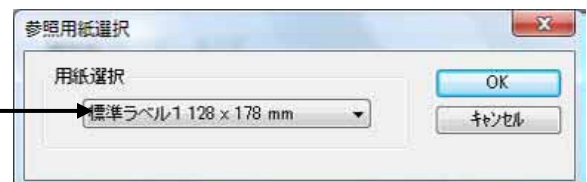


図 1.4.4. 「参照用紙選択」画面

## 1.4.2. TR400e/410e

図 1.4.5 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(6)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字レイアウトの基点を補正します。通常は0です※。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。「デバイスの設定」画面にて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (5) 用紙の基準位置を補正します。「デバイスの設定」ダイアログにて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (6) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.6 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (7) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）

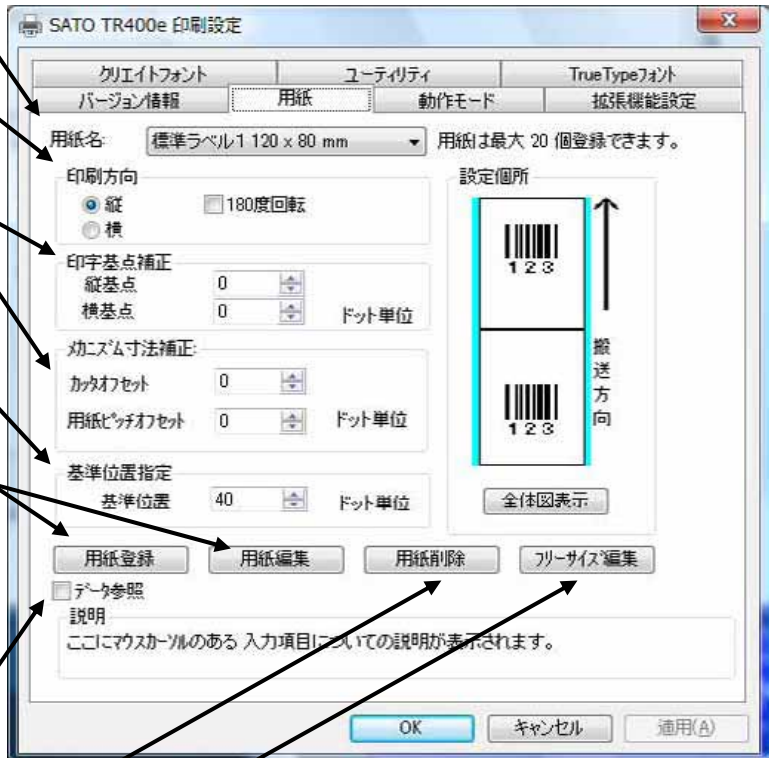


図 1.4.5. 「用紙」画面

- (8) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (9) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 1.4.7 に示す画面が表示されます。
- (10) 登録する用紙の名称を設定します。
- (11) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。
- (12) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。
- (13) 設定する各項目の単位を設定します。
- (14) 登録する用紙のサイズを設定します※。
- (15) 印字可能領域の左端位置を設定します※。
- (16) 印字可能領域の上端位置を設定します※。
- (17) 印字可能領域の幅を設定します※。
- (18) 印字可能領域の高さを設定します※。

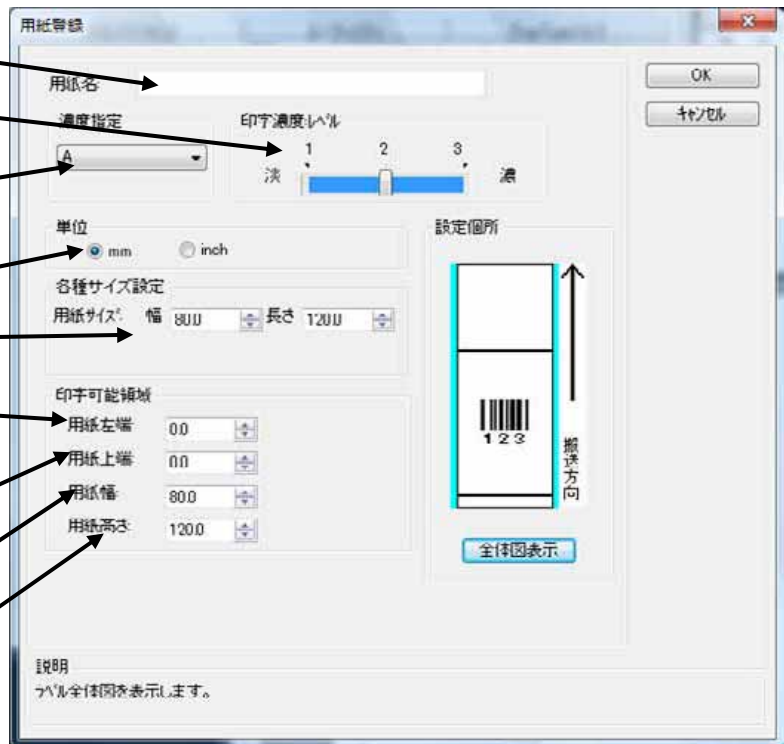


図 1.4.6. 「用紙登録」画面

※) 詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。

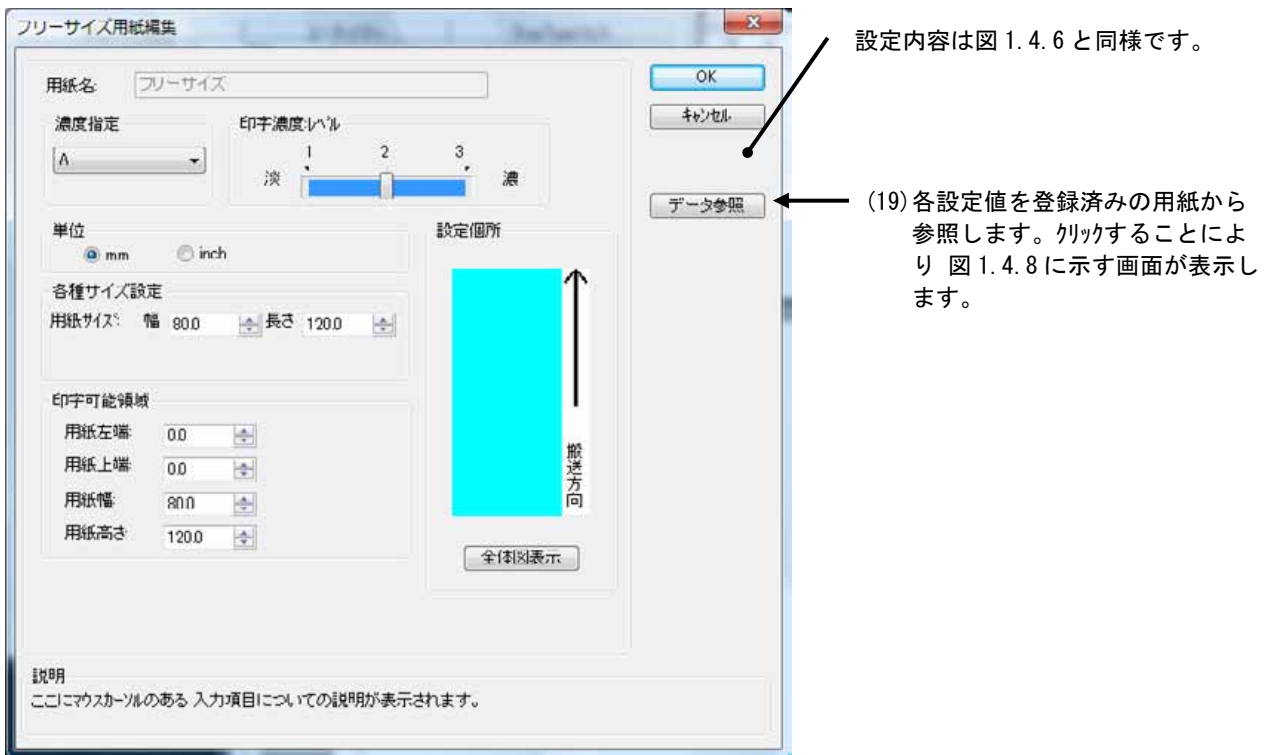


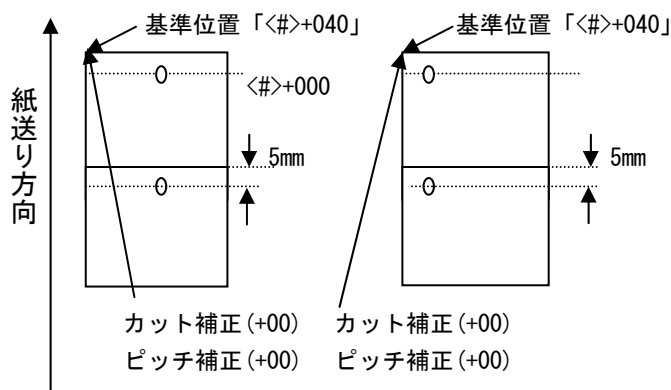
図 1.4.7. 「フリーサイズ用紙編集」画面



図 1.4.8. 「参照用紙選択」画面

### ※基準位置の設定

「センタホールタグ」、「横ホールタグ」を使用した場合、下記のように基準位置を補正する必要があります。「デバイスの設定」画面の「情報を取得」にて情報を取得することで、プリンタにセットされている用紙情報をもとに初期値をセットします。初期値で基準位置が合わない場合は、値を変更してください。



### 1.4.3. ST308R/312R

図 1.4.9 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(6)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字レイアウトの基点を補正します。通常は0です<sup>※</sup>。
- (4) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.10 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (5) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（フリーサイズ<sup>®</sup>の設定値は適用できません）。
- (6) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (7) 「フリーサイズ<sup>®</sup>」用紙の編集をします。図 1.4.11 に示す画面が表示されます。

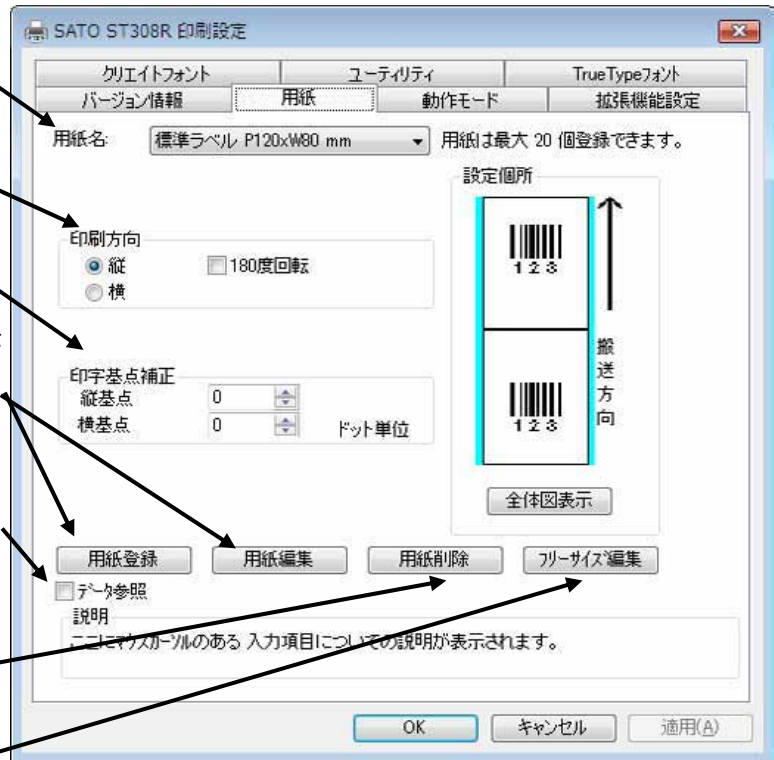


図 1.4.9. 「用紙」画面

- (8) 登録する用紙の名称を設定します。
- (9) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。
- (10) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。
- (11) 用紙の基準位置を補正します。「デバイスの設定」ダイアログにて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (12) ラベル/タグを毎回カットする場合に指定します。本指定はプリンタ本体の「カット ON」ボタンが ON の場合に有効です。
- (13) 設定する各項目の単位を設定します。
- (14) 登録する用紙のサイズを設定します<sup>※</sup>。
- (15) 印字可能領域の左端位置を設定します<sup>※</sup>。
- (16) 印字可能領域の上端位置を設定します<sup>※</sup>。
- (17) 印字可能領域の幅を設定します<sup>※</sup>。
- (18) 印字可能領域の高さを設定します<sup>※</sup>。

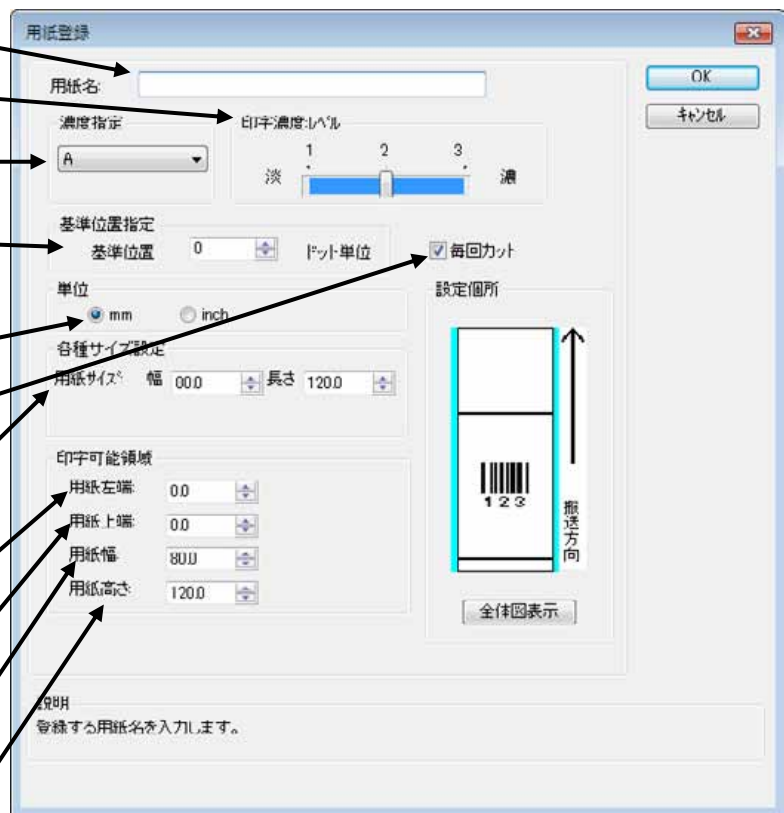
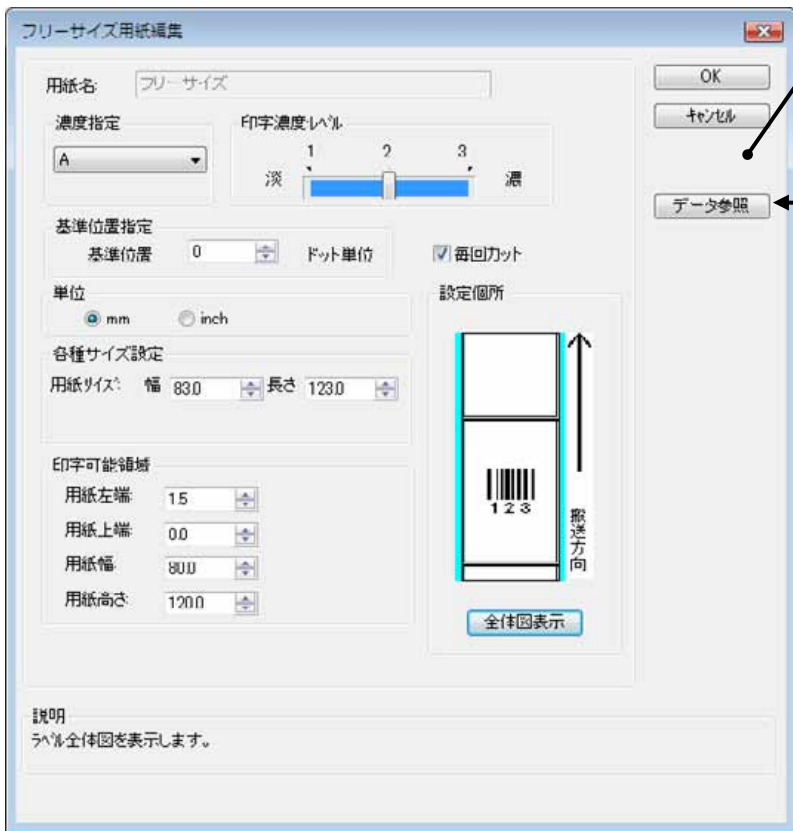


図 1.4.10. 「用紙登録」画面

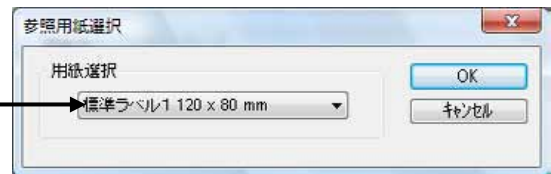
※) 詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。



設定内容は図 1.4.10 と同様です。

(19) 各設定値を登録済みの用紙から参照します。クリックすることにより 図 1.4.12 に示す画面が表示します。

図 1.4.11. 「フリーサイズ用紙編集」画面

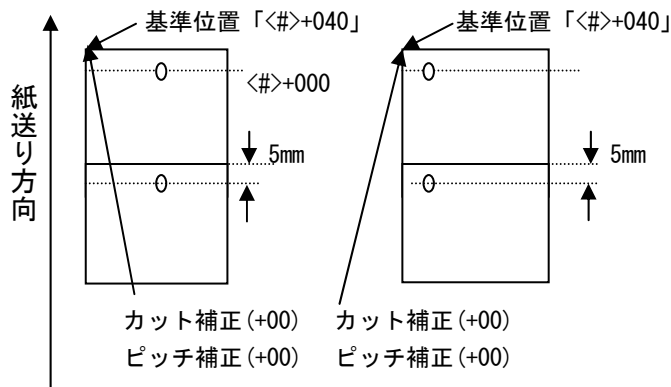


(20) 設定値を参照する用紙を選択します。

図 1.4.12. 「参照用紙選択」画面

### ※基準位置の設定

「センタホールタグ」、「横ホールタグ」を使用した場合、下記のように基準位置を補正する必要があります。「デバイスの設定」画面の「情報を取得」にて情報を取得することで、プリンタにセットされている用紙情報をもとに初期値をセットします。初期値で基準位置が合わない場合は、値を変更してください。



## 1.4.4. SR400 シリーズ

図 1.4.13 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

(1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。

(2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。

(3) 印字レアウトの基点を補正します。通常は0です※。

(4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。

(5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.14 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。

(6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）。

(7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。

(8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 1.4.15 に示す画面が表示されます。

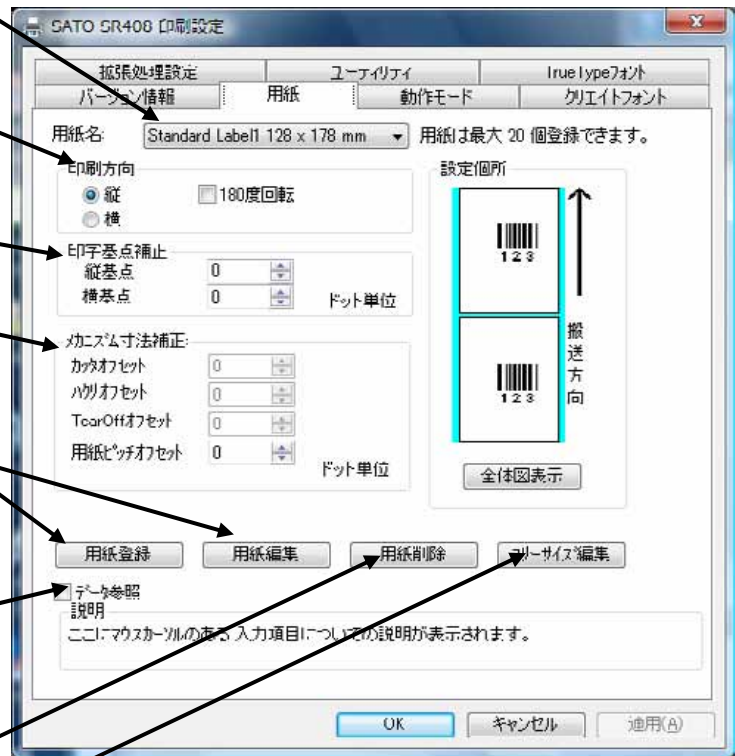


図 1.4.13. 「用紙」画面

(9) 登録する用紙の名称を設定します。

(10) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。

(11) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。

(12) 登録する用紙のサイズを設定します。※

(13) センサ無視モードの印字停止位置を設定します。

(14) 2色サーマル指定と赤色の領域指定を行います。赤指定位置ボタンをクリックすると図 1.4.17 に示す画面が表示されます。

※ 詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。

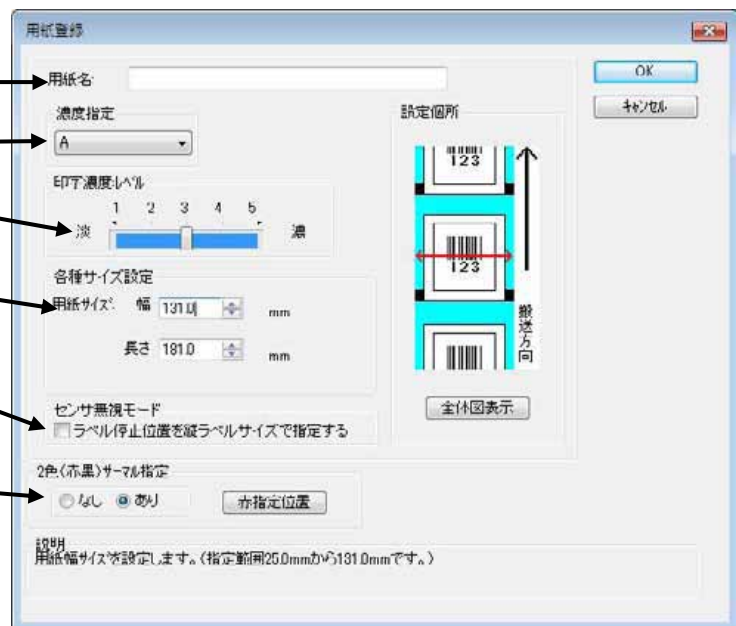
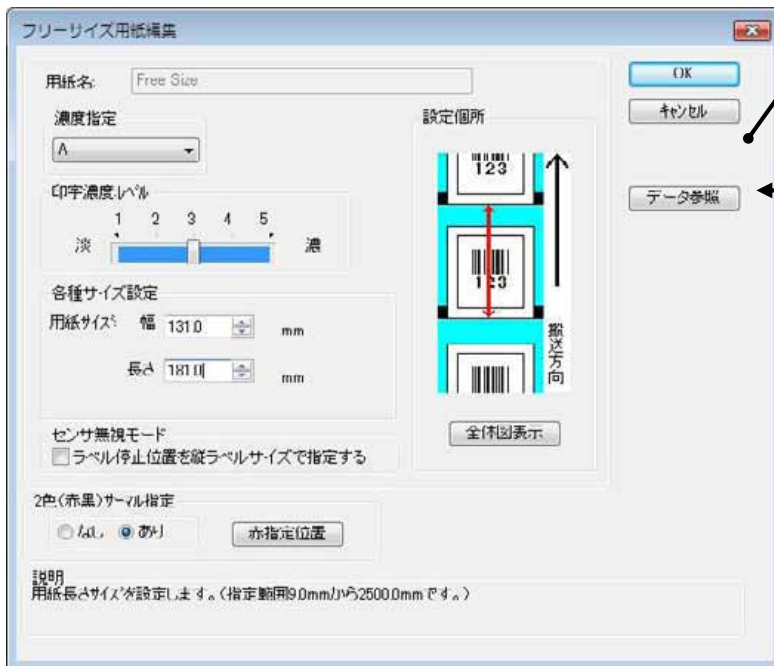


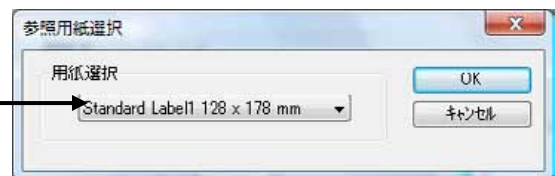
図 1.4.14. 「用紙登録」画面



設定内容は図 1. 4. 14 と同様です。

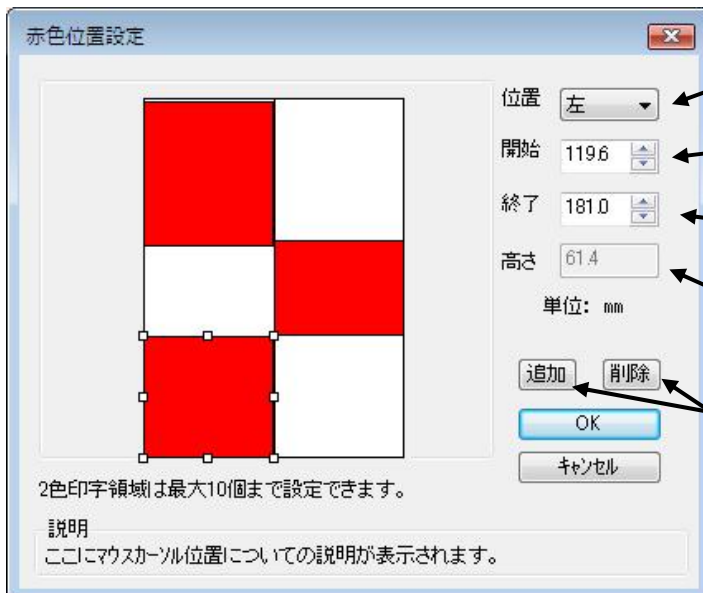
(15) 各設定値を登録済みの用紙から参照します。クリックすることにより、図 1. 4. 16 に示す画面が表示されます。

図 1. 4. 15. 「フリーサイズ用紙編集」画面



(16) 設定値を参照する用紙を選択します。

図 1. 4. 16. 「参照用紙選択」画面



(17) 赤色の位置を左・右・両方のいずれかを選択します。

(18) 上端の開始位置を指定します。

(19) 下端の終了位置を指定します。

(20) 上端と下端から自動的に高さが計算されます。

(21) 指定した領域を追加します。

(22) 指定した領域を削除します。

図 1. 4. 17. 「赤色位置指定」画面



## 1.4.5. エヴィ シリーズ

図 1.4.18 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字レイアウトの基点を補正します。通常は0です\*。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。「デバイスの設定」画面にて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.18 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）。
- (7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 1.4.20 に示す画面が表示されます。

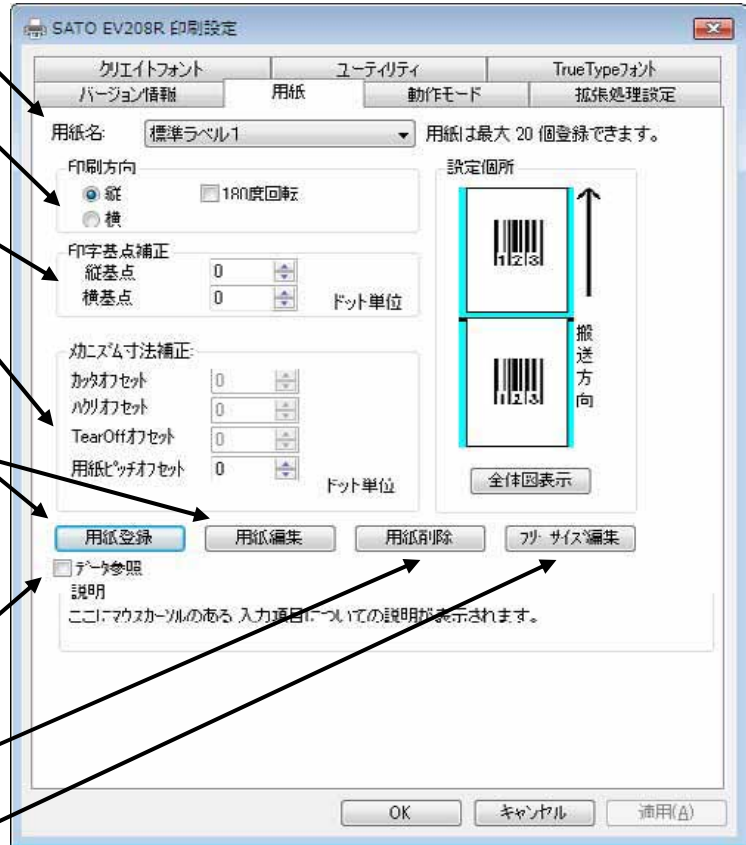


図 1.4.18. 「用紙」画面

- (9) 登録する用紙の名称を設定します。
- (10) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は5です。
- (11) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。
- (12) 用紙種を選択を行います。
- (13) 設定する各項目の単位を設定します。
- (14) 登録する用紙のサイズを設定します\*。
- (15) センサ無視モードの印字停止位置を設定します。

※) 詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。

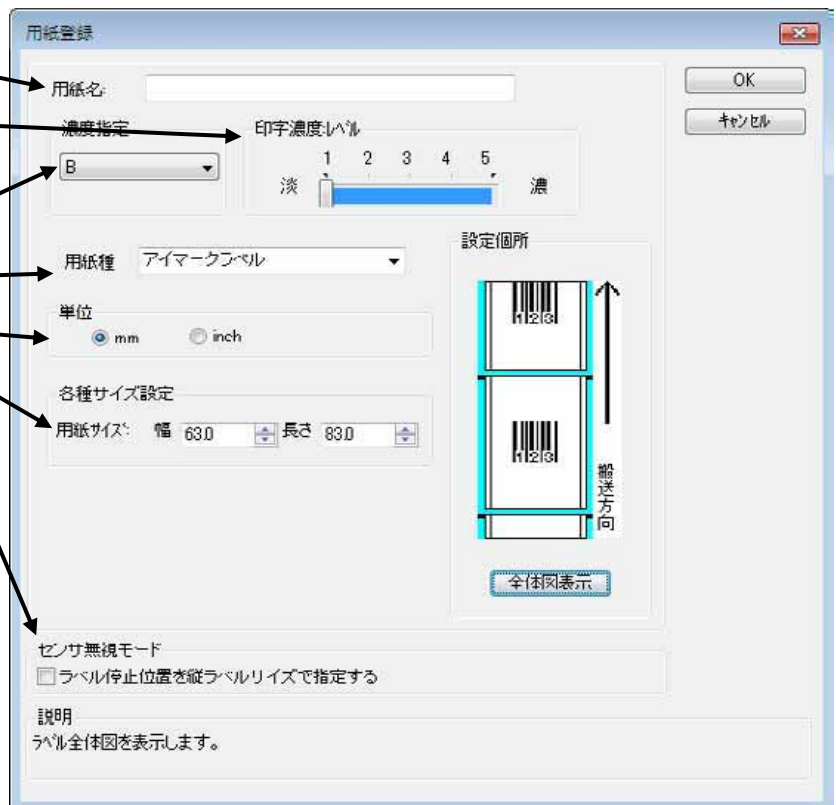


図 1.4.19. 「用紙登録」画面



図 1.4.20. 「フリーサイズ用紙編集」画面



図 1.4.21. 「参照用紙選択」画面

## 1.4.6. RT308R

図 1.4.22 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(6)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字レイアウトの基点を補正します。通常は0です※。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。「デバイスの設定」画面にて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (5) 用紙の基準位置を補正します。「デバイスの設定」ダイアログにて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (6) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 1.4.23 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (7) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（フリーサイズの設定値は適用できません）

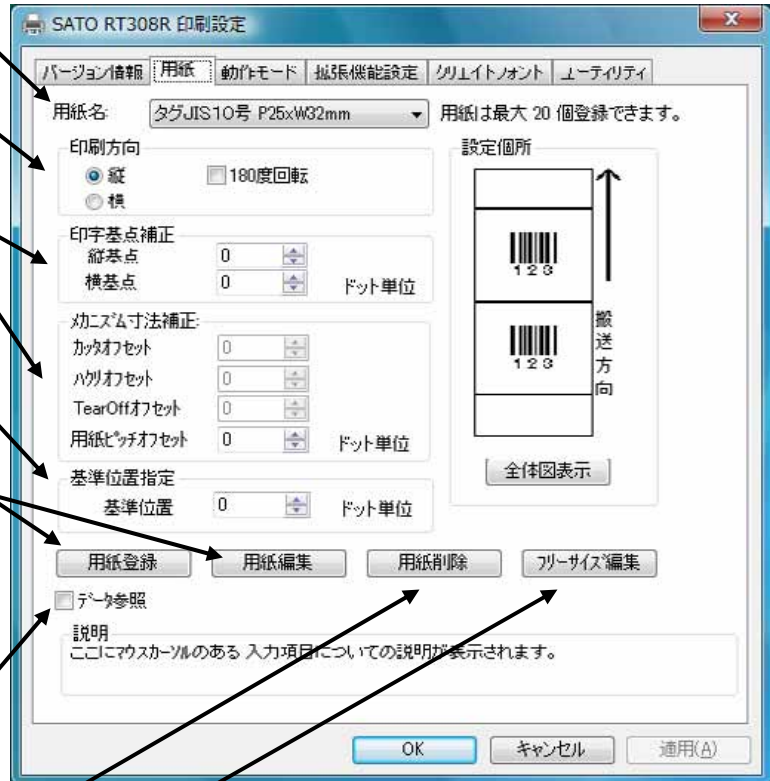


図 1.4.22. 「用紙」画面

- (8) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (9) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 1.4.24 に示す画面が表示されます。

- (10) 登録する用紙の名称を設定します。
- (11) 用紙種の選択を行います。
- (12) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。
- (13) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。
- (14) ラベル/タグを毎回カットする場合に指定します。
- (15) 設定する各項目の単位を設定します。
- (16) 登録する用紙のサイズを設定します※。
- (17) 印字可能領域の左端位置を設定します※。
- (18) 印字可能領域の上端位置を設定します※。
- (19) 印字可能領域の幅を設定します※。
- (20) 印字可能領域の高さを設定します※。

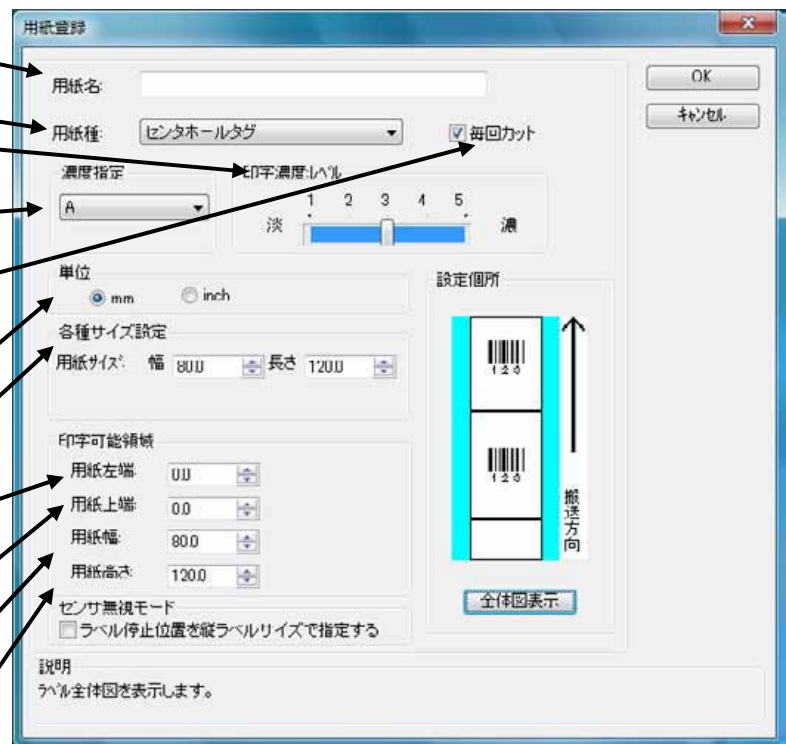
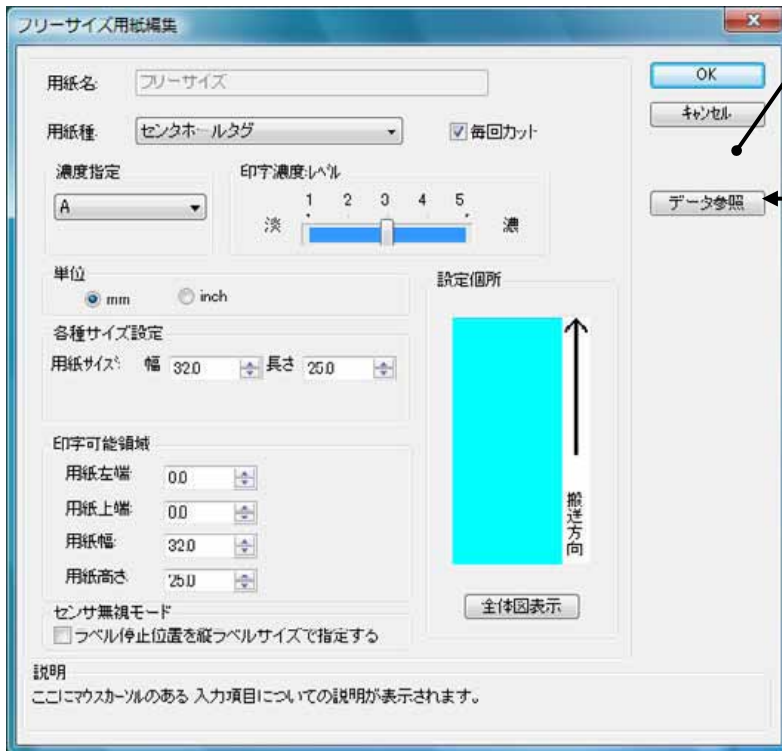


図 1.4.23. 「用紙登録」画面

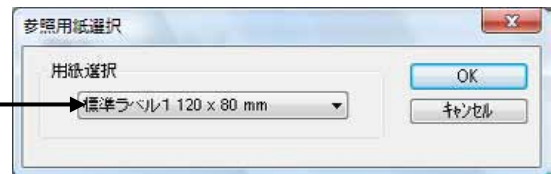
※) 詳細に関しては、P18「用紙について」を参照してください。



設定内容は図 1.4.23 と同様です。

(21) 各設定値を登録済みの用紙から参照します。クリックすることにより 図 1.4.25 に示す画面が表示します。

図 1.4.24. 「フリーサイズ用紙編集」画面

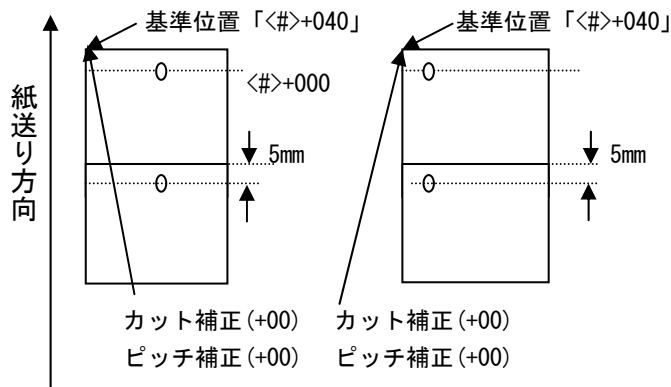


(22) 設定値を参照する用紙を選択します。

図 1.4.25. 「参照用紙選択」画面

### ※基準位置の設定

「センタホールタグ」、「横ホールタグ」を使用した場合、下記のように基準位置を補正する必要があります。「デバイスの設定」画面の「情報を取得」にて情報を取得することで、プリンタにセットされている用紙情報をもとに初期値をセットします。初期値で基準位置が合わない場合は、値を変更してください。



## ※) 用紙について

### ①用紙の規格

本プリンタで使用できる用紙は、「SBPL プログラミングガイド」の「概要」を参照してください。

縦サイズ、横サイズ及びラベル間ギャップサイズの定義を図 1.4.26 に示します。

表 1.4.1 は、SR400 シリーズで使用可能な用紙サイズの規格を示します。

図 1.4.2 や図 1.4.3 に示されている「各種サイズ設定」欄の「用紙サイズ：幅」や「用紙サイズ：長さ」に値を設定する際には、どの用紙タイプを使用する場合においても、便宜上「(a) のりなしタグ・裏アイマーク」に示してある「横サイズ」「縦サイズ」の定義を利用してください。

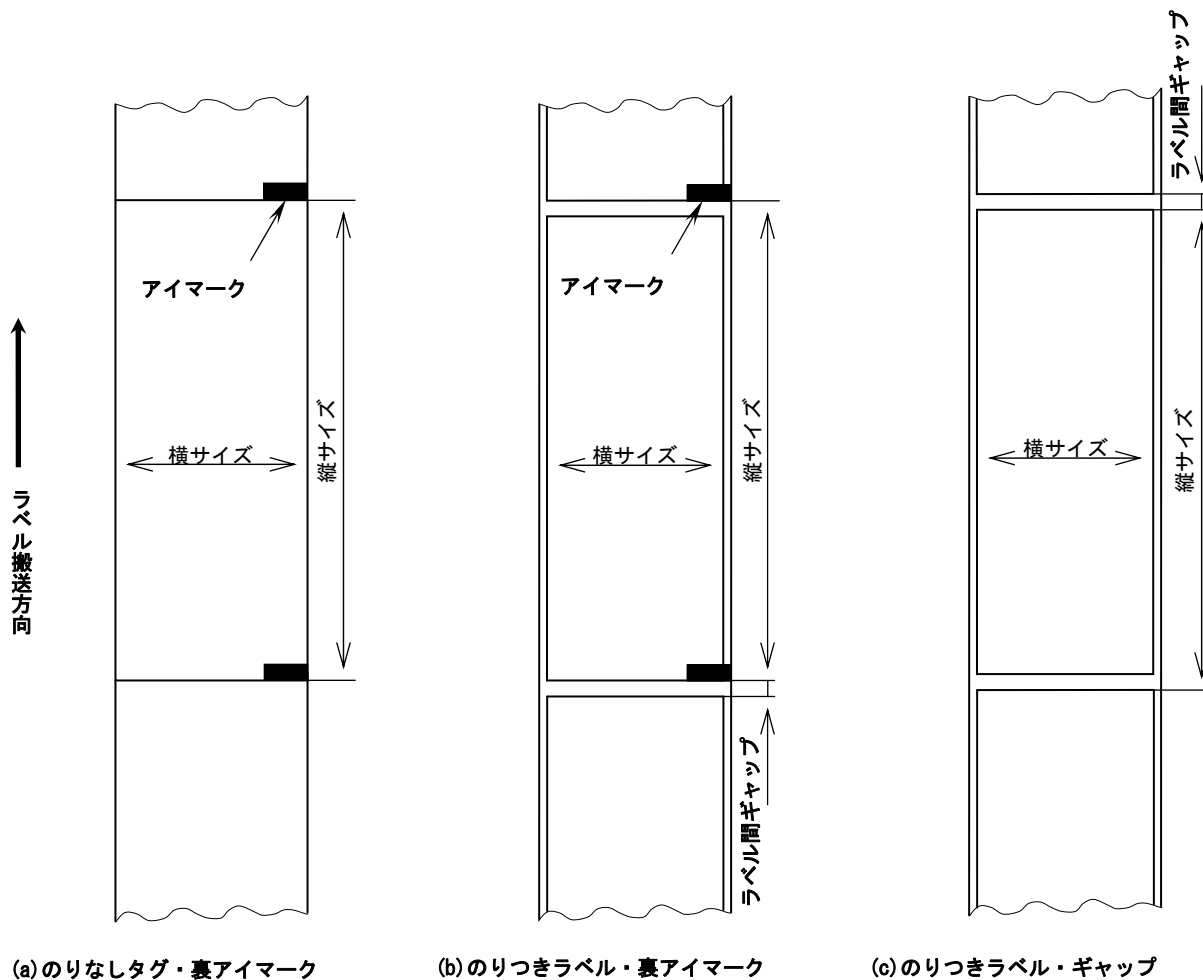


図 1.4.26. 用紙タイプと各サイズの定義

表 1.4.1. 使用可能な用紙サイズの規格 (SR400 シリーズの場合)      単位 (mm)

動作	方向	のりつきラベル	のりなしタグ (ラベルの台紙)
連続動作	縦サイズ	25~397	28~400
	横サイズ	37~128	40~131
カッタ動作	縦サイズ	25~397	28~400
	横サイズ	37~128	40~131
ハクリ動作	縦サイズ	25~397	
	横サイズ	37~128	
ティアオフ動作*	縦サイズ	25~397	28~400
	横サイズ	37~128	40~131

※発行枚数や用紙サイズ、種類により制限する場合があります。

## ②基準位置

ラベルに印字する時にプリンタが基準にしている点を基準位置といいます。図 1.4.27(a)に示すように基準位置の横位置は用紙の左端、縦位置はプリンタが使用するセンサ種によって異なり反射センサ使用時はアイマークの下端、透過センサ使用時はラベルの先頭になります。ただし使用する用紙の幅が幅 107 (mm) 以上の場合は、図 1.4.27 (b)に示すようにサーマルヘッドの左端が基準位置の横位置になります。

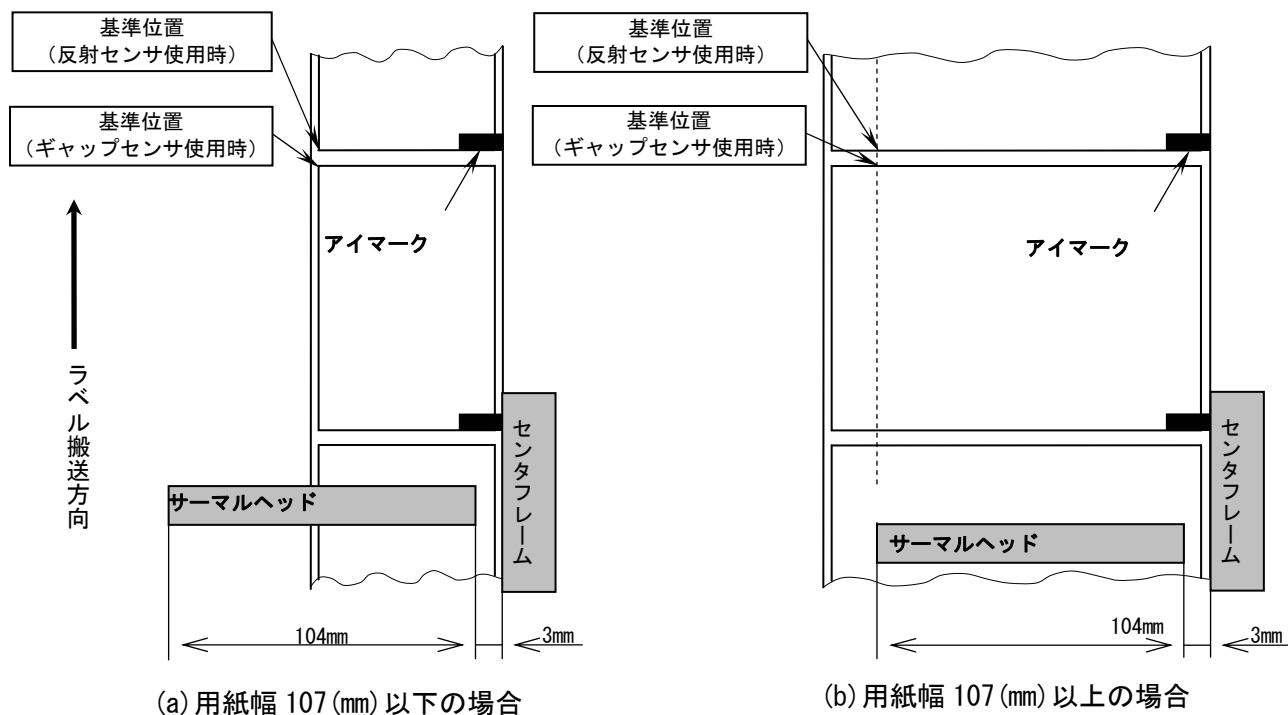


図 1.4.27. 基準位置

## ③基点

基点は印字位置を決める為の原点であり、基準位置から基点補正により設定された位置になります。基点補正を行わない場合は基準位置が基点となります。

図 1.4.1 に示されている「印字基点補正」欄の「縦基点」「横基点」に値を設定することにより図 1.4.28 に示すようにレイアウト全体の印字位置を補正することができます。

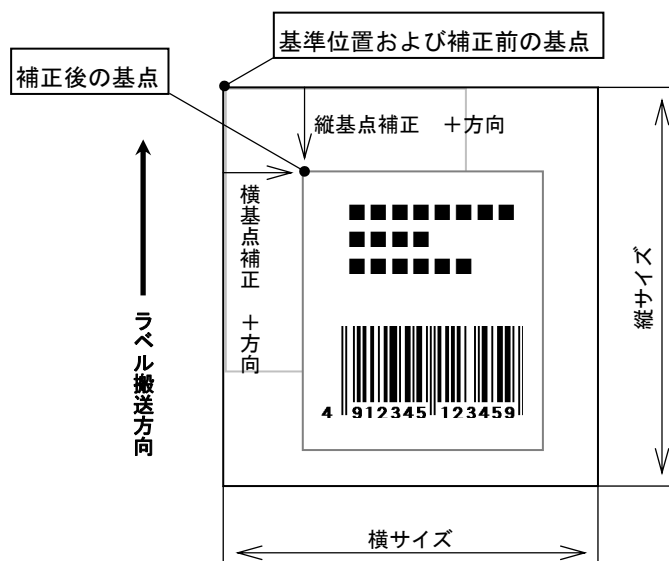


図 1.4.28. 基点補正

#### ④印字可能領域

本プリンタで使用可能な用紙の最大幅は 131 (mm) ですが、印字部であるサーマルヘッドの幅は 104 (mm) であるため、印字可能な領域の最大幅は 104 (mm) となります。また図 1. 4. 29 に示すようにサーマルヘッドの取り付け位置が、用紙右端の固定位置となるセンタフレームより 3 (mm) 離れているため、常にラベル右端から幅 3 (mm) の領域が印字不可能な領域となります。そして用紙幅が 107 (mm) を超える場合にはラベル左端にも印字不可能な領域が生じます。

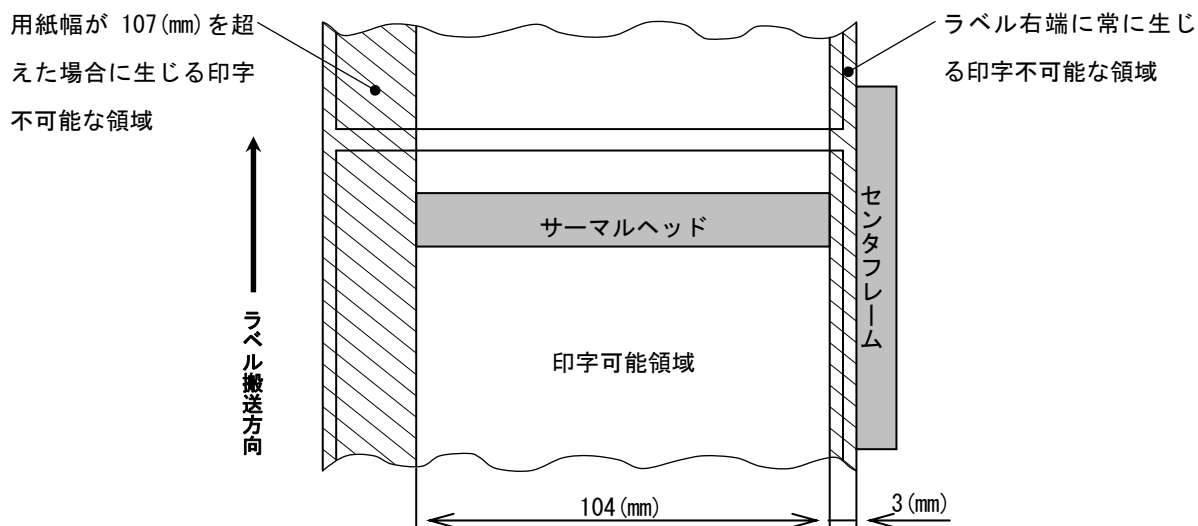


図 1. 4. 29. 印字可能領域

図 1. 4. 2 や図 1. 4. 3 に示されている「印字可能領域」欄の各設定項目には、使用する用紙の幅が 107 (mm) 以下であるか否か、また使用する用紙が「のりなしタグ」であるか「のりつきラベル」であるかに応じて、表 1. 4. 2 を参考に各値を入力してください。

表 1. 4. 2 (a). 「用紙サイズ：幅」が 107 (mm) 以下の場合

単位 (mm)

設定項目	のりなしタグ	のりつきラベル
ラベル左端	0	台紙左端からラベル左端までの値
ラベル上端	0	0 (アイマークセンサ使用時は、「ラベル間ギャップ」の値)
ラベル幅	「用紙サイズ：幅」 - 3	「用紙サイズ：幅」 - 3 - 「ラベル左端」
ラベル高さ	「用紙サイズ：長さ」	「用紙サイズ：長さ」 - 「ラベル間ギャップ」

表 1. 4. 2 (b). 「用紙サイズ：幅」が 107 (mm) より大きい場合

単位 (mm)

設定項目	のりなしタグ	のりつきラベル
ラベル左端	「用紙サイズ：幅」 - 107	「用紙サイズ：幅」 - 107
ラベル上端	0	0 (アイマークセンサ使用時は、「ラベル間ギャップ」の値)
ラベル幅	104	104
ラベル高さ	「用紙サイズ：長さ」	「用紙サイズ：長さ」 - 「ラベル間ギャップ」

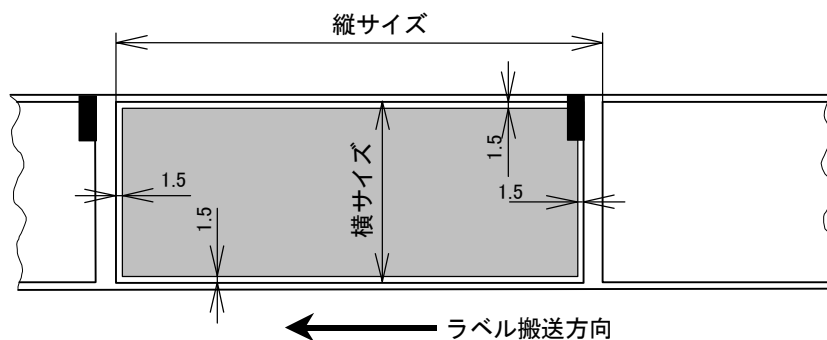
### ⑤用紙上の印字推奨領域

実際に印字レイアウトを作成するには、用紙搬送に伴うピッチ方向の累積誤差や蛇行による印字ズレを考慮する必要があります。

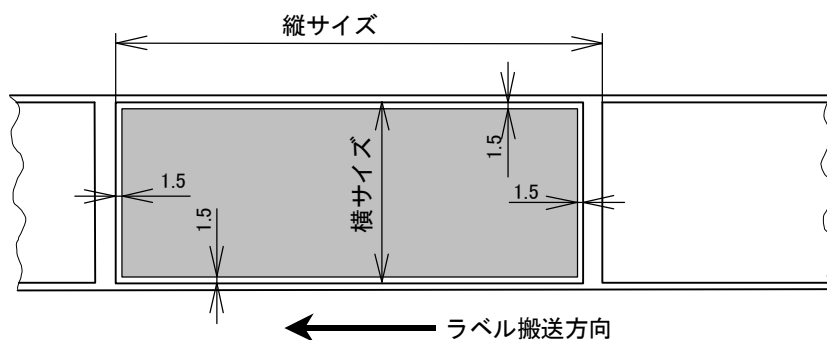
図 1.4.30 に印字推奨領域を示します。

■ : 印字推奨領域  
単位 : mm

#### ◆のりつきラベル・裏アイマーク◆



#### ◆のりつきラベル・ギャップ◆



#### ◆のりなしタグ・裏アイマーク◆

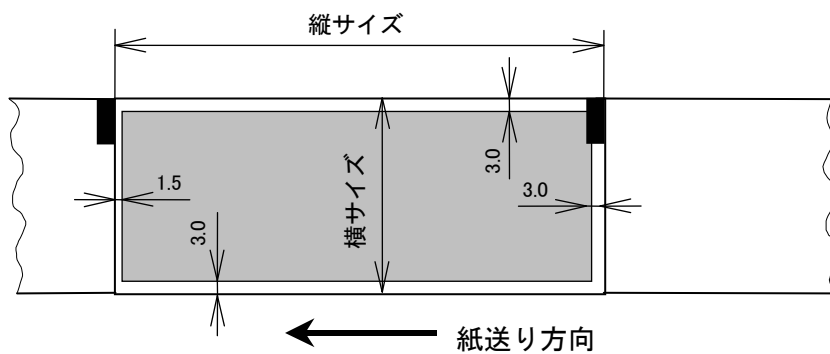


図 1.4.30. 印字推奨領域



## 1.5. 用紙 (MT/MR110w)

図 1.5.1 に「用紙」シートを示します。「用紙」シートには「印刷順序」「台紙コピー数」が新たに追加されており、これらは多面取りラベル使用時のための設定項目であり、横もしくは縦のラベル枚数が 1 に設定されている用紙を使用する際にはマスク表示されます。

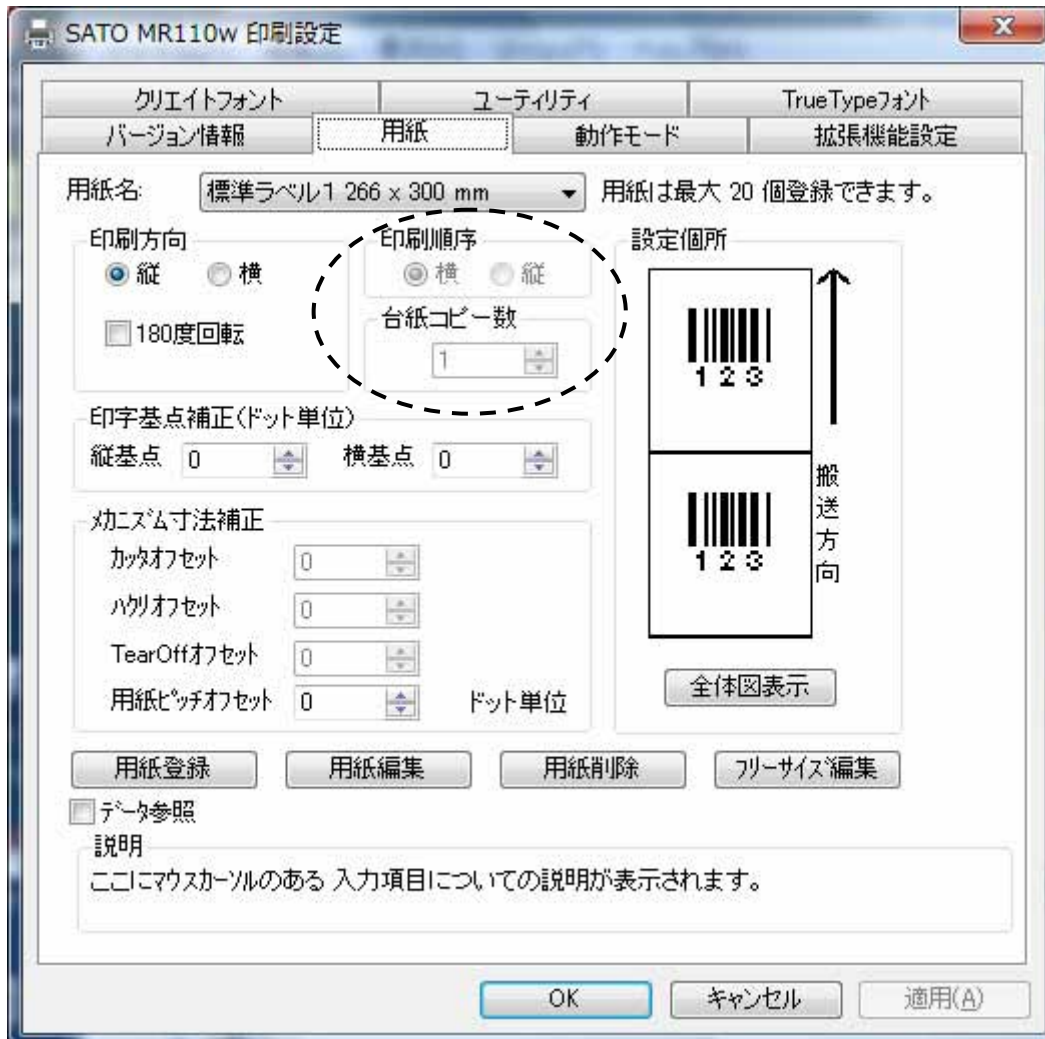


図 1.5.1. 「用紙」画面

ここで多面取りラベルの定義に関して解説いたします。

多面取りラベルは図 1.5.2 に示すように台紙上、縦横に複数枚配置された小ラベルの組合せにより 1 シートが構成されたものです。縦方向の配置枚数は後述いたします「用紙登録」において任意に設定が可能です。ここでの設定により 1 シートの単位が定義されます。

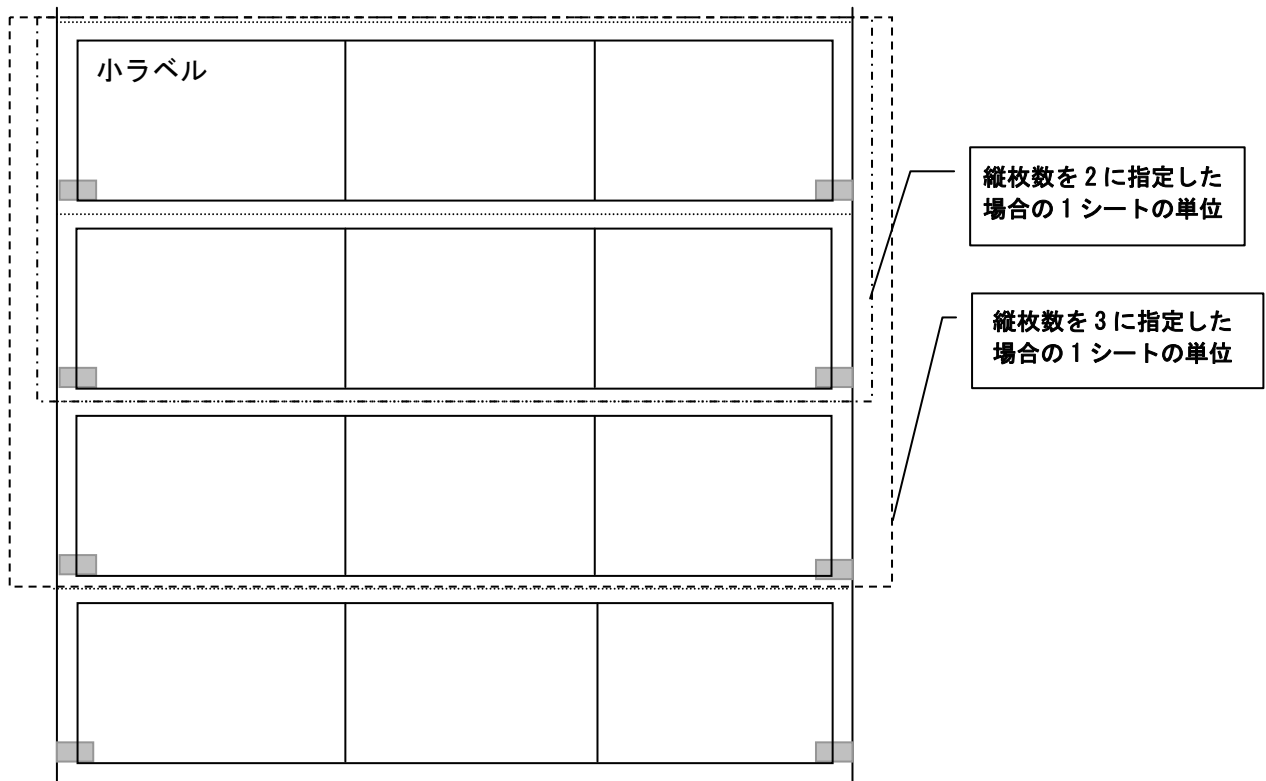


図 1.5.2. 多面取りラベル (横枚数を 3 に指定した場合の例)

## (1) 印刷順序

多面取りラベルを使用する際の印刷順序を指定します。初期値は「横」です。

図 1.5.3 に「印刷順序」の「横」、「縦」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

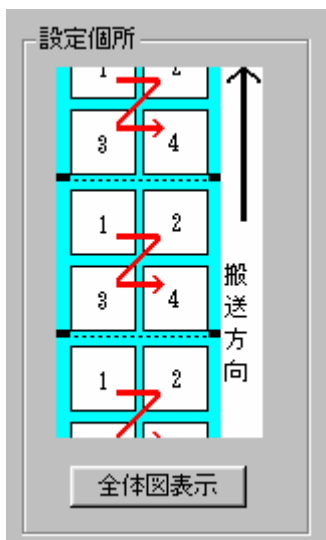


図 1.5.3(a) 印刷順序 横

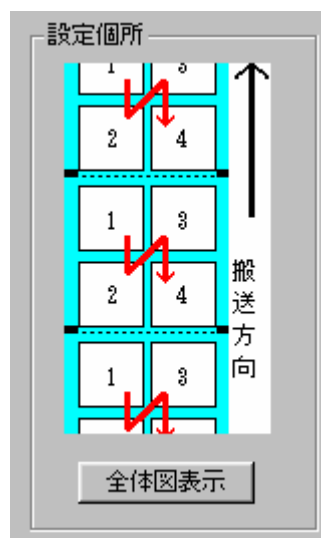


図 1.5.3(b) 印刷順序 縦

## (2) 台紙コピー数

多面取りラベルを使用する際の、台紙単位でのコピー部数を指定します。初期値は「1」です。

図 1.5.4 に「台紙コピー数」に「2」を指定した際の動作概要を示します。

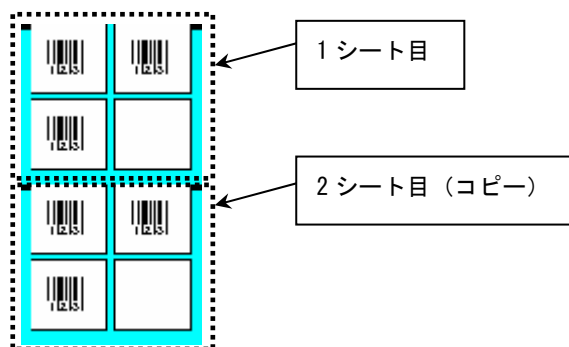


図 1.5.4. 台紙コピーの動作概要

### (3) 用紙登録

図 1.5.5 に「用紙登録」画面を示します。この画面は図 1.5.1 に示す用紙シート内の「用紙登録」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは多面取りラベル用に新たに「ラベル配置設定」項目が追加されております。

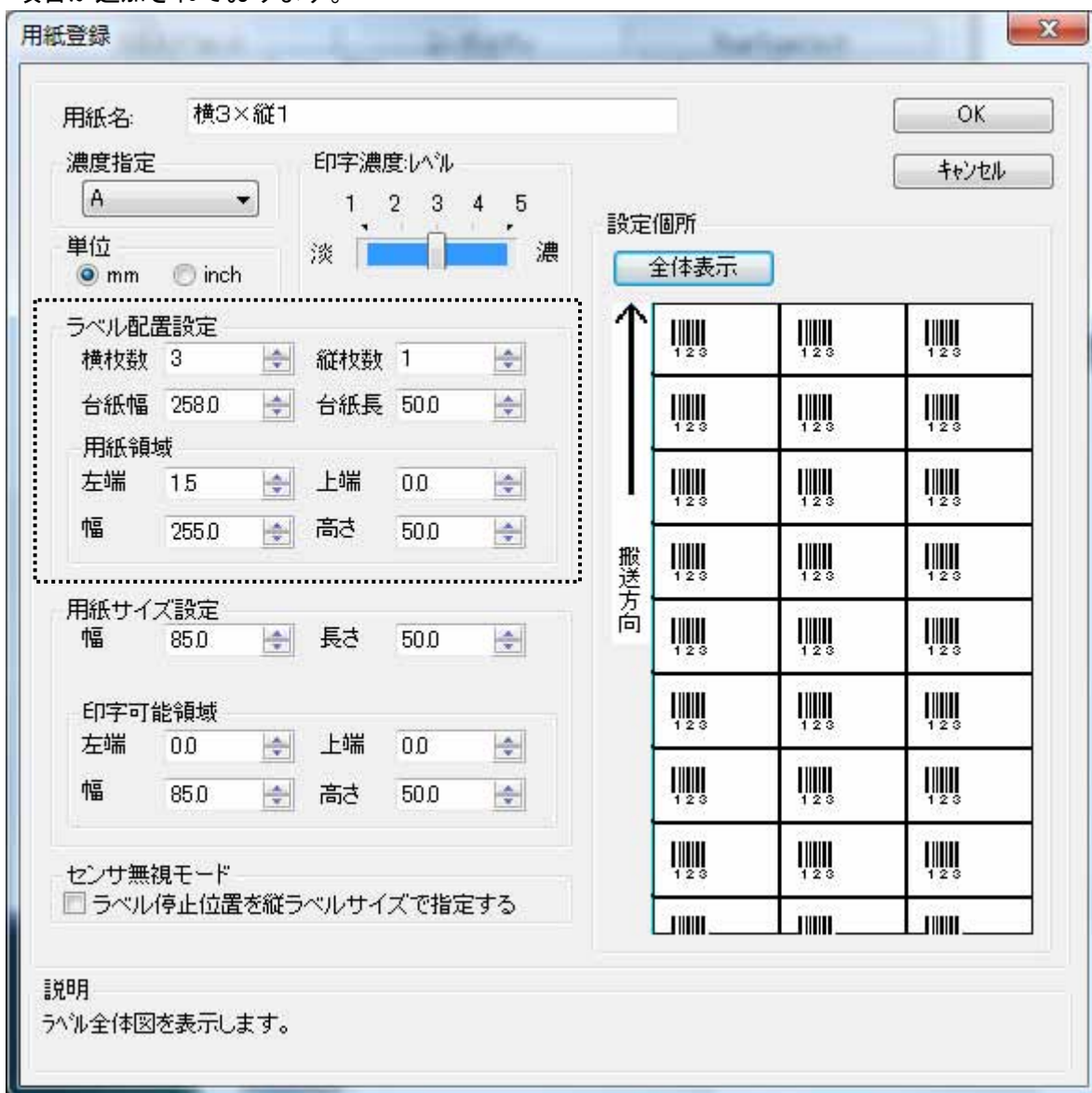


図 1.5.5. 「用紙登録」画面

#### (4) ラベル配置設定

ここでは使用する用紙の1シート内におけるラベル配置に関する設定を行います。

- ①横枚数：1シート内におけるラベルの横方向配置枚数を指定します。

図 1.5.5.1 に「横枚数」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

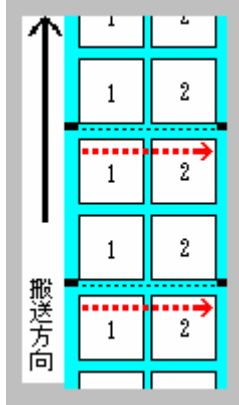


図 1.5.5.1. 「横枚数」設定箇所表示

- ②縦枚数：1シート内におけるラベルの縦方向配置枚数を指定します。

図 1.5.5.2 に「縦枚数」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

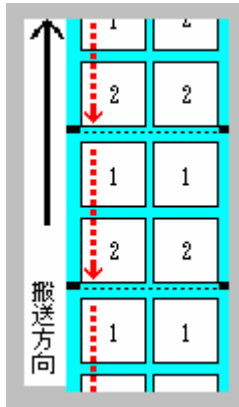


図 1.5.5.2. 「縦枚数」設定箇所表示

- ③台紙幅：台紙幅を指定します。

図 1.5.5.3 に「台紙幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

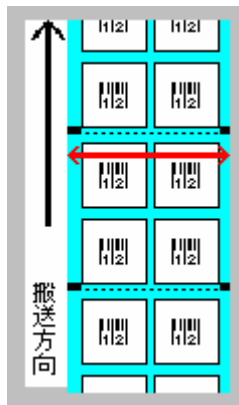


図 1.5.5.3. 「台紙幅」設定箇所表示

④台紙長：台紙の長さを指定します。

図 1.5.5.4 に「台紙長」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

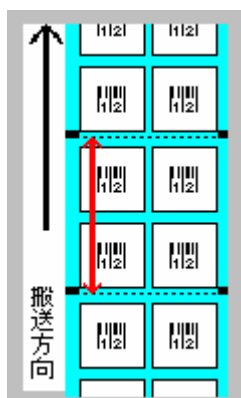


図 1.5.5.4. 「台紙長」設定個所表示

⑤用紙領域

左端：台紙左端から一番左に配置されているラベルの左端までの長さを指定します。

図 1.5.5.5 に「左端」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

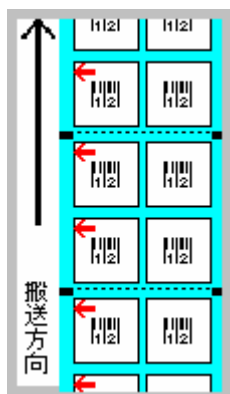


図 1.5.5.5. 「左端」設定個所表示

⑥用紙領域

上端：台紙上端から一番上に配置されているラベルの上端までの長さを指定します。

図 1.5.5.6 に「上端」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

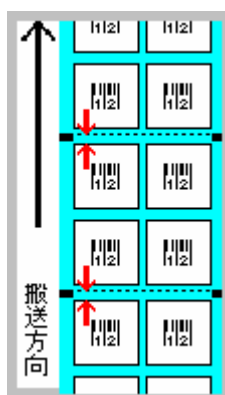


図 1.5.5.6. 「上端」設定個所表示

⑦用紙領域

幅：台紙内の一番左に配置されているラベルの左端から一番右に配置されているラベルの右端までの長さを指定します。

図 1.5.5.7 に「幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

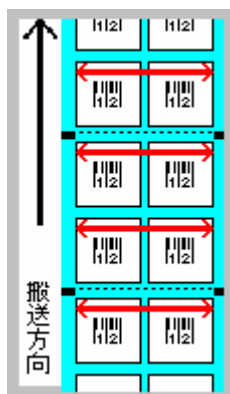


図 1.5.5.7. 「幅」設定箇所表示

⑧用紙領域

高さ：台紙内の一番上に配置されているラベルの上端から一番下に配置されているラベルの下端までの長さを指定します。

図 1.5.5.8 に「高さ」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

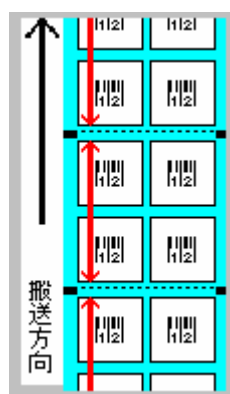


図 1.5.5.8. 「高さ」設定箇所表示

## (5) 用紙サイズ設定

ここでは台紙内に配置されているラベルに対する設定を行います。

①幅：ラベルの幅を指定します。

図 1.5.6.1 に「幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

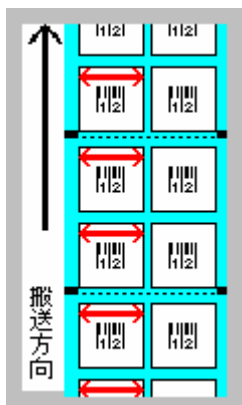


図 1.5.6.1. 「幅」設定箇所表示

②長さ：ラベルの長さを設定します。

図 1.5.6.2 に「長さ」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

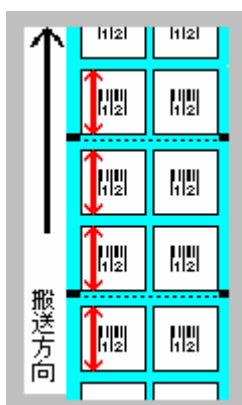


図 1.5.6.2. 「長さ」設定箇所表示



③印字可能領域

左端：ラベル左端からの印字禁止領域を指定します。

図 1.5.6.3 に「長さ」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

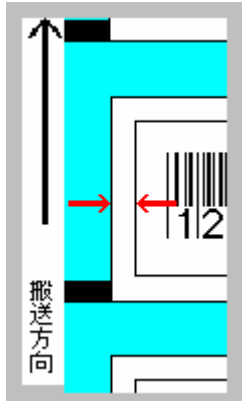


図 1.5.6.3. 「左端」設定個所表示

④印字可能領域

上端：ラベル上端からの印字禁止領域を指定します。

図 1.5.6.4 に「上端」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

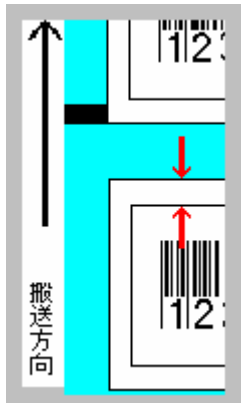


図 1.5.6.4. 「上端」設定個所表示

⑤印字可能領域

幅：ラベル上の印字可能領域幅を指定します。

図 1.5.6.5 に「幅」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

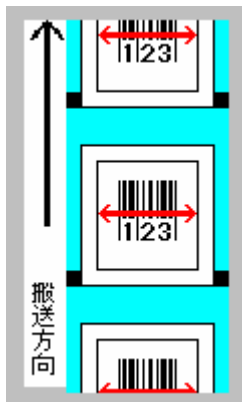


図 1.5.6.5. 「幅」設定個所表示

⑥印字可能領域

高さ：ラベル上の印字可能領域高さを指定します。

図 1.5.6.6 に「高さ」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

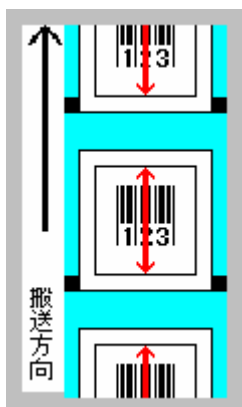


図 1.5.6.6. 「高さ」設定個所表示

## (6) 用紙編集

図 1.5.7 に「用紙編集」画面を示します。この画面は図 1.5.1 に示す用紙シート内の「用紙編集」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは既に登録されている用紙の設定を変更することができます。各設定項目の使用方法は「用紙登録」と同様です。

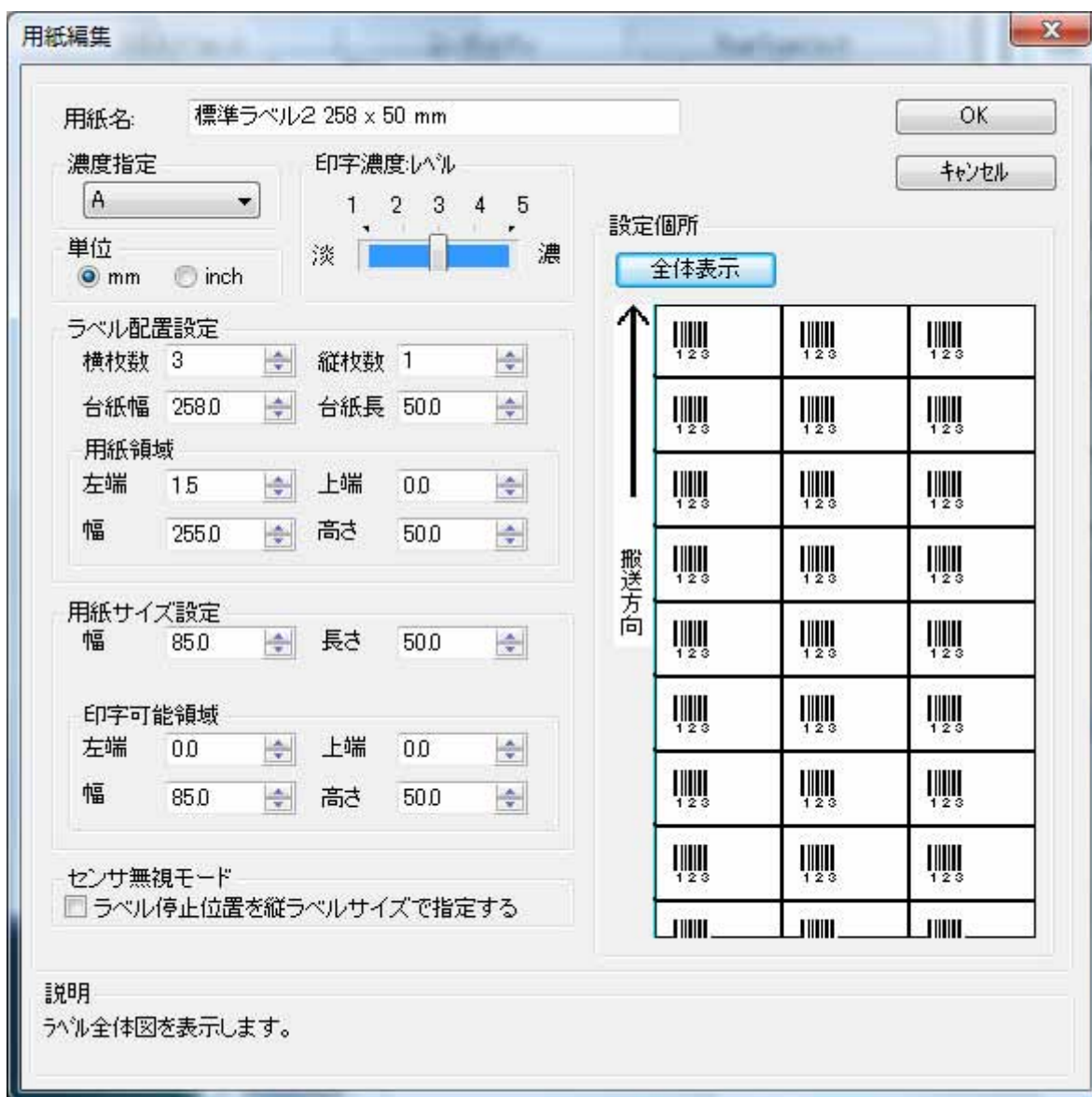


図 1.5.7. 「用紙編集」画面

## (7) フリーサイズ用紙編集

図 1.5.8 に「フリーサイズ用紙編集」画面を示します。この画面は図 1.5.1 に示す用紙シート内の「フリーサイズ編集」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは「フリーサイズ」用紙の設定を変更することができます。各設定項目の使用方法は「用紙登録」と同様です。

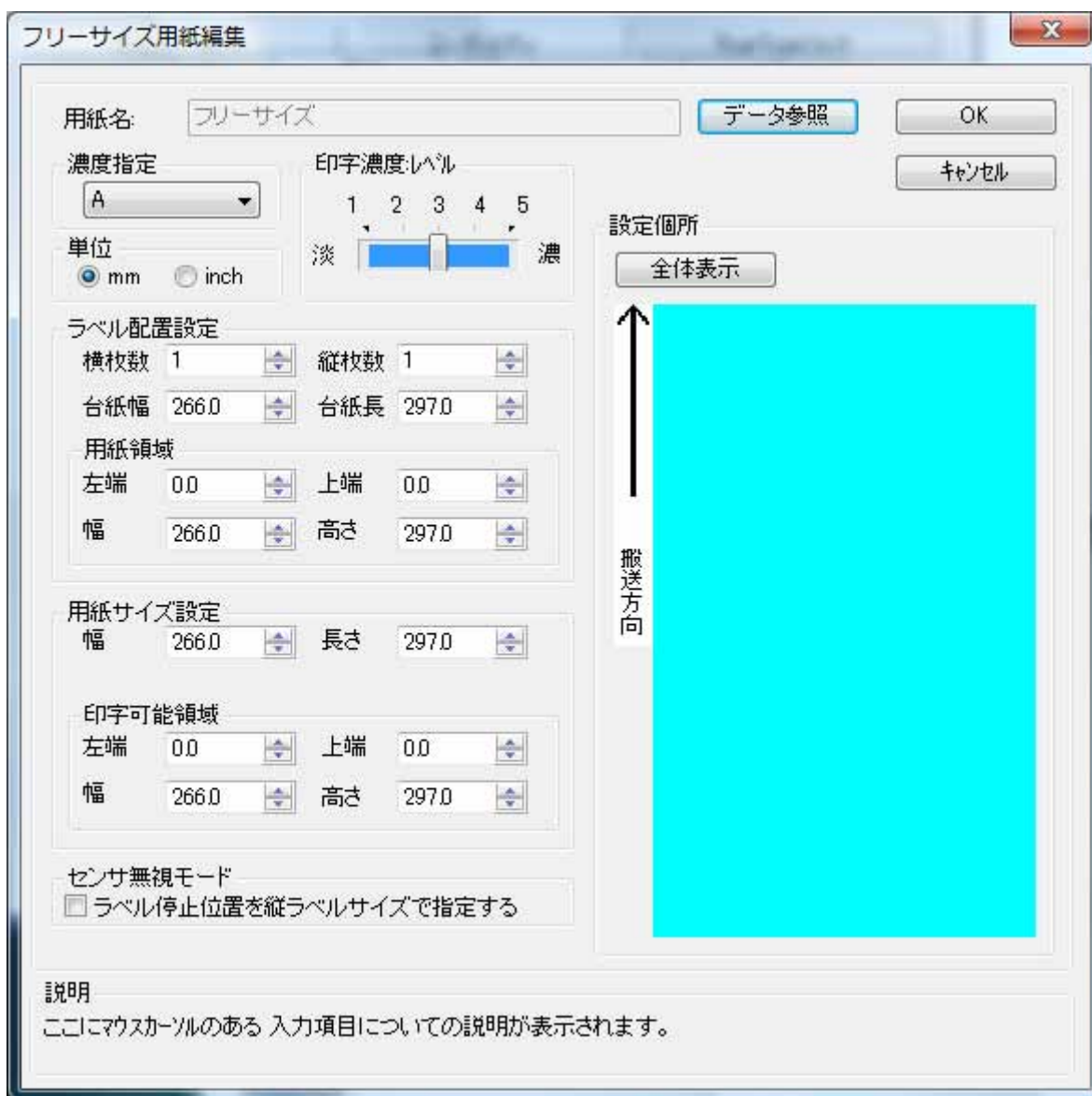


図 1.5.8. 「フリーサイズ用紙編集」画面

## 1.6. TrueType フォント

図 1.6.1 に「TrueType フォント」画面を示します。「TrueType フォント名」にはプリンタに内蔵している TrueType フォントが表示されます。

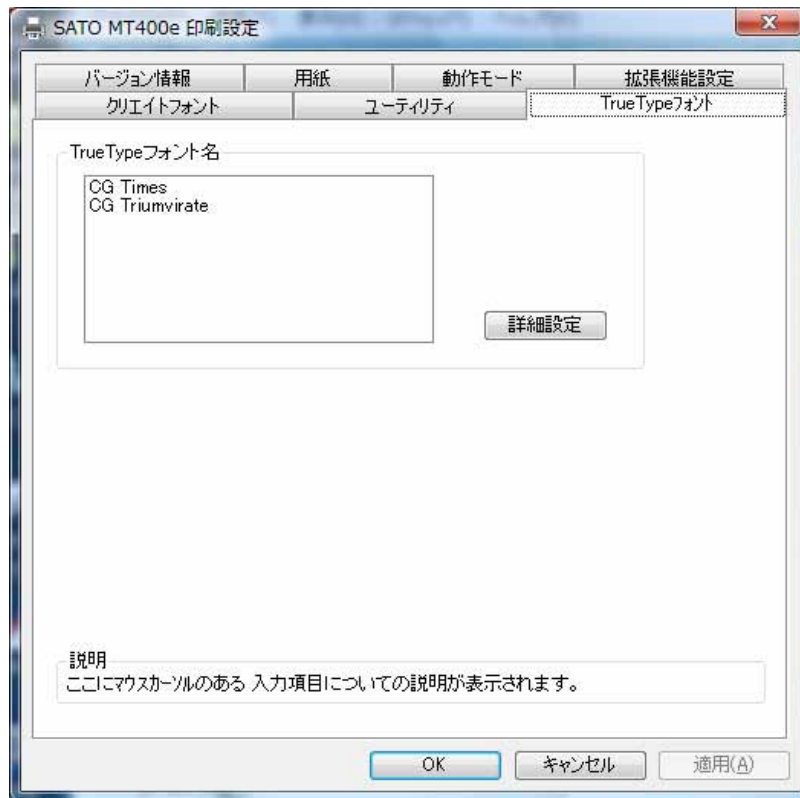


図 1.6.1. 「TrueType フォント」画面

※プリンタ内蔵の TrueType フォントが PC 側にもインストールされている必要があります。  
2 種の TrueType フォント「CG Times」および「CG Triumvirate」は、プリンタドライバのインストール時に PC にインストールされます。

※TASSHA のみ「CG Times」、「CG Triumvirate」、「HG 明朝 L」、「HG ゴシック B」がインストールされます。

図 1.6.1 に示すシート内の「TrueType フォント名」に表示されているフォントを選択し、「詳細設定」ボタンを選択することにより、図 1.6.2 に示す「TrueType フォント詳細設定」画面が表示されます。ここでは選択した TrueType フォントに対して以下の設定を行うことができます。



図 1.6.2. 「TrueType フォント詳細設定」画面

#### ① フォント種別

レジデントフォントコマンドとして出力するのかビットイメージコマンドとして出力するのかを指定します。

#### ② 連番設定

選択した TrueType フォントに連番機能を設定することができます。この機能は「クリエイティブフォント」シートにおける「装飾フォント」の「連番設定」機能と同様です。

「フォント種別」において「ビットイメージコマンド」を指定した場合には連番設定項目はマスク表示され設定不可になります。

※TASSHA のみ連番設定機能はありません。

## 1.7. 動作モード

### 1.7.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、MT/MR110w、TASSHA

図 1.7.1 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

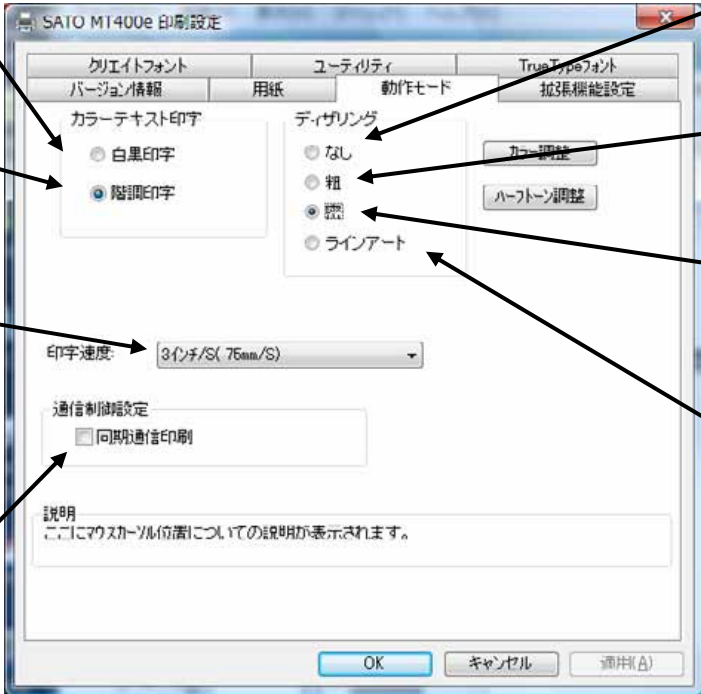
- 
- (1) カラーテキスト印字を白黒印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。
- (2) カラーテキスト印字を階調印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。
- (3) デザリングをなしに指定します。濃淡印字を行いません。
- (4) デザリングを粗に指定します。写真等を印字する場合に指定します(305dpi 推奨)。
- (5) デザリングを密に指定します。写真等を印字する場合に指定します(203dpi 推奨)。
- (6) デザリングをラインアートに指定します。濃淡の境界がはっきりしたイラスト等を印字する場合に指定します。
- (7) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。
- (8) 通信制御設定を指定します。同期通信印刷チェックボックスにチェックすることで同期通信印刷になります。※

図 1.7.1. 「動作モード」画面

#### ※同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚(1アイテム)ごとに確認しながら出力します。

## 1.7.2. TR400e/TR410e、ST308R/312R、RT308R

図 1.7.2 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

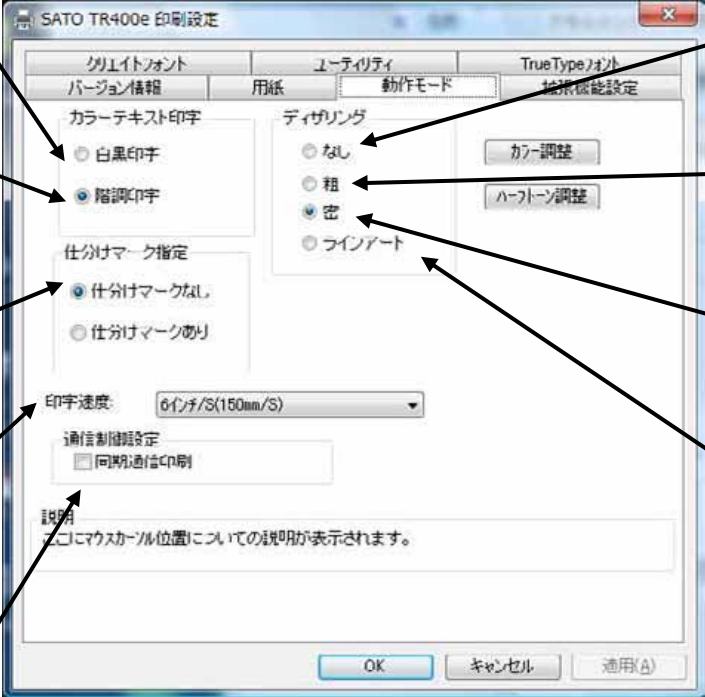
- 
- (1) カラーテキスト印字を白黒印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。
- (2) カラーテキスト印字を階調印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。
- (3) 仕分けマーク指定をありにすることでタグのエッジにマークをつけます。(※1)
- (4) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。
- (5) デザリングをなしに指定します。濃淡印字を行いません。
- (6) デザリングを粗に指定します。写真等を印字する場合に指定します。(TR410e 推奨)。
- (7) デザリングを密に指定します。写真等を印字する場合に指定します。(TR400e、RT308R 推奨)。
- (8) デザリングをラインアートに指定します。濃淡の境界がはっきりしたイラスト等を印字する場合に指定します。
- (9) 通信制御設定を指定します。同期通信印刷チェックボックスにチェックすることで同期通信印刷になります。(※2)

図 1.7.2. 「動作モード」画面

### ※1 仕分けマーク

仕分けマークは、「デバイスの設定」画面の「情報を取得」をクリックし、現在プリンタに設定されている用紙によって、設定有効・無効の表示になります。

設定有効の用紙：「センタホールタグ」「横ホールタグ」「角Rタグ」「タグアイマーク」

設定無効の用紙：「ラベルギャップ」「ラベルアイマーク」

### ※2 同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚（1アイテム）ごとに確認しながら出力します。



### 1.7.3. SR400 シリーズ

図 1.7.3 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) カラーテキスト印字を白黒印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。

(2) カラーテキスト印字を階調印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。

(6) プロトコルの選択を行います。※プリンタ側も同じ設定にしてください。(※2)

(7) 通信制御設定を指定します。同期通信印刷チェックボックスにチェックすることで同期通信印刷になります。(※1)

(3) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。

(4) 反射センサ1、反射センサ2、透過センサ、センサ無視の選択をします。

(5) プリンタ動作を指定します。

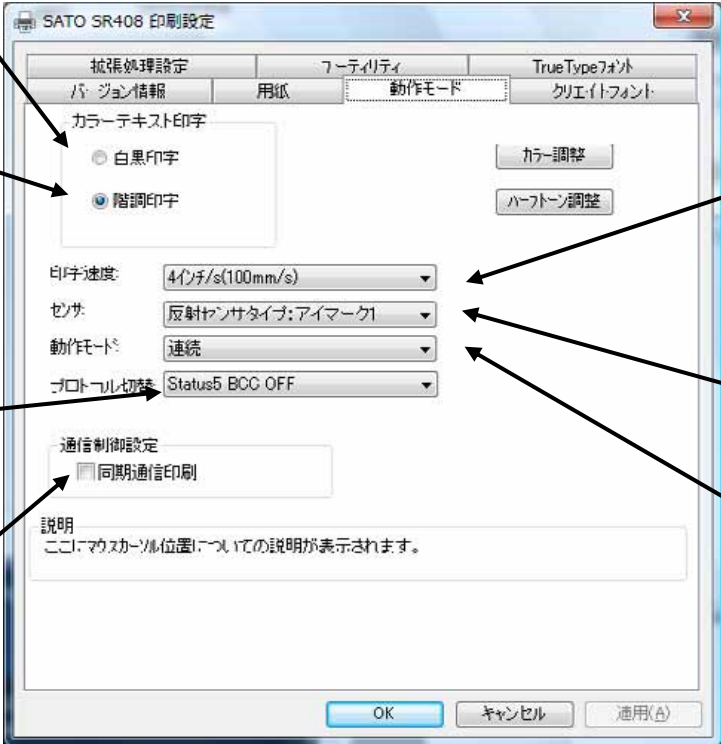


図 1.7.3. 「動作モード」画面

#### ※1 同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚(1アイテム)ごとに確認しながら出力します。

#### ※2 プロトコル選択

Status5 BCC 無し(初期値)、Status5 BCC あり、Status4 の3種類あります。Status4 で、LAN を使用する場合には ENQ 応答しかありません。

## 1.7.4. エヴィ シリーズ

図 1.7.4 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

- (1) カラーテキスト印字を白黒印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。
- (2) カラーテキスト印字を階調印字に指定します。文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。
- (3) デザリングをなしに指定します。濃淡印字を行いません。
- (4) デザリングを粗に指定します。写真等を印字する場合に指定します (305dpi 推奨)。
- (5) デザリングを密に指定します。写真等を印字する場合に指定します (203dpi 推奨)。
- (6) デザリングをラインアートに指定します。濃淡の境界がはっきりしたイラスト等を印字する場合に指定します。
- (7) 印字速度を選択します。90 度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。
- (8) プリンタ動作を指定します。
- (9) 通信制御設定を指定します。同期通信印刷チェックボックスにチェックすることで同期通信印刷になります。※

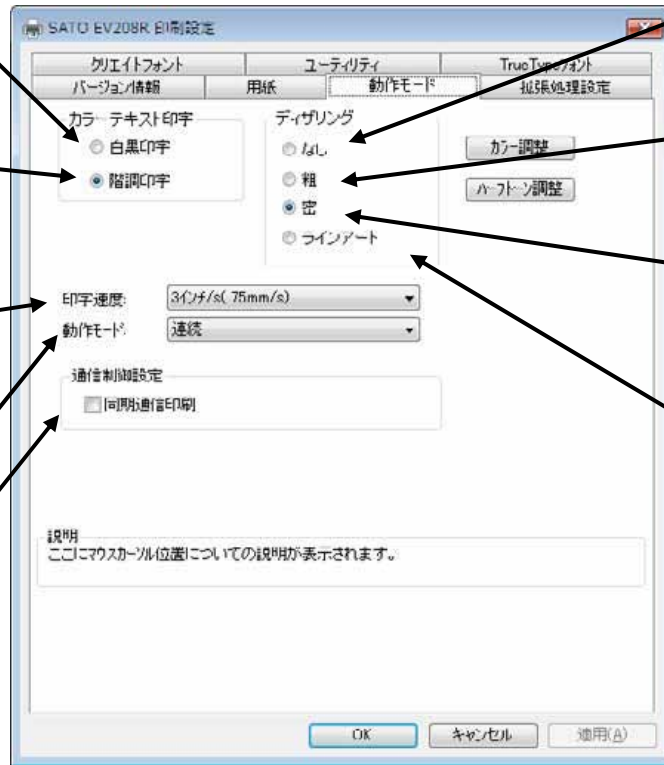


図 1.7.4. 「動作モード」画面

### ※同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚(1アイテム)ごとに確認しながら出力します。

## 1.8. 拡張処理設定

図 1.8.1 に「拡張処理設定」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

- (1) コントロールフォントによるカット処理を使用しません\*。
- (2) コントロールフォントによるカット処理を使用します\*。
- (3) 指定された枚数毎にカットします\*。
- (4) 指定枚数カットを行いません。
- (5) 印刷終了時に用紙をカットします\*。
- (6) 通常印刷を行います。
- (7) 印刷時、呼出しキーで指定されたオーバーレイと合成して印刷を行います。
- (8) プリンタのオーバーレイ領域に印字データを書き込みます。実際に印字は行われません。既にオーバーレイが格納されている場合は上書きします。「コメント」に入力したオーバーレイの説明も同時に登録されます。
- (9) 登録済みオーバーレイを削除します。
- (10) 登録済みオーバーレイの情報を取得します。

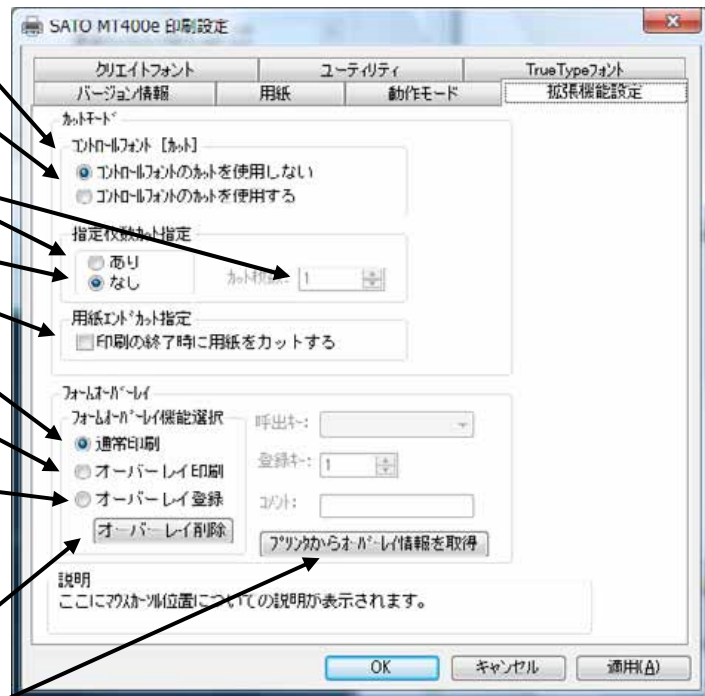


図 1.8.1. 「拡張処理設定」画面

### ※) コントロールフォント

コントロールフォントのカットを使用すると、アプリケーションソフトにより印字レイアウトを作成すると同時に、そのレイアウトを印字する際のカット動作も指定することができます。カット指定コマンドには「CT」と「~」の2種類があり、コントロールフォント自体もコマンドの指定方法に応じて2種類あります。

#### ① 「CT」および「~」のカット動作

両コマンド共に何枚毎にカットするのかを指定するものですが、印刷枚数に対する動作が次のように異なります。

例) 指定カット枚数 2、印刷枚数 3 を指定した場合

#### ◇ 「CT」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットし、全部で3枚発行します。

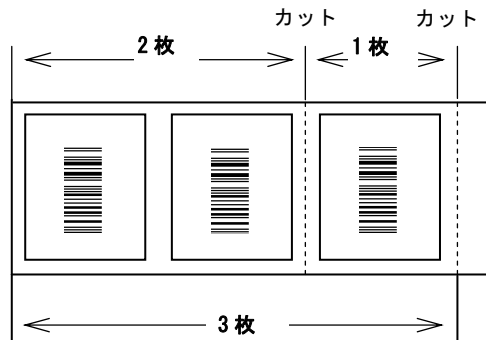


図 1.8.2. 「CT」コマンドによるカット動作

◇「~」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットしたものを3部発行します。

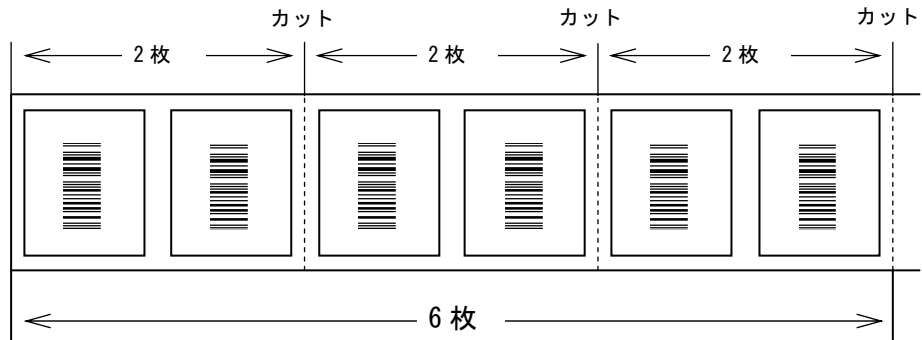


図 1.8.3. 「~」コマンドによるカット動作

②コントロールフォントの指定

◇プリンタコントロール(コマンド)による指定◇

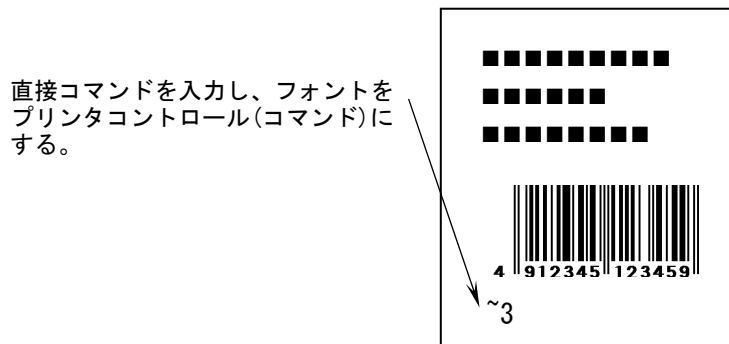


図 1.8.4. プリンタコントロール (コマンド) による指定

◇プリンタコントロール(ファイル)による指定◇

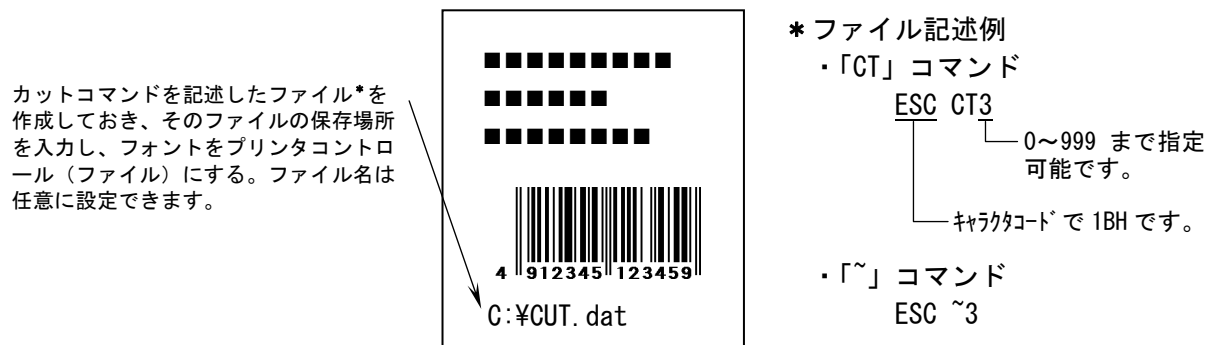


図 1.8.5. プリンタコントロール(ファイル)による指定

## 1.9. デバイスの設定

### 1.9.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、MT/MR110w、TASSHA

「ユーティリティ」タブの「デバイスの設定」をクリックします。

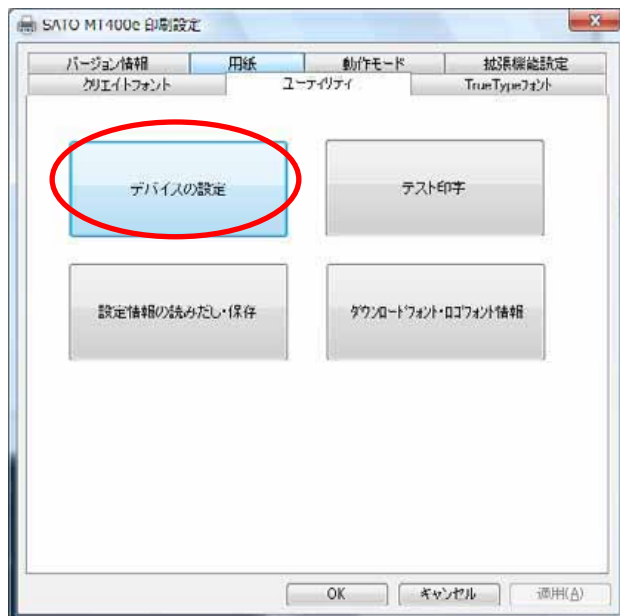


図 1.9.1. 「ユーティリティ」画面

図 1.9.2 に「デバイスの設定」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) (2)の「情報を取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより一時的に設定を変更することも可能です。ただし、プリンタ本体のDSWが有効になります。

(2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

(3) 接続されているプリンタファームウェア情報を取得します。

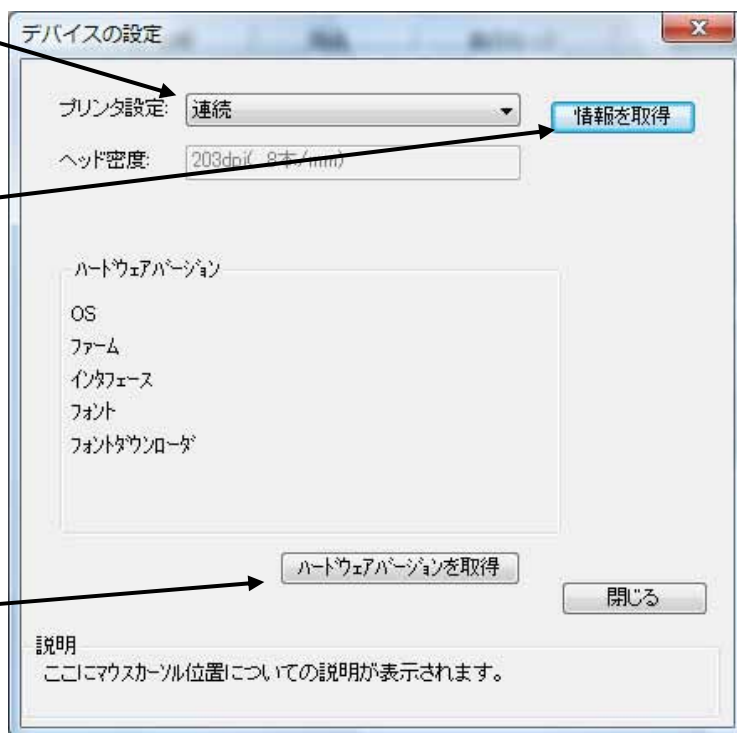


図 1.9.2. 「デバイスの設定」画面

## 1.9.2. TR400e/410e、ST308R/312R、RT308R

「ユーティリティ」タブの「デバイスの設定」をクリックします。

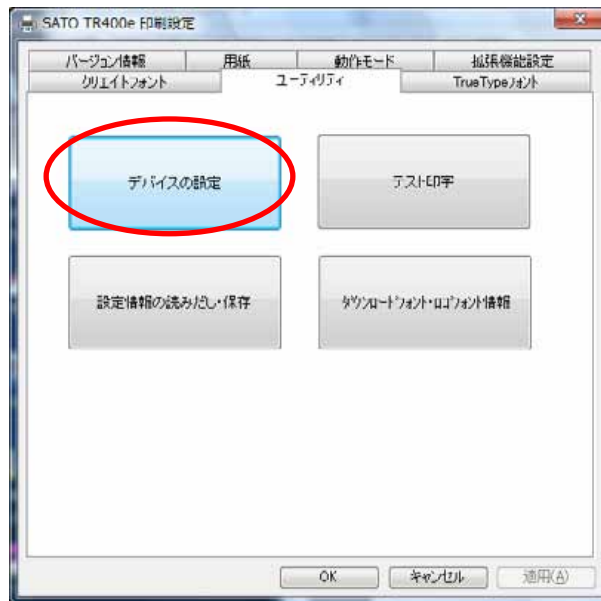


図 1.9.3. 「ユーティリティ」画面

図 1.9.4 に「デバイスの設定」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) (2)の「情報を取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより一時的に設定を変更することも可能です。ただし、プリンタ本体のDSWが有効になります

(2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

(3) 接続されているプリンタのファームウェア情報を取得します。

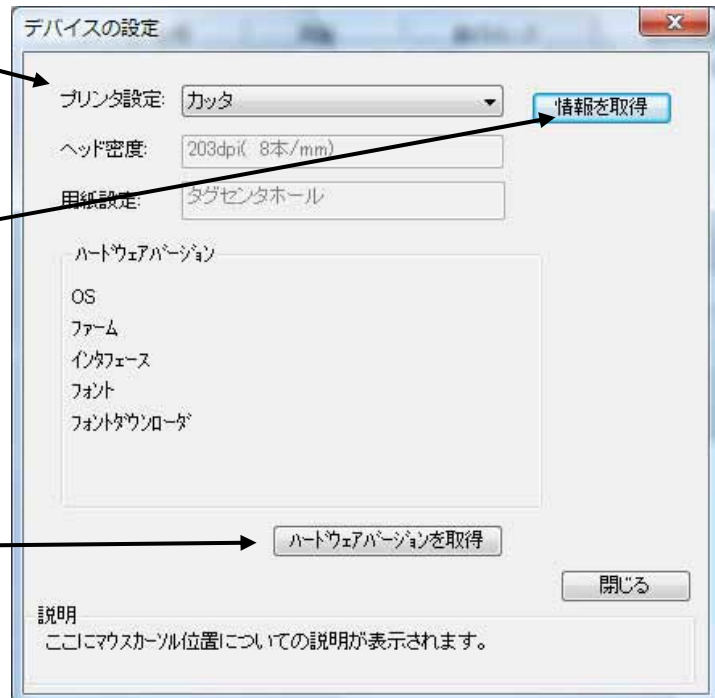


図 1.9.4. 「デバイスの設定」画面

**注意：**プリンタドライバをインストールした後、使用するインタフェースにてパソコンとプリンタを接続し、必ず「情報を取得」をクリックしてください。

### 1.9.3. SR400 シリーズ、エヴィ シリーズ

「ユーティリティ」タブの「デバイス情報取得」をクリックします。

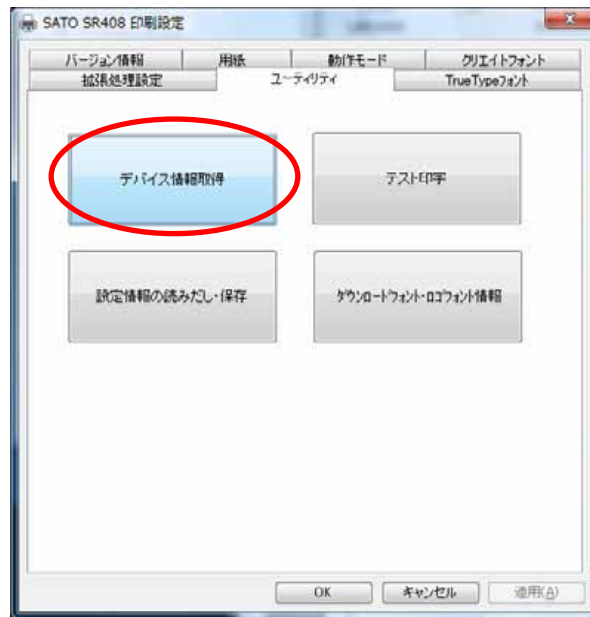


図 1.9.5. 「ユーティリティ」画面

図 1.9.6 に「デバイスの設定」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) (2)の「情報を取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより設定を変更することも可能です。  
※プリンタの設定により、本体優先、コマンド優先のどちらかになります。

(2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

(3) 接続されているプリンタファームウェア情報を取得します。

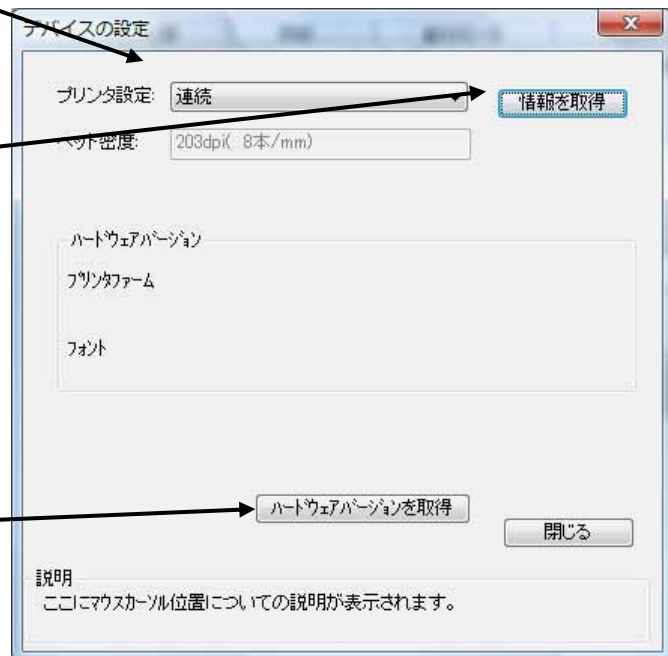


図 1.9.6. 「デバイスの設定」画面

#### 【 制限事項 】

1. LAN、無線 LAN を使用した場合、Status4 では印刷 Job を発行しないと情報取得、ハードウェアバージョン取得に失敗します。Status5 で使用していただくか、1度テスト印字を行ってから情報取得を行ってください。本制限事項は、Windows のポートモニタの仕様によるものです。

## 1.10. クリエイトフォント

図 1.10.1 に「クリエイトフォント」画面を示します。ここでは「装飾フォント」と「バーコードフォント」の設定を行います。

「装飾フォント」とは、レジデントフォントに対して倍率や回転角度、連番機能等を任意に設定し、それらの設定を反映させた状態のフォントを1つのフォントとして登録したものです。アプリケーションソフトの書類上にデータを入力し、そのデータのフォントを装飾フォントにすることにより、印字結果には倍率や回転角度、連番等の設定が反映されます（アプリケーションソフトの編集画面上には反映されません）。「バーコードフォント」とは、アプリケーションソフトの書類上に入力したデータのフォントをバーコードフォントにすることにより、印字の際にはそのデータがバーコード化されるというものです。

装飾フォントとバーコードフォントは合計 70 個まで登録可能です。

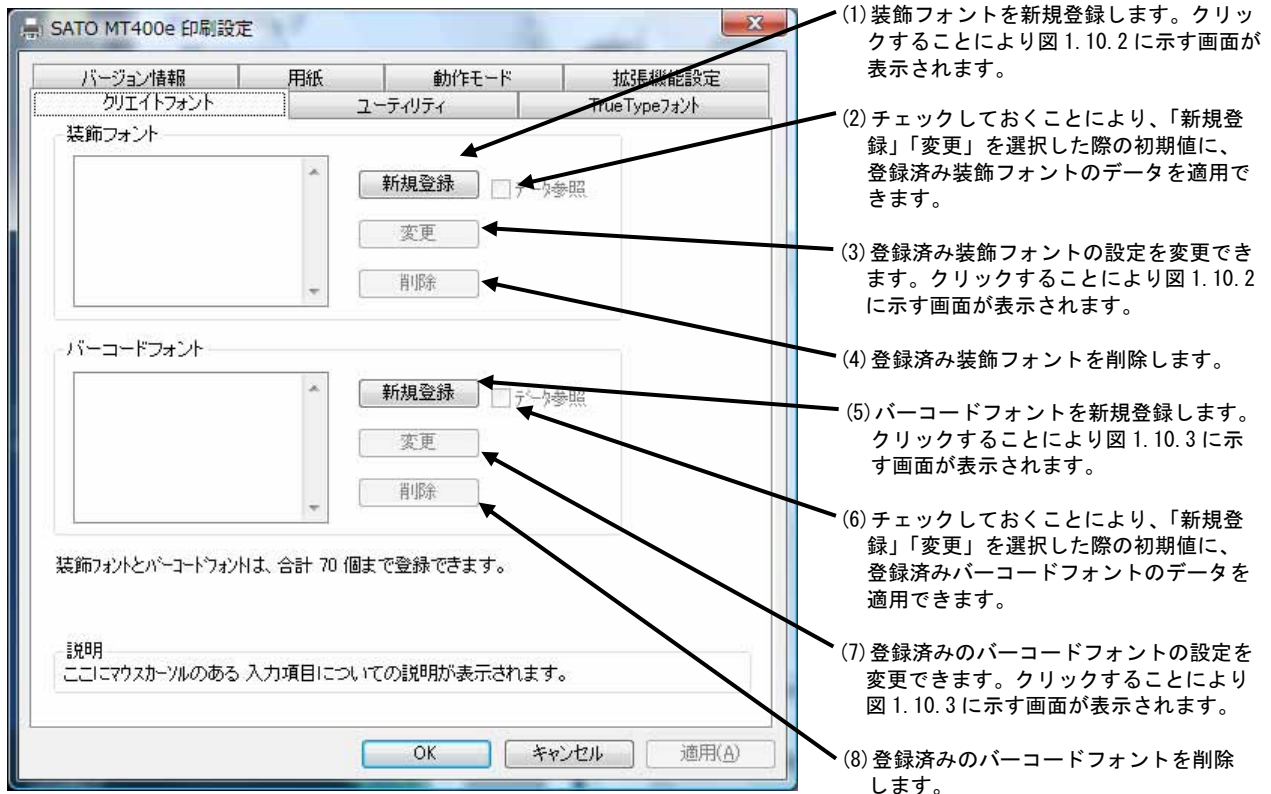


図 1.10.1. 「クリエイトフォント」画面



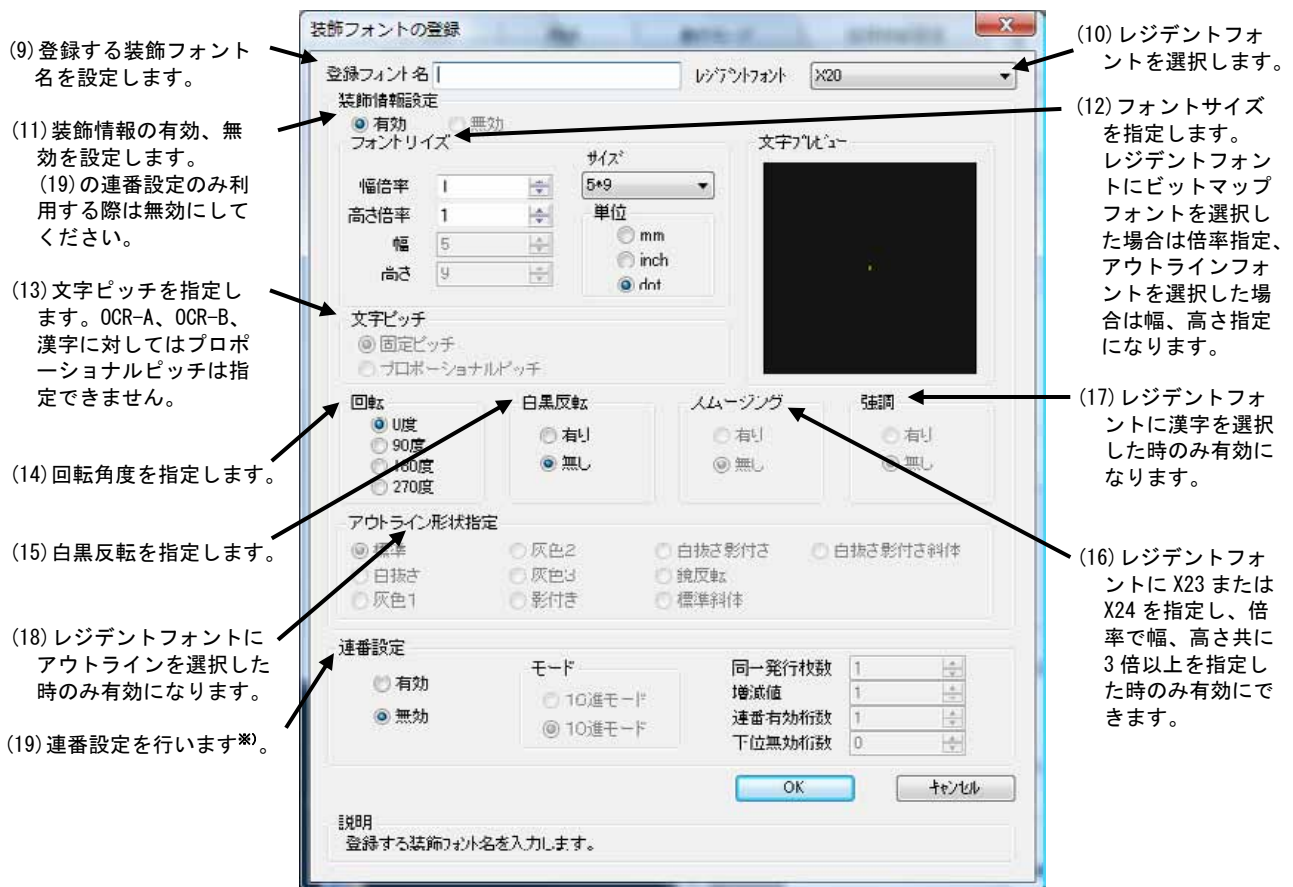


図 1. 10. 2. 「装飾フォントの登録」画面

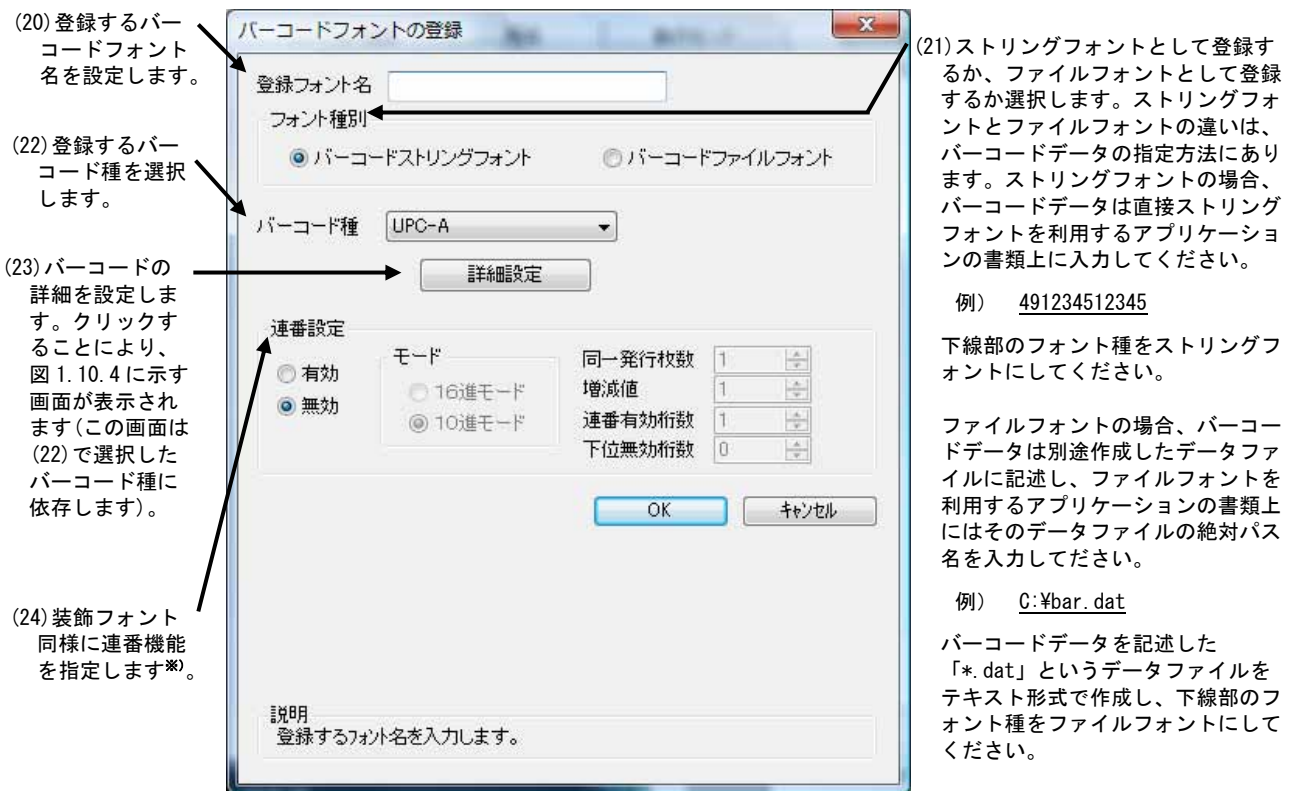


図 1. 10. 3. 「バーコードフォントの登録」画面



図 1.10.4. 「UPC-A 詳細設定」画面

図 1.10.3 の(22)「バーコード種」で選択したバーコードに対応した詳細設定ダイアログが表示されます。以下に登録可能なバーコードの種類を示します。

- UPC-A
- UPC-E
- JAN-8/EAN-8
- JAN-13/EAN-13
- CODE39
- CODE93
- CODE128 (128A、128B、128C)
- GS1-128 (UCC/EAN128)
- ITF
- インダストリアル 2of5
- マトリックス 2of5
- CODABAR (NW-7)
- カスタマバーコード
- QR コード(モデル 1)
- QR コード(モデル 2)
- QR コード(マイクロ QR)
- PDF417
- MAXI コード
- GS1 データマトリックス (ECC200)
- マイクロ PDF
- 合成シンボル



図 1.10.5. 「合成シンボル詳細設定」画面

図 1.10.3 の(22)「バーコード種」で「合成シンボル」を選択した場合に表示される詳細設定ダイアログです。

**【注意】**

※プリンタドライバのクリエイティブフォントでは、UPC アドオンコードは未対応となります。

## ※) 連番設定例

図 1.10.2(19)、図 1.10.3(24) の連番設定における各項目の内容を以下に示します。

有効・無効	: 連番設定を有効にするか無効にするか選択します。無効にする際は図 1.10.2(11) の装飾情報設定が有効になっている必要があります。
16 進モード・10 進モード	: 連番の対象を 16 進数とみなすか 10 進数とみなすか設定します。
同一発行枚数	: 何枚発行する度に連番させるか設定します。
増減値	: 連番毎の加算値または減算値を設定します。
連番有効桁数	: 連番させる桁数を設定します。
下位無効桁数	: 連番させる最小桁以下の桁数を設定します。

モード : 16 進モード      同一発行枚数 : 2      増減値 : 5      連番有効桁数 : 2      下位無効桁数 : 3  
 印字データの初期値 : 00F8001 とした場合  
 連番有効桁は図 1.10.6 に示すようになります。

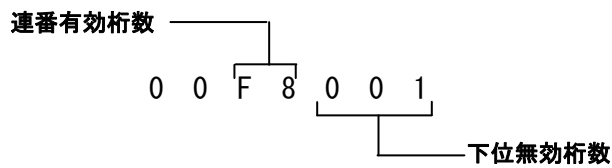


図 1.10.6. 連番有効桁

連番動作は図 1.10.7 に示すようになります。

発行枚数	印字データ	
1 枚目	00F8001	同一発行枚数 2
2 枚目	00F8001	
3 枚目	00FD001	
4 枚目	00FD001	
5 枚目	0002001	
6 枚目	0002001	
7 枚目	0007001	
8 枚目	0007001	

図 1.10.7. 連番動作

## 1.11. ユーティリティ

### 1.11.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ

図 1.11.1 に「ユーティリティ」画面を示します。ここでは以下のサブ画面の表示を行います。

- (1) デバイスの設定の画面を開きます。
- (2) テスト印字の画面を開きます。
- (3) 設定情報読みだし・保存の画面を開きます。
- (4) ダウンロードフォント・ロゴフォント情報の画面を開きます。

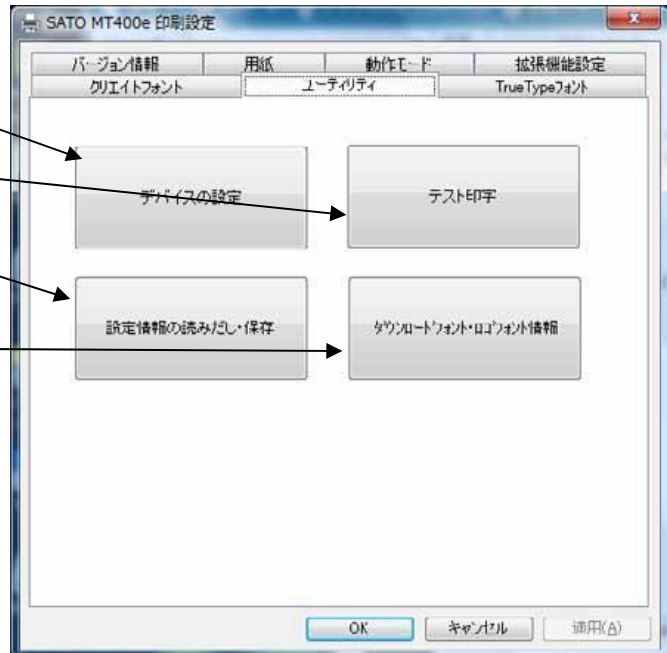


図 1.11.1. 「ユーティリティ」画面

## 1.12. ダウンロードフォント・ロゴフォント情報

### 1.12.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ

「ユーティリティ」画面の「ダウンロードフォント・ロゴフォント情報」をクリックします。

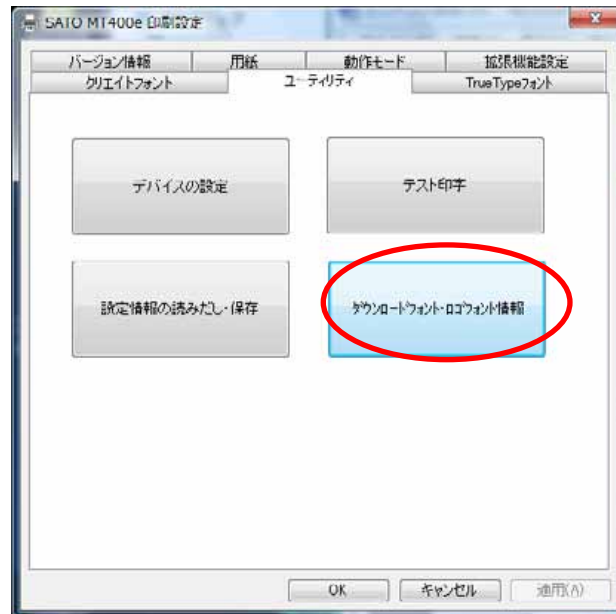


図 1.12.1. 「ユーティリティ」画面

図 1.12.2 に「ダウンロードフォント・ロゴフォント情報」画面を示します。

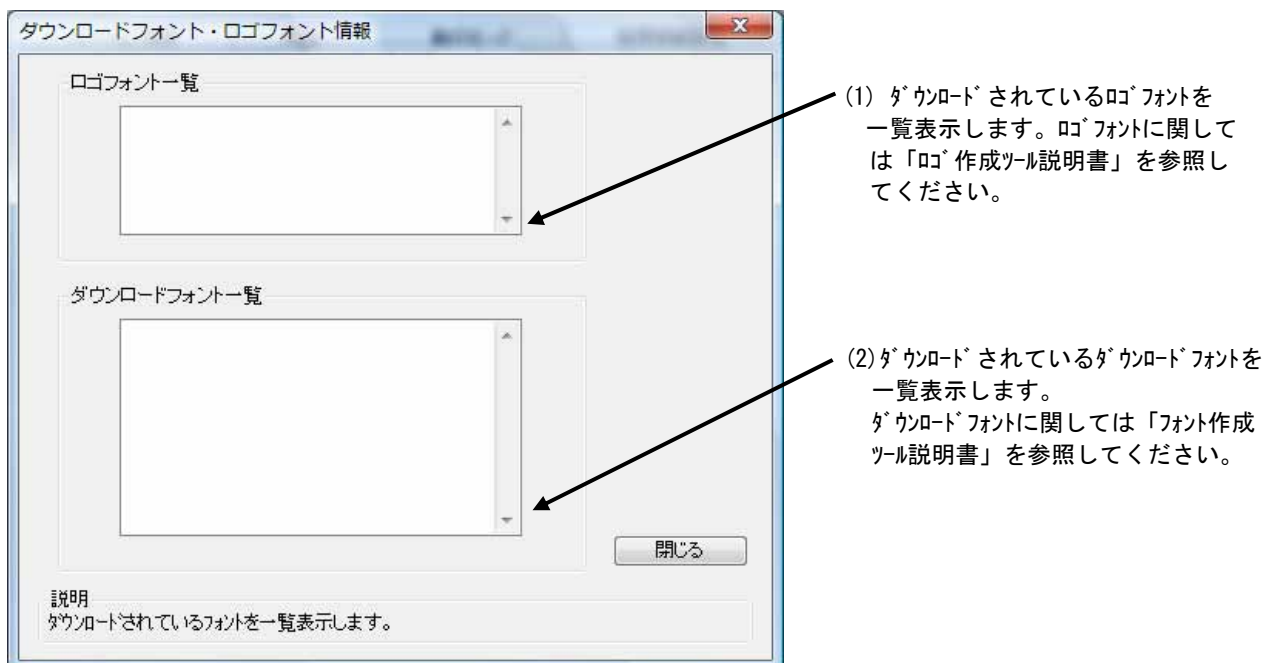


図 1.12.2. 「ダウンロードフォント・ロゴフォント情報」画面

## 1.13. 設定情報読みだし・保存

### 1.13.1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ

「ユーティリティ」画面の「設定情報の読みだし・保存」をクリックします。

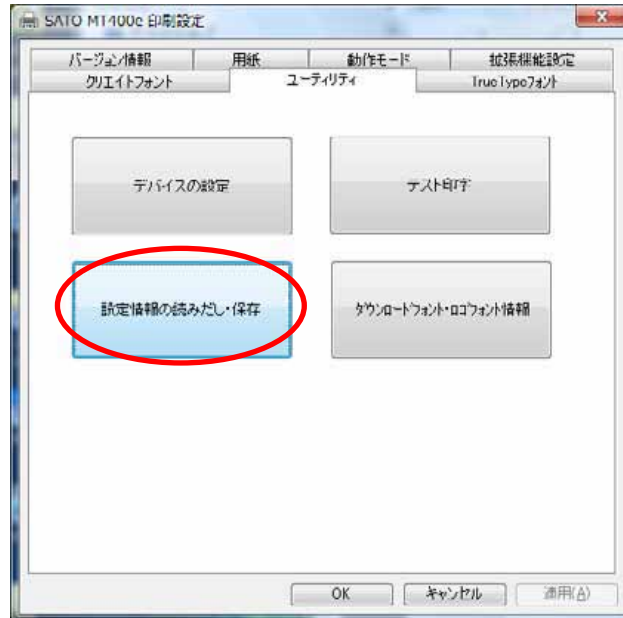


図 1.13.1. 「ユーティリティ」画面

図 1.13.2 に「設定情報の読みだし・保存」画面を示します。ここではプロパティの各タブで設定した値をインシヤルファイルとして保存したり、保存されたインシヤルファイルを読み込むことにより、各設定を一括設定することができます。



図 1.13.2. 「設定情報の読みだし・保存」画面

## 1. 14. テスト印字

### 1. 14. 1. e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TR400e/410e、ST308R/312R、SR400 シリーズ、MT/MR110w、TASSHA、RT308R、エヴィ シリーズ

「ユーティリティ」画面の「テスト印字」をクリックします。

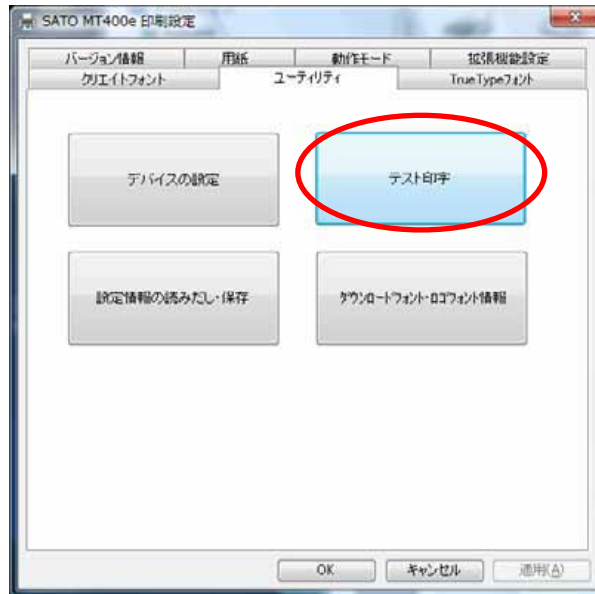


図 1. 14. 1. 「ユーティリティ」画面

図 1. 14. 2 に「テスト印字」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

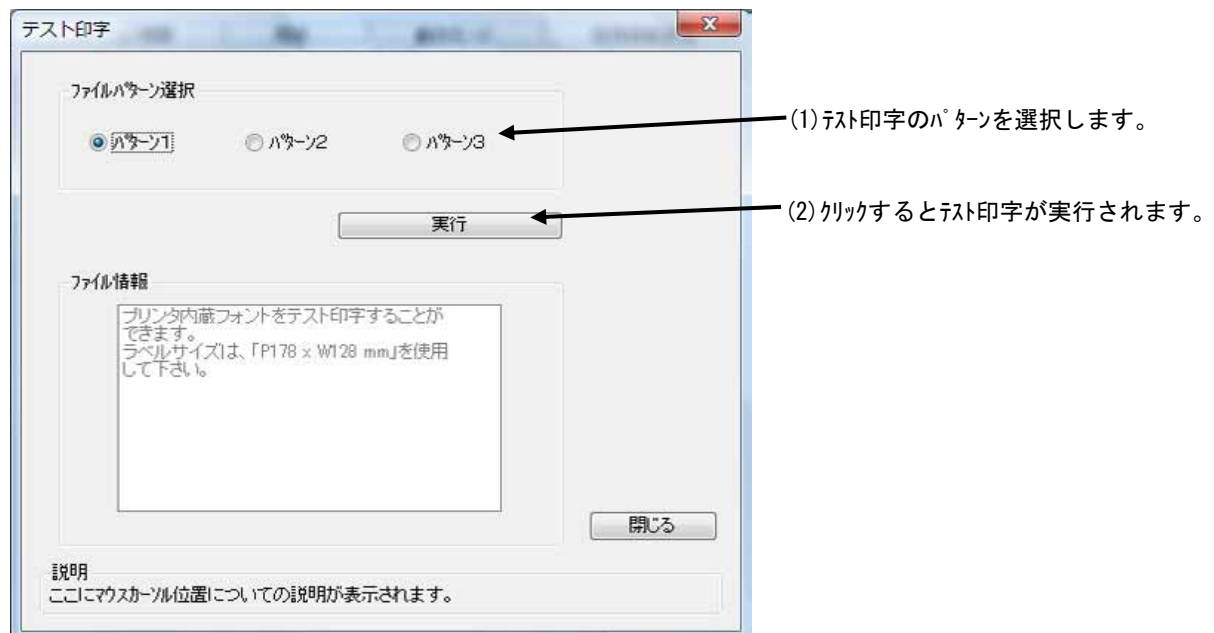


図 1. 14. 2. 「テスト印字」画面

## 1. 15. サトー専用ポートの追加設定手順

「印刷先のポート」に「サトー専用ポート」を選択すると、各ポートに対して詳細な設定が可能となります。以下にサトー専用ポートの追加手順と各ポートの設定手順を示します。

### 1. 15. 1. サトー専用ポートの追加手順

図 1. 15. 1. 1 に「ポート」画面を示します。

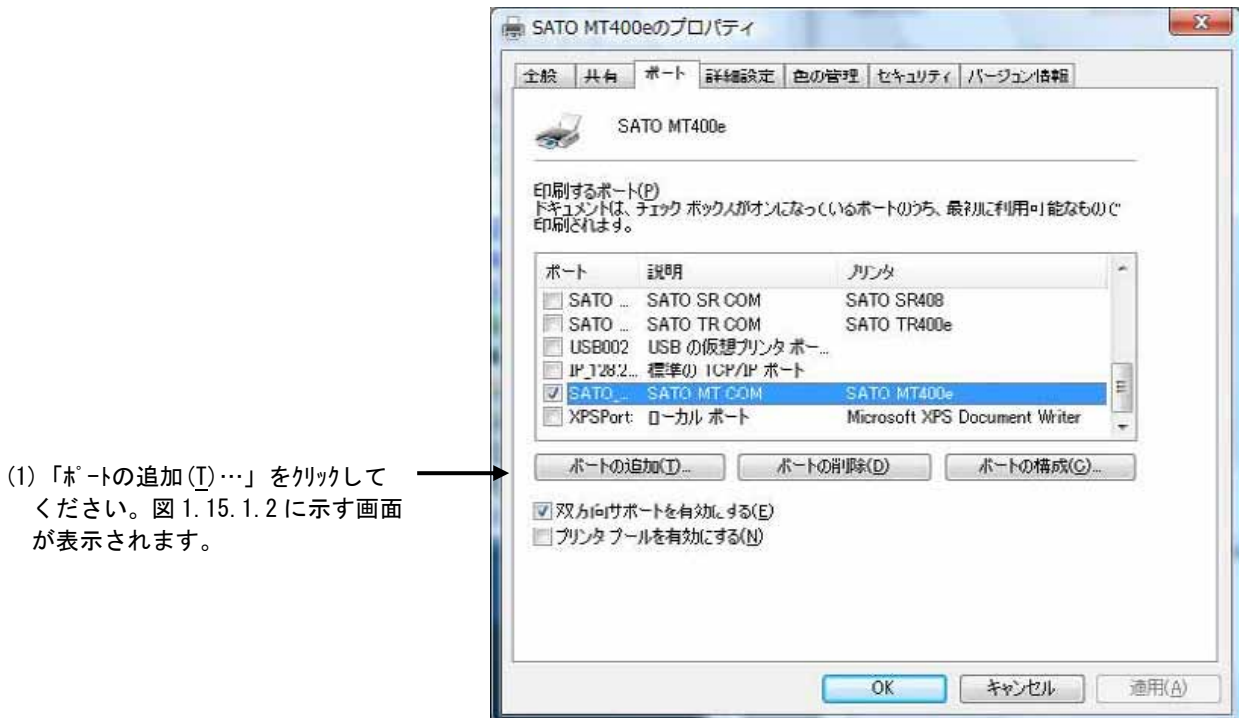


図 1. 15. 1. 1. 「ポート」画面

- (2) 「SATO MT … Port Monitor」の中から、ご使用になる接続先デバイスに対応したものを選択し「新しいポート(P)…」ボタンをクリックしてください。  
図 1. 15. 1. 3～図 1. 15. 1. 6 に示すように、追加するポートに対応した画面が表示されます。

接続先デバイスが COM ポートのとき選択してください。  
接続先デバイスが LAN ポートのとき選択してください。  
接続先デバイスが LPT ポートのとき選択してください。  
接続先デバイスが USB ポートのとき選択してください。



図 1. 15. 1. 2. 「ポート追加」画面



### ①シリアル (SATO MT COM) ポート

(3) 接続先のポート名を設定してください。

(4) 出力するデバイス名を選択してください。

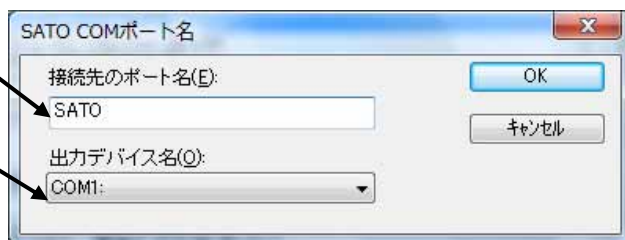


図 1.15.1.3. 「SATO COM ポートの追加」画面

### ②IEEE1284 (SATO MT LPT) ポート

(3) 接続先のポート名を設定してください。

(4) 出力するデバイス名を選択してください。

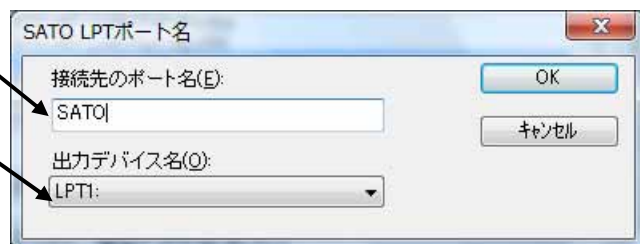


図 1.15.1.4. 「SATO LPT ポートの追加」画面

### ③LAN (SATO MT LAN) ポート

(3) 接続先のポート名を設定してください。

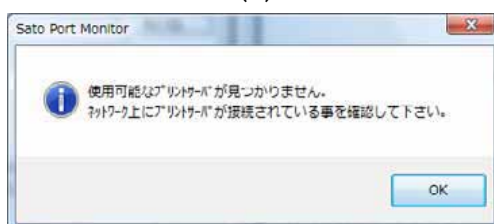
(4) プリンタに設定されている IP アドレスを入力してください。IP アドレスの設定方法に関しては「ネットワークユーティリティ説明書」の 7 を参照してください。プリンタの IP アドレスがわからない場合は (5) の「サーバ検索」を利用してください。



(a)

(6) サーバ検索時間を調節します。(5)において、ネットワークにプリンタが接続されているにもかかわらず IP アドレスが検索できない場合は、時間を長めに調節してください。

(5) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを検索し、「IP アドレス」リストに追加します。検索されなかった場合は図 1.15.1.5 (b) に示す画面が表示されますので指示に従ってください。



(b)

図 1.15.1.5. 「SATO LAN ポートの追加」画面

※ポート名は、他機種で使用していないポート名を指定する必要があります。

同じポート名を使用した場合には、他機種のポートが選択される場合があります。

#### ④USB (SATO MT USB) ポート

「USB インタフェースマニュアル」も参照してください。



(a)



(b)



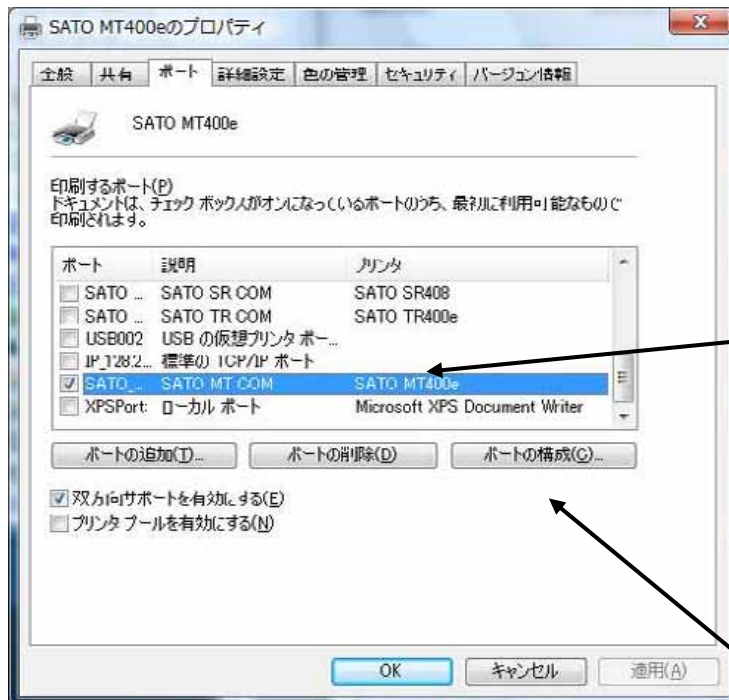
(c)

図 1.15.1.6. 「SATO USB ポートの追加」画面

※ポート名は、他機種で使用していないポート名を指定する必要があります。  
同じポート名を使用した場合には、他機種のポートが選択される場合があります。

## 1.15.2. サトー専用ポート設定手順

図 1.15.2.1 に「ポート」画面を示します。



(1) 設定を行うサトー専用ポートを選択してください。

(2) 「ポートの構成(C)...」をクリックしてください。図 1.15.2.2～図 1.15.2.5 に示すように (1) で選択したポートに対応した画面が表示されます。

図 1.15.2.1. 「ポート」画面

## ①シリアル (SATO MT COM) ポート

図 1.15.2.2 に「SATO COM ポートの設定」画面を示します。

(1) ポートを選択します※。

(2) データビット数を選択します※。

(3) パリティビットを選択します※。

(4) ストップビットを選択します※。

(5) フロー制御を選択します※。

※) (1)～(5)の設定値はプリンタ側の設定値と等しくしてください。プリンタ側の設定はシリアルインタフェースポートのデバッグスイッチにて行います。

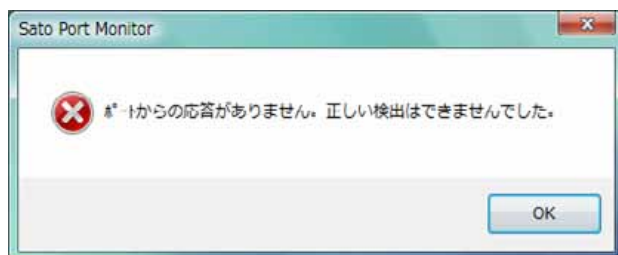
(6) 設定を初期値にします。  
 ボーレート : 19200    データビット : 8  
 パリティ : なし    ストップビット : 1  
 フロー制御 : なし

(7) ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にするための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。

(a)



(b)



(c)

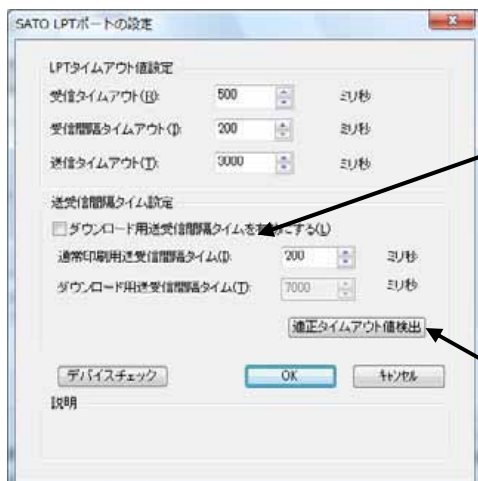
(8) 送受信間隔タイム検出

プリンタの電源を立ち上げた状態で「送受信間隔タイム検出」ボタンをクリックすると、プリンタとの送受信に対するタイムアウト値を適正な値にします。適正なタイムアウト値を検出したときは、図 1.15.2.2 (b) に示す画面が表示されます。適正な値にすることで、プリンタとの双方向通信応答速度が向上します。プリンタの電源が切れているとき、接続インタフェース設定が間違っているとき、インタフェースケーブルが接続されていないときは、送受信間隔タイム検出はできません (図 1.15.2.2 (c) に示す画面が表示されます)。

図 1.15.2.2. 「SATO COM ポートの設定」画面

## ②IEEE1284 (SATO MT LPT) ポート

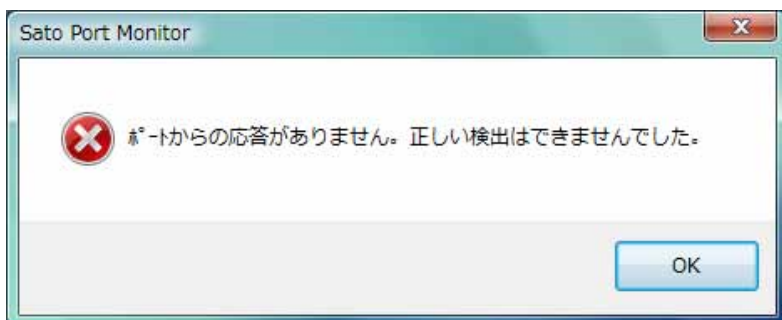
図 1.15.2.3 に「SATO LPT ポートの設定」画面を示します。



(a)



(b)



(c)

(1)ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にを行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。

(2)プリンタの電源を立ち上げた状態で、「適正タイムアウト値検出」ボタンをクリックすると、プリンタとの送受信に対するタイムアウト値を適正な値にします。適正な値にすることで、プリンタとの双方向通信応答速度が向上します。適正なタイムアウト値を検出したときは、図 1.15.2.3(b)に示す画面が表示されます。プリンタの電源が切れているとき、接続インターフェースが違っているとき、インターフェースケーブルが接続されていないときは、適正タイムアウト値検出はできません(図 1.15.2.3(c)に示す画面が表示されます)。  
※SR400 シリーズにはこの機能はありません。

図 1.15.2.3. 「SATO LPT ポートの設定」画面

### ③LAN (SATO MT LAN) ポート

図 1.15.2.4 に「SATO LAN ポートの設定」画面を示します。

SR400 シリーズは、ENQ 応答のみのため、(7)のチェックボックスがありません。

The image shows two screenshots related to the SATO LAN port settings. Screenshot (a) is the 'SATO LAN Port Settings' dialog box, which is divided into two sections: 'Printer/Server Information Settings' and 'Timeout Settings'. In the 'Printer/Server Information Settings' section, there is a dropdown for 'IP Address (I)' set to '128.220.20.101', a 'Search Time (S)' field set to '3' seconds, a 'Server Search' button, and a checked checkbox for 'ENQ Response Mode (E)'. In the 'Timeout Settings' section, there are several fields: 'Download/Receive Interval Timeout (D)' (checked), 'Send Timeout (A)' set to '30' seconds, 'Connection Timeout (C)' set to '10' seconds, 'Receive End Timeout (B)' set to '20000', 'Normal Print/Receive Interval Timeout (F)' set to '0', and 'Download/Receive Interval Timeout (L)' set to '0'. Screenshot (b) is an error message dialog box titled 'Sato Port Monitor' with the text: '使用可能なプリンタが見つかりません。ネットワーク上にプリンタが接続されている事を確認して下さい。' (No usable printer found. Please confirm that a printer is connected to the network.)

- (1) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを入力してください。IP アドレスの設定方法に関しては、「ネットワークユーティリティ説明書」を参照してください。プリンタに設定されている IP アドレスがわからない場合は、(2)の「サーバ検索」を利用してください。
- (2) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを検索し、「IP アドレス」リストに追加します。検索されなかった場合は図 1.15.2.4 (b) に示す画面が表示されますので指示に従ってください。
- (3) サーバ検索時間を調節します。(2)において、ネットワークにプリンタが接続されているにもかかわらず IP アドレスが検索されなかった場合は、時間を長めに調節してください。
- (4) 送受信のタイムアウト値を設定します。プリンタサーバにデータ送信時失敗した場合、タイムアウトまで送信を繰り返します。
- (5) プリンタサーバへの接続時のタイムアウト値を設定します。
- (6) ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にを行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。
- (7) ステータスチェックを ENQ 応答にする場合にチェックします。なお、プリンタ側の設定は、必ず同じにしてください。異なる設定の場合には、正常動作しません。

(a)

(b)

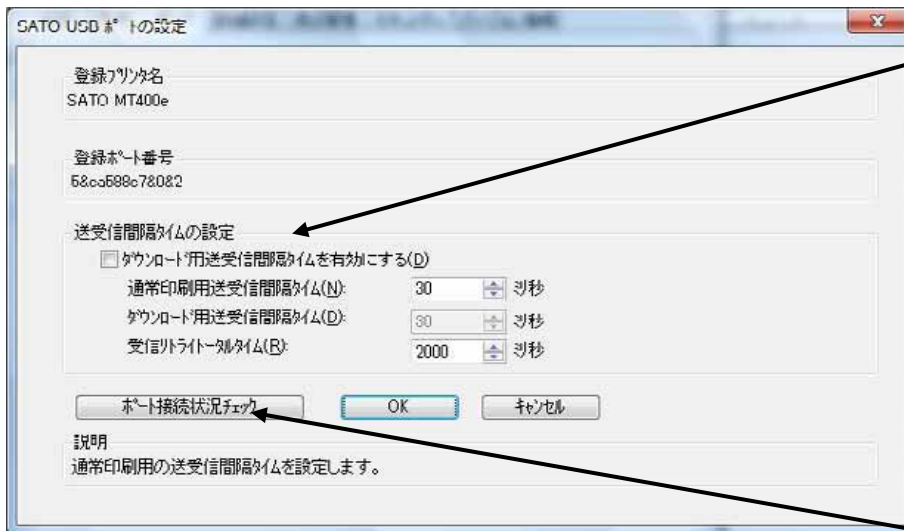
図 1.15.2.4. 「SATO LAN ポートの設定」画面

※ 無線 LAN 環境で使用する場合には、送受信タイムアウト値が初期値の 20 秒では足りない場合があります。その際には、タイムアウト値を伸ばしてください。

#### ④USB (SATO MT USB) ポート

「USB インターフェスマニュアル」も参照してください。

図 1. 15. 2. 5 に「SATO USB ポートの設定」画面を示します。

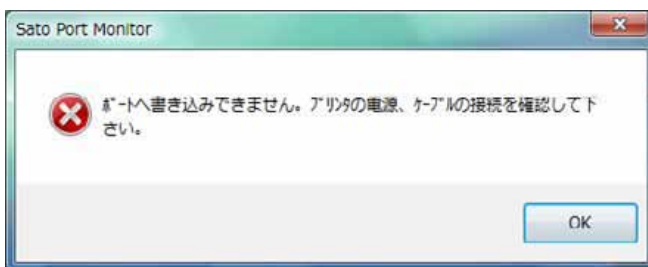


(a)

(1)ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にを行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。

「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては、「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。

(2)プリンタとUSBポートとの接続状況を確認します。接続状況により図 1. 15. 2. 5 (b)～図 1. 15. 2. 5 (c) に示す画面が表示されます。



(b)

図 1. 15. 2. 5 (b) 画面のエラーの改善方法

- (1)プリンタの電源が入っているか確認してください。
- (2)USBケーブルが接続しているか確認してください。



(c)

図 1. 15. 2. 5 (c) 画面のエラーの改善方法

- (1)プリンタの電源が入っているか確認してください。
- (2)USBケーブルが接続しているか確認してください。

図 1. 15. 2. 5. 「SATO USB ポートの設定」画面

## 2. インストーラ起動手順

### 2.1. メインメニュー画面

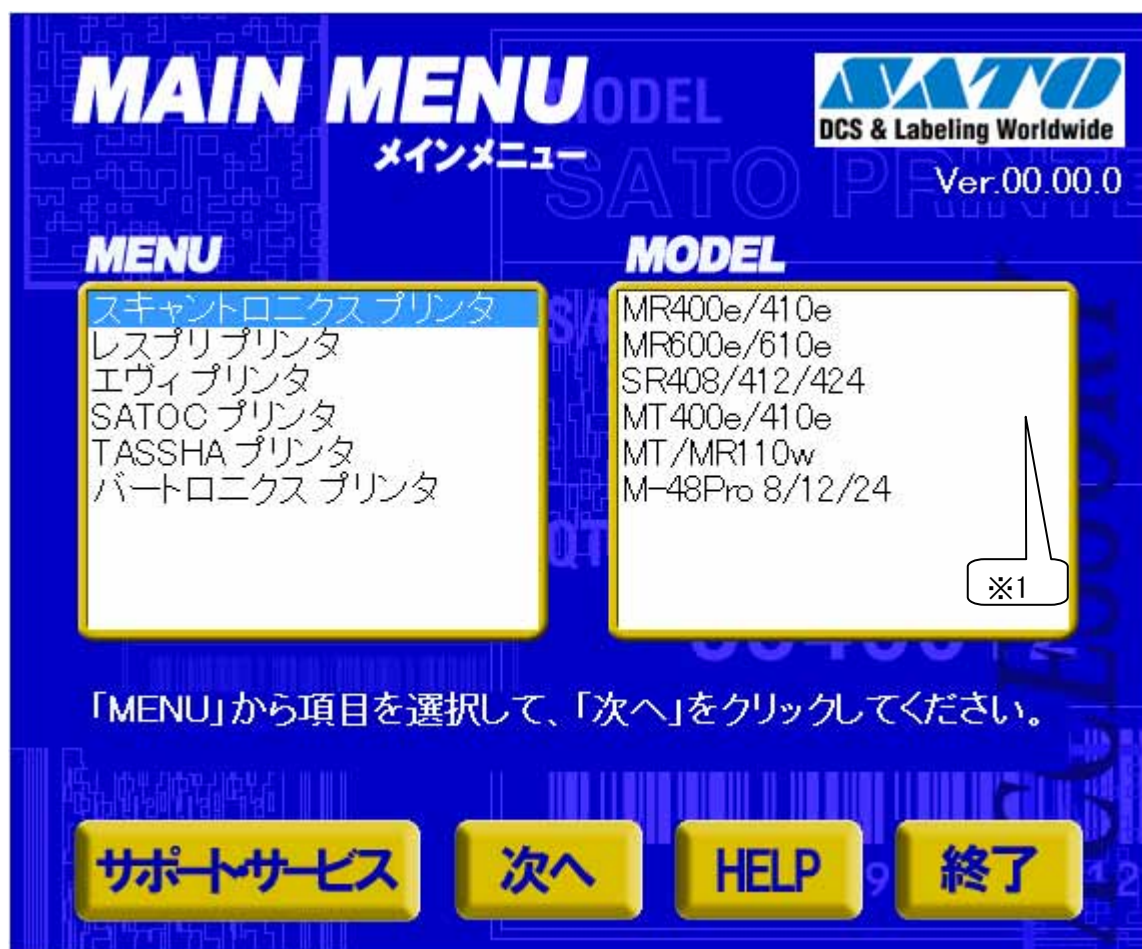


図 2.1 メインメニュー画面

「SATO アクセサリ CD-ROM」を CD-ROM ドライブにセットしてください。自動的<sup>※2</sup>に図 2.1 に示す画面が表示されますので、画面中「MENU」で「スキャントロプリンタ」を選択し、「次へ」をクリックします。

※1 「MODEL」に表示されている機種をダブルクリックすることにより、対応するプリンタドライバのインストール方法選択画面を起動することができます（「2.4 プリンタドライバのインストール方法選択画面」を参照してください）。

※2 図 2.1 の画面が自動的に表示されない場合は、アクセサリ CD-ROM 内の「AcclInstall.exe」をダブルクリックしてください。



## 2.2. プリンタメニュー画面



図 2.2 プリンタメニュー画面

「図 2.2 プリンタメニュー画面」で「プリンタドライバ」をクリックします。

## 2.3. プリンタドライバ画面



図 2.3 プリンタドライバ画面

「図 2.3 プリンタドライバ画面」の「MODEL」で「MT400e/410e」を選択し、

「インストール」をクリックすると、「3. インストール手順」

「アンインストール」をクリックすると、「4. アンインストール手順」

に進みます。

## 2.4. プリンタドライバのインストール方法選択画面

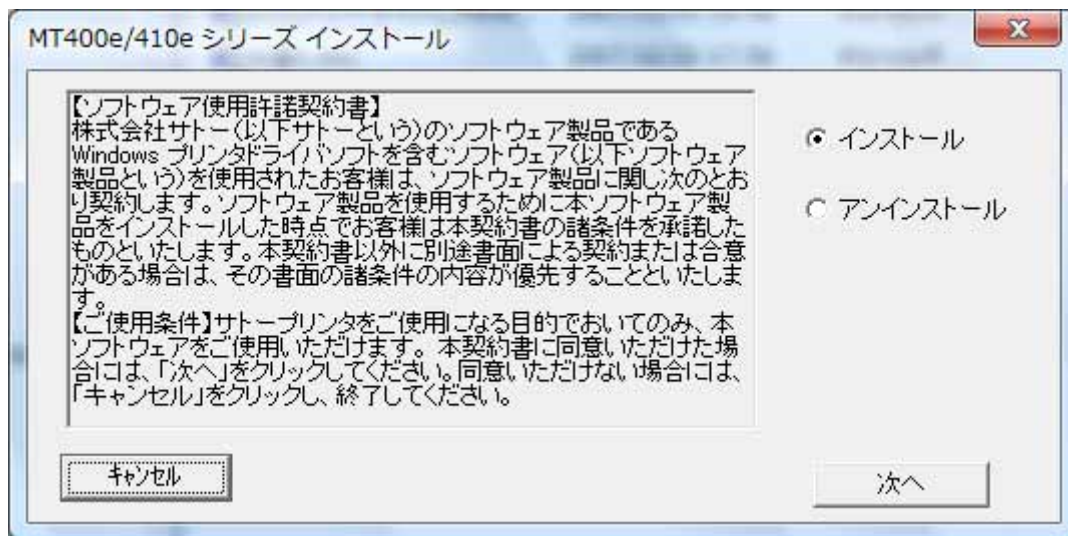


図 2.4 プリンタドライバのインストール方法選択画面

「2.1 メインメニュー画面」でプリンタ名をダブルクリックすることにより、本画面が表示されます。

- |         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 「次へ」    | 「インストール」選択時は、「3. インストール手順」へ進みます。     |
|         | 「アンインストール」選択時は、「4. アンインストール手順」へ進みます。 |
| 「キャンセル」 | 処理を中止し、本画面を閉じます。                     |

### 3. インストール手順

#### 3.1. プリンタドライバ インストール画面

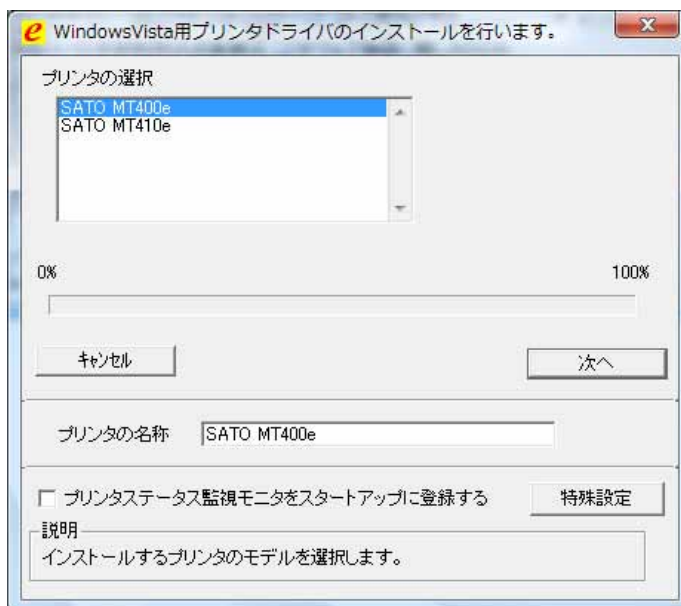


図 3.1.1 インストール画面

「プリンタの選択」でインストールするプリンタを選択し、「プリンタの名称」にプリンタ名称を入力してください。「次へ」をクリックするとインストール処理を開始します。

「次へ」をクリックすると、Windows Vista では「図 3.1.2 セキュリティ警告 (Windows Vista) 画面」が表示されますので、「このドライバソフトウェアをインストールします (I)」を選択してください。(Windows XP/Server2003/Server2008 ではメッセージ内容が異なります。インストール継続を選択してください。)

「キャンセル」をクリックするとインストール処理をキャンセルします。

プリンタを選択した時点で「プリンタの名称」に選択したプリンタの名称がコピー表示されます。本画面での他の機能については以下の通りです。

「プリンタステータス監視モニタをスタートアップに登録する」

ステータス監視モニタをスタートアップに登録する場合にチェックします。

「特殊設定」

インストールの条件を指定します。詳細は「3.5 特殊設定画面」を参照してください。

「バージョン表示」

タイトルバー上でマウスを右クリックしてバージョンを表示することができます。

※ 「次へ」をクリックするとインストール処理を開始しますが、Vista の場合 OS の動作状況により、「3.2 接続先ポート指定画面」への移行に時間がかかる場合があります。

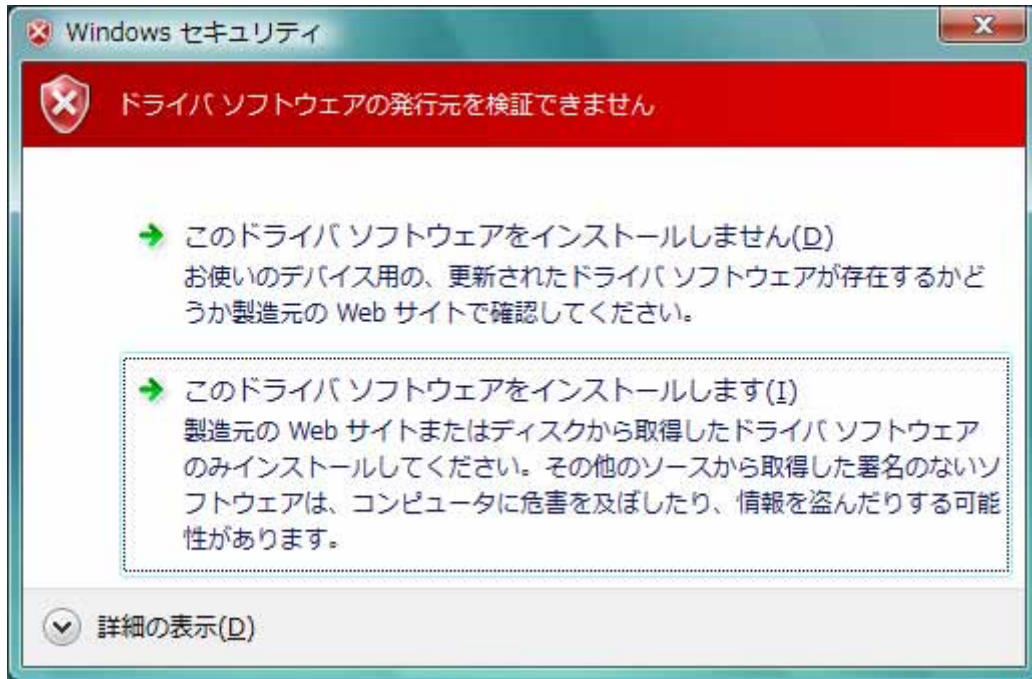


図 3.1.2 セキュリティ警告 (Windows Vista) 画面

## 3.2. 接続先ポート指定画面

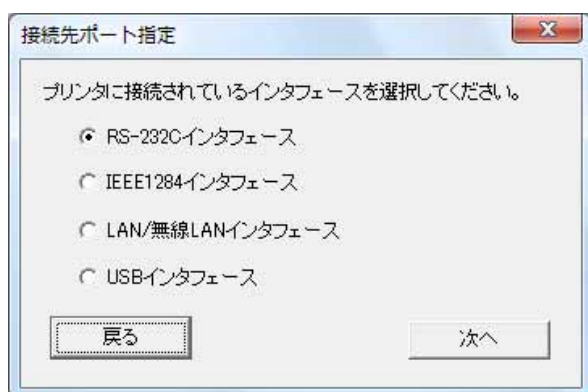


図 3.2.1 接続先ポート指定画面

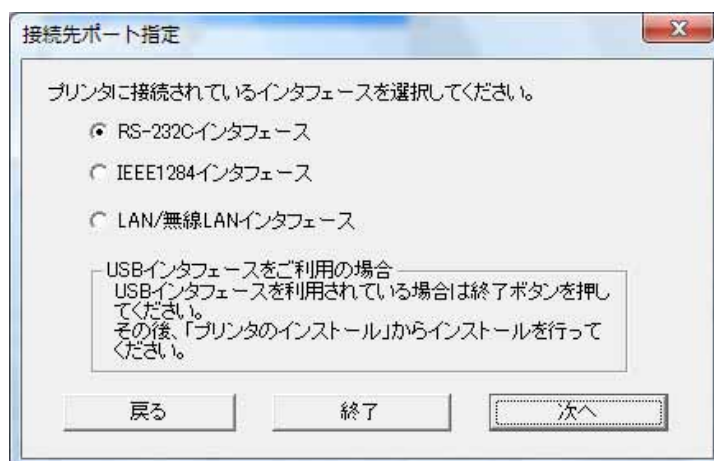


図 3.2.2 標準印刷サポート対応機種  
の接続先ポート指定画面

プリンタに接続されているインタフェースを選択し、「次へ」をクリックすると

- ・「RS-232C インタフェース」選択の場合
- ・「IEEE1284 インタフェース」選択の場合
- ・「LAN/無線LAN インタフェース」選択の場合
- ・「USB インタフェース」選択の場合

- 「3.3.1 シリアルポート選択画面」
- 「3.3.3 IEEE1284 ポート選択画面」
- 「3.3.5 SATO LAN ポート登録画面」
- 「3.3.6 SATO USB ポート登録画面」

※注意事項を参照してください。

へ進みます。

「戻る」をクリックすると「3.1 プリンタドライバ インストール画面」へ戻ります。

### 注意事項

本仕様書で例としている MT400e は、USB インタフェースを使用する場合、SATO ポートのみの対応となっており、図 3.2.1 の画面となりますが、USB 標準印刷サポート対応の RT308R、ST308R/312R の場合は図 3.2.2 となります。

USB 標準印刷サポートを使用する場合は、「終了」をクリックしてインストール処理を終了させ、Windows のインストール処理を実施してください。インストール方法は「5. USB 標準印刷サポートのインストール方法」で説明します。

### 3.3. ポート選択画面

#### 3.3.1. シリアルポート選択画面



図 3.3.1 シリアルポート選択画面

シリアルポートを「SATO ポート（推奨）」、「標準ポート」のいずれかを選択し、「OK」をクリックします。「SATO ポート（推奨）」を選択した場合は「3.3.2 SATO COM ポート登録画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

ここでは「SATO ポート（推奨）」を選択してください。

#### 3.3.2. SATO COM ポート選択画面

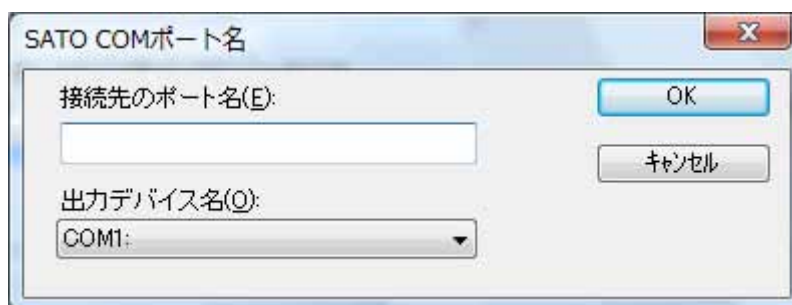


図 3.3.2 SATO COM ポート登録画面

「接続先のポート名」に登録する COM ポート名を入力して、「OK」をクリックしてください。「OK」をクリック後、インストール処理を再開し、「3.4 インストールの終了画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると、「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

### 3.3.3. パラレルポート選択画面



図 3.3.3 パラレルポート選択画面

パラレルポートを「SATO ポート（推奨）」、「標準ポート」のいずれかを選択し、「OK」をクリックします。「SATO ポート（推奨）」を選択した場合は「3.3.4 SATO LPT ポート登録画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

ここでは「SATO ポート（推奨）」を選択してください。



### 3.3.4. SATO LPT ポート選択画面

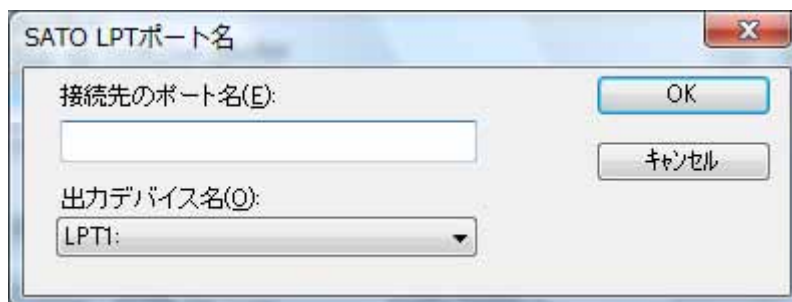


図 3.3.4.1 SATO LPT ポート登録画面

「接続先のポート名」に登録する LPT ポート名を入力して、「OK」をクリックしてください。「OK」をクリック後、インストール処理を再開し、「3.4 インストールの終了画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると、「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

- ※1 IEEE1284 ケーブルをプリンタと PC に接続後、プリンタの電源を入れると図 3.3.4.2 「新しいハードウェアが見つかりました」表示画面が表示されることがあります。その際は「キャンセル」、「このデバイスについて再確認は不要です (D)」、「X」のいずれかを選択してください。

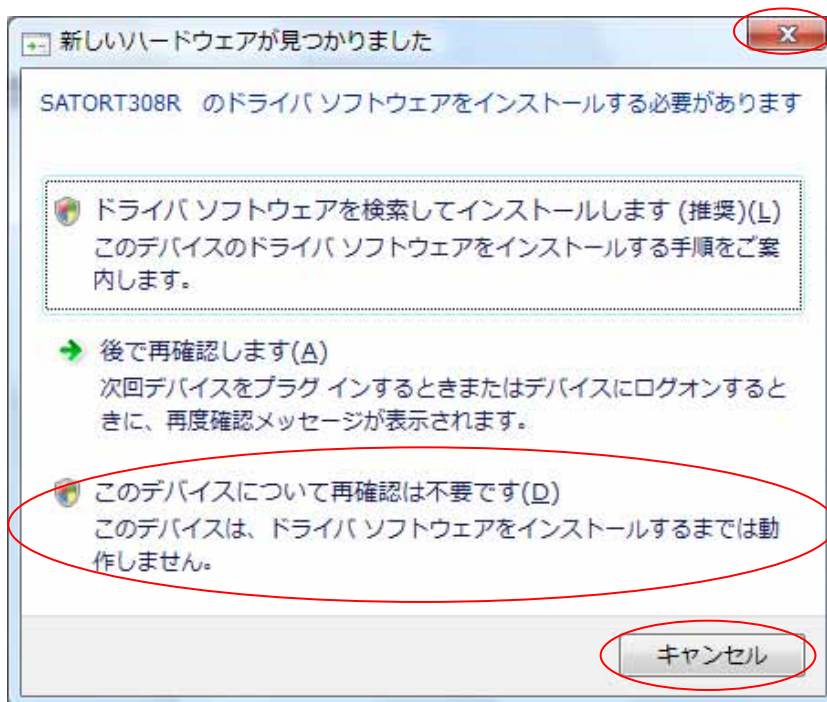


図 3.3.4.2 「新しいハードウェアが見つかりました」表示画面

### 3.3.5. SATO LAN ポート登録画面

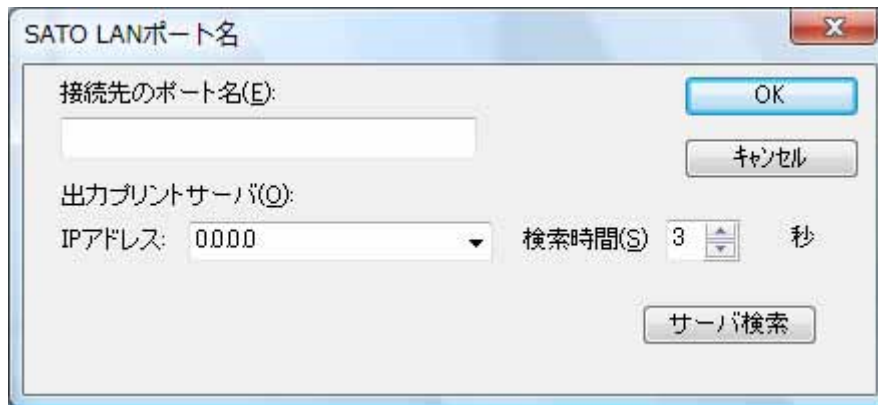


図 3.3.5 SATO LAN ポート登録画面

「サーバ検索」をクリックすると、SATO LAN ポートの登録対象である IP アドレスを検索し、「IP アドレス」に表示します。印刷対象の IP アドレスを選択して「接続先のポート名」に登録する LAN ポート名を入力してください。「OK」をクリックすると SATO LAN ポートを登録して、インストール処理を再開し、「3.4 インストールの終了画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると、「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

### 3.3.6. SATO USB ポート登録画面

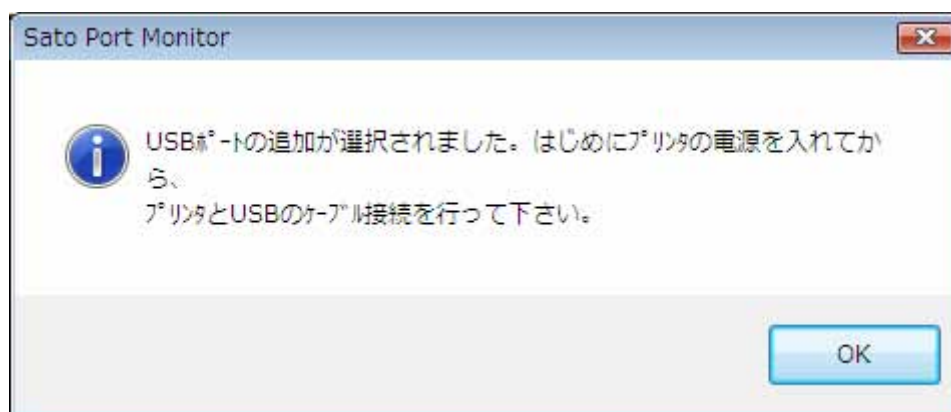


図 3.3.6.1 SATO USB ポート登録準備画面

USB ポート登録のための準備画面です。メッセージの通りプリンタと USB ケーブルを確認後、「OK」ボタンをクリックしてください。

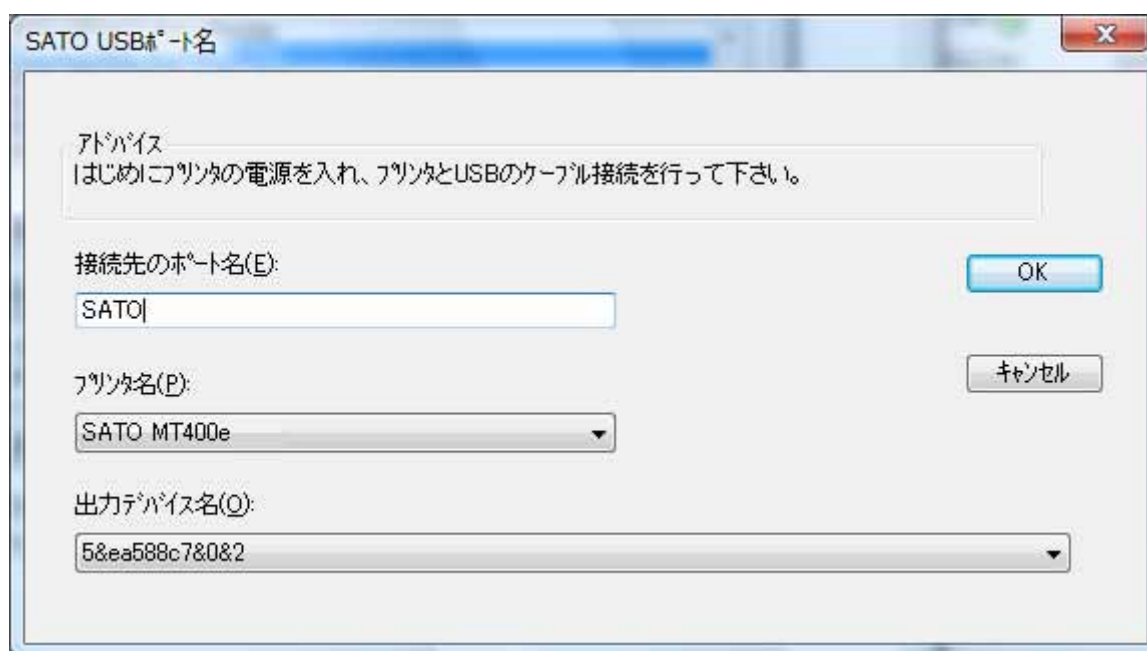


図 3.3.6.2 SATO USB ポート登録画面

「接続先のポート名」に登録する USB ポート名を入力して、「OK」をクリックしてください。「OK」をクリック後、インストール処理を再開し、「3.4 インストールの終了画面」へ進みます。

「キャンセル」をクリックすると、「3.1 プリンタドライバインストール画面」へ戻ります。

※1 USB ケーブルをプリンタと PC に接続後、プリンタの電源を入れると図 3.3.6.3 「新しいハードウェアが見つかりました」表示画面が表示されることがあります。その際は「キャンセル」、「このデバイスについて再確認は不要です (D)」、「X」のいずれかを選択してください。

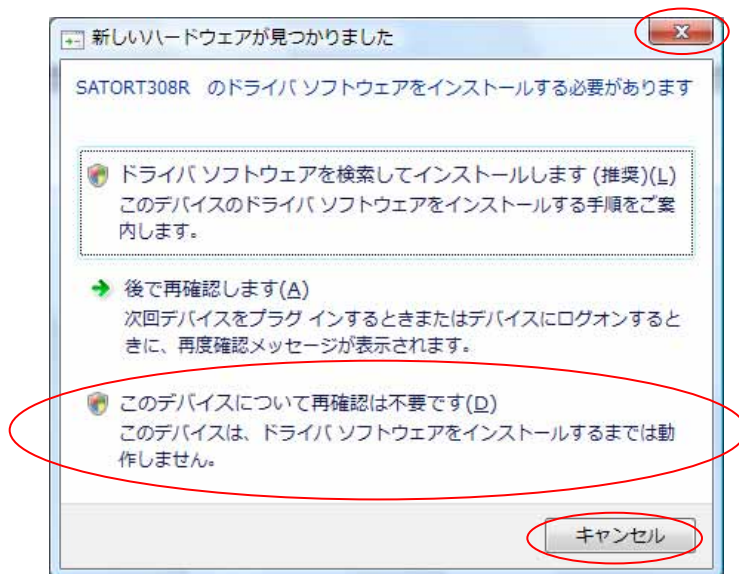


図 3.3.6.3 「新しいハードウェアが見つかりました」表示画面

### 3.4. インストールの終了画面

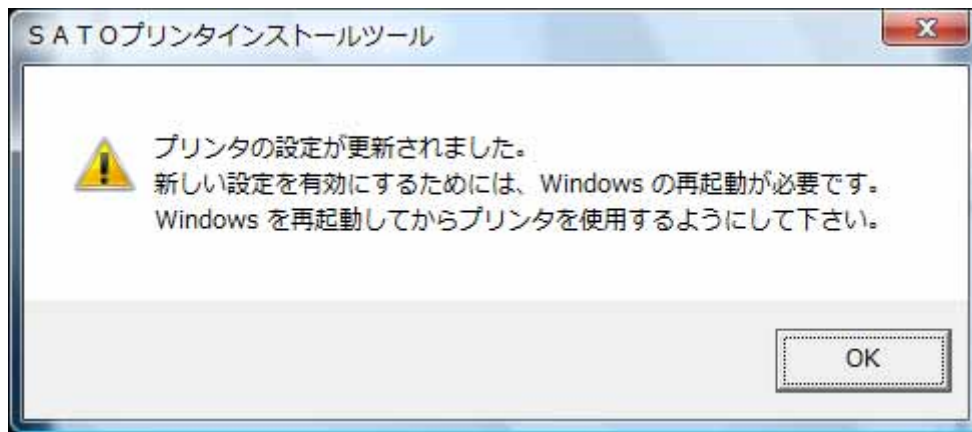


図 3.4 インストールの終了画面

インストールの処理を終了すると、本画面が表示されます。「OK」をクリックして処理を終了させてください。

### 3.5. 特殊設定画面

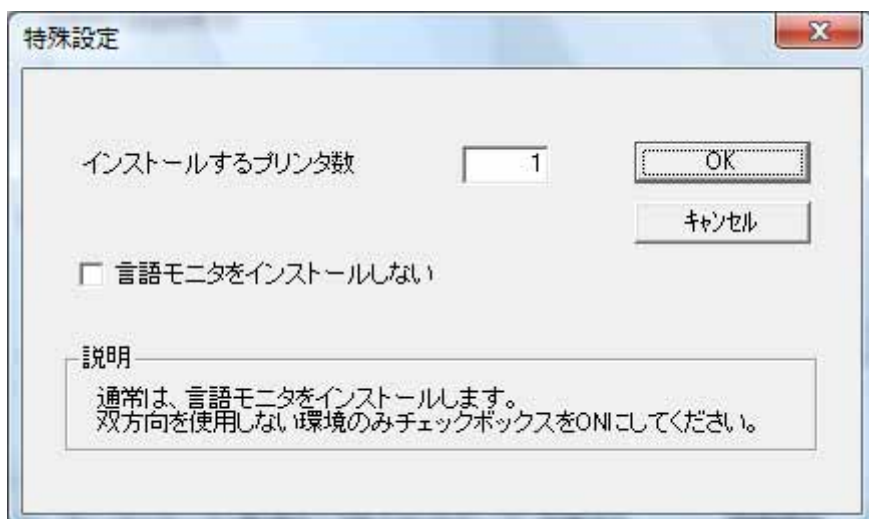


図 3.5.1 特殊設定画面

「3.1 プリンタドライバ インストール画面」で「特殊設定」をクリックすると表示される画面です。

#### 「インストールするプリンタ数」

インストールするプリンタ数を入力します。

指定範囲は 1～100 です。

初期値は 1 となっていますが、ここで複数のプリンタ数を指定すると、インストールされるプリンタ名は、

SATO MT400e\_001、SATO MT400e\_002、. . . . .

と、入力されたプリンタ名に、自動でシーケンス番号を付加して登録します。

#### 「言語モニタをインストールしない」

通常は双方向通信を行うため、チェックボックスを OFF のままとしてください。

双方向通信を使用しない環境の場合のみ、チェックボックスを ON としてください。

## 4. アンインストール手順

### 4.1. アンインストール画面

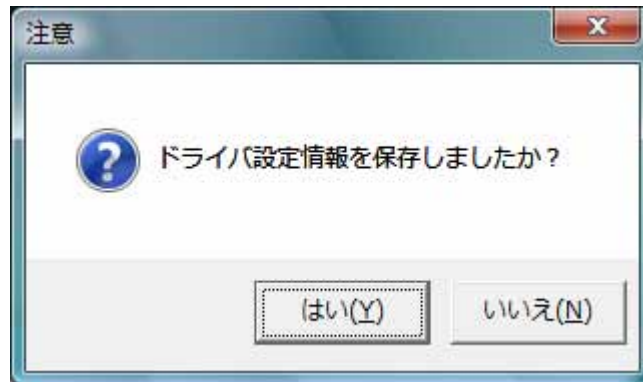


図 4.1 アンインストール ドライバ設定情報保存確認画面

アンインストール起動直後に図 4.1 が表示されます。既にドライバ設定情報を保存している場合は、「はい(Y)」をクリックしてください。ドライバ情報を保存していない場合は、「いいえ(N)」をクリックして、アンインストール作業を中止させてください。

ドライバ情報を保存せずにアンインストールを実行すると、ドライバ使用時に独自に追加した「用紙」や「クリエイティブフォント」に関する設定情報も同時に削除されます。ドライバを再インストールした際に、これらの設定を復元するためには、ドライバ設定情報を保存しておく必要があります。

ドライバ情報の保存方法については、「1. 13. 設定情報読みだし・保存」を参照してください。

## 4.2. アンインストール プリンタ選択画面

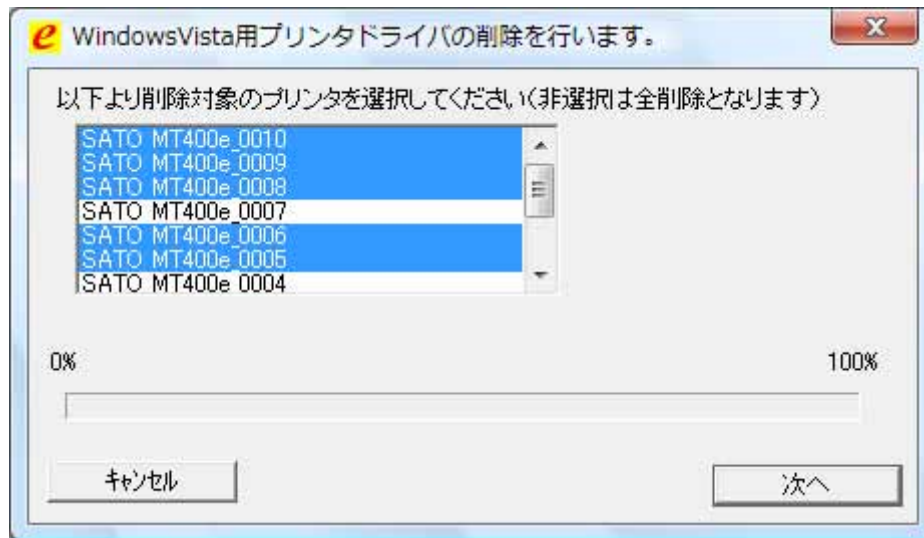


図 4.2 アンインストール プリンタ選択画面

表示されているプリンター一覧より、アンインストールしたいプリンタを選択します（1 台も選択しない場合は全プリンタがアンインストール対象となります）。

「次へ」をクリックするとアンインストール処理が開始されます。

「キャンセル」をクリックすると作業を中止します。

注 1 インストール処理が途中で失敗した場合、アンインストールではなくプリンタプロパティ上でプリンタ削除を行った場合、インストールされたファイルがシステムフォルダに残ったり、レジストリに情報が残ったままとなります。その場合、プリンター一覧にプリンタ名が表示されないことがありますが、「次へ」をクリックし、アンインストール処理を行うことによりインストールされたシステムファイルを削除することができます。

注 2 複数のプリンタが表示された場合、全てのプリンタを削除しなければ、インストールされたプリンタドライバ関連のファイルは削除されません（その際はプリンタ名の削除のみとなります）。  
プリンタドライバ関連のファイルは、対象となるプリンタ全てを削除した場合に、完全に削除します。



#### 4.3. アンインストール 終了画面

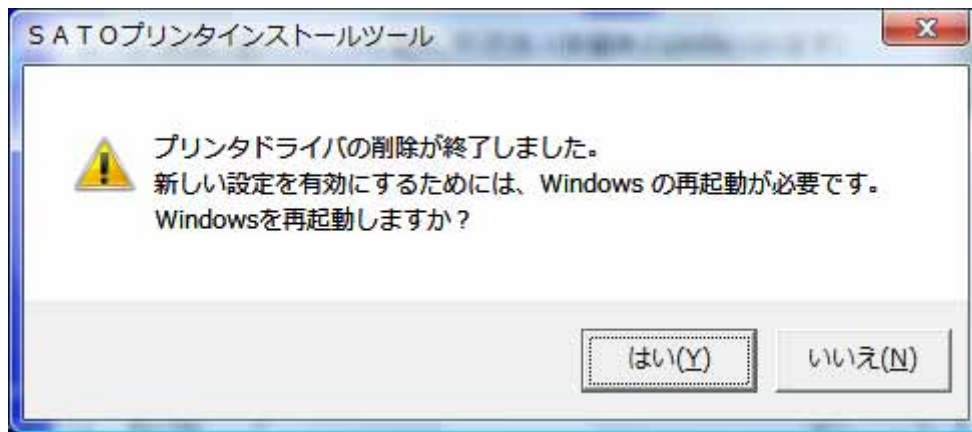


図 4.3 アンインストール終了画面

アンインストール処理が終了すると図 4.3 の画面が表示されますので、「はい(Y)」をクリックして Windows を再起動させてください。これでプリンタドライバのアンインストール作業は終了です。

「いいえ(N)」を選択した場合には、手動で Windows を再起動させてください。

## 5. USB 標準印刷サポートのインストール方法

### 5.1. USB 標準印刷サポートのインストール手順

USB 標準印刷サポート対応の機種の場合、USB ポート選択時のインストール方法は「3. インストール手順」と異なります。「3.2 接続先ポート指定画面」の説明にありますように SATO ドライバの専用インストーラを使用するのではなく、Windows のインストール手順に従います。

※USB 標準印刷サポートの説明は「RT308R」を例にとります

#### 5.1.1. Windows Vista でのインストール手順

USB 標準印刷サポート対応の機種を USB ポートに接続し、機種の電源を ON としますと、Windows が自動的に認識し、「5.1.1.1 Windows のインストール確認画面」が表示されます。

「ドライバソフトウェアを検索してインストールします(推奨)(L)」をクリックしてください。

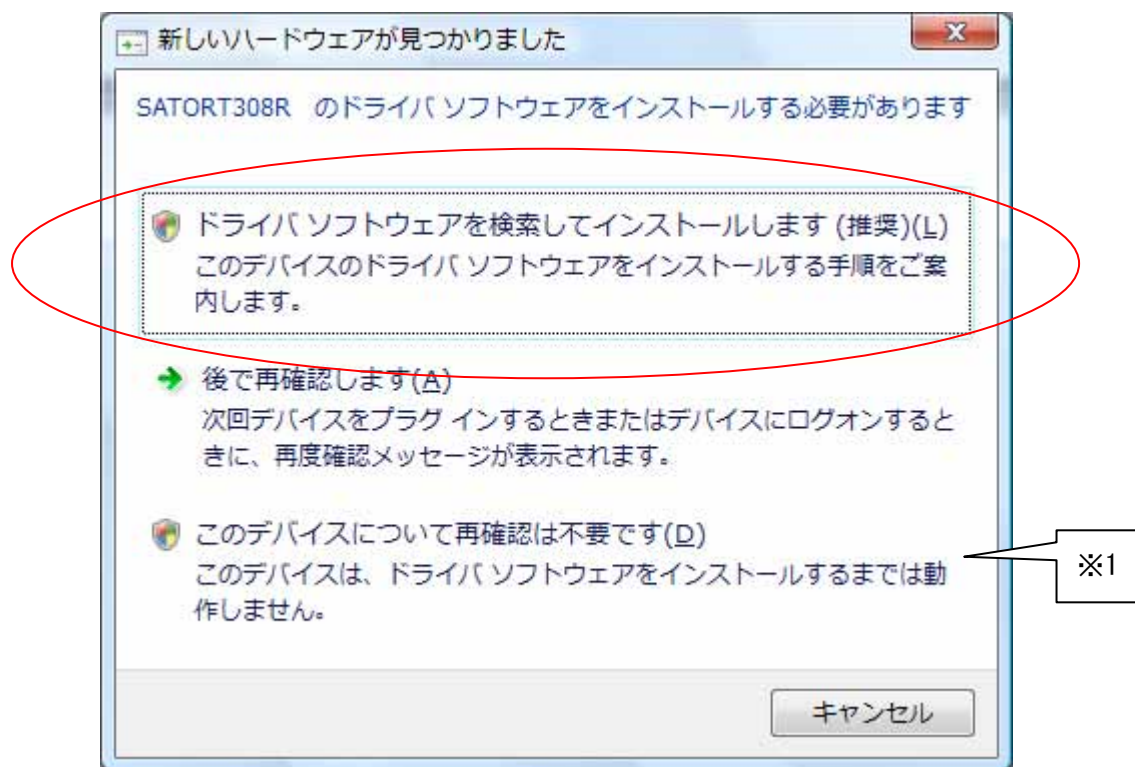


図 5.1.1.1 Windows のインストール確認画面

※1 「このデバイスについて再確認は不要です(D)」を誤って選択した場合は、インストールが不可能な状態になります。「5.3 USB 標準印刷サポートインストール時の障害回避方法」を参照ください。

※2 2 台目以降のインストールでは自動的にインストールされます。

「図 5.1.1.1 Windows のインストール確認画面」で丸枠部分をクリックすると、「図 5.1.1.2 Windows のインストール準備画面-1」のメッセージがタスクバーに表示されます。メッセージ部分をクリックすると、「図 5.1.1.3 Windows のインストール準備画面-2」が表示されます。

この状態では Windows が自動的にインストールを行うためにインストール対象機種種のインストール情報ファイルを検索しています。

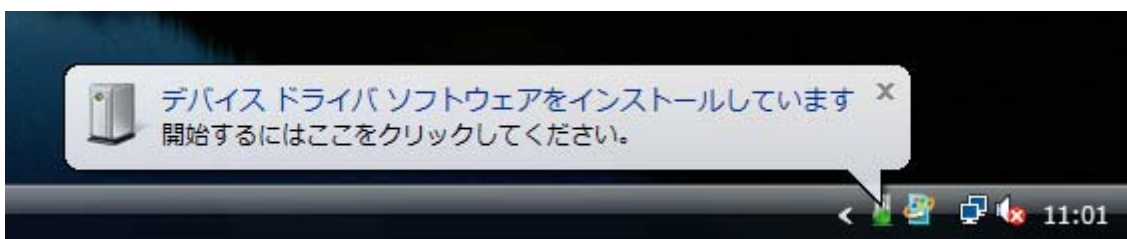


図 5.1.1.2 Windows のインストール準備画面-1

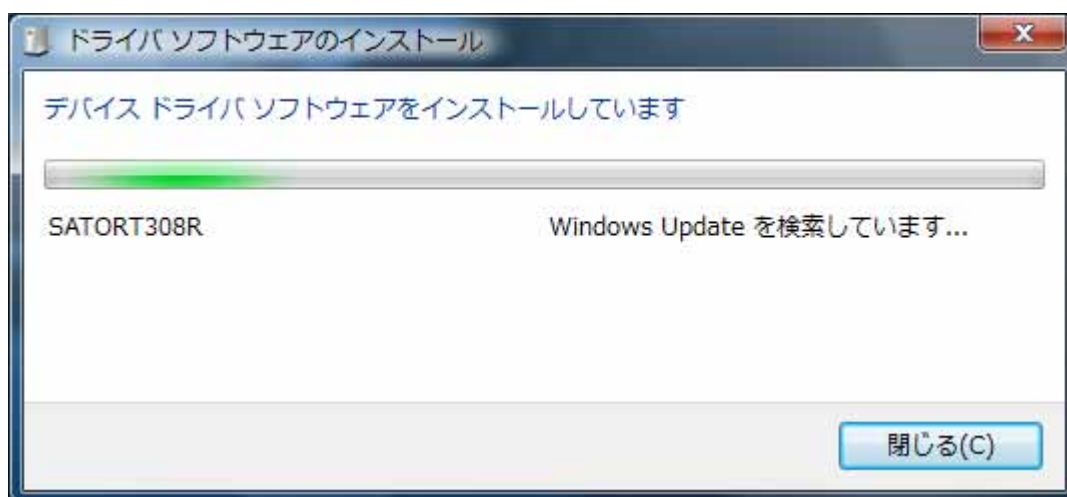


図 5.1.1.3 Windows のインストール準備画面-2

Windows はインストール情報ファイルを検索しますが、見つからないため、「図 5.1.1.4 Windows のインストール開始画面」を表示します。

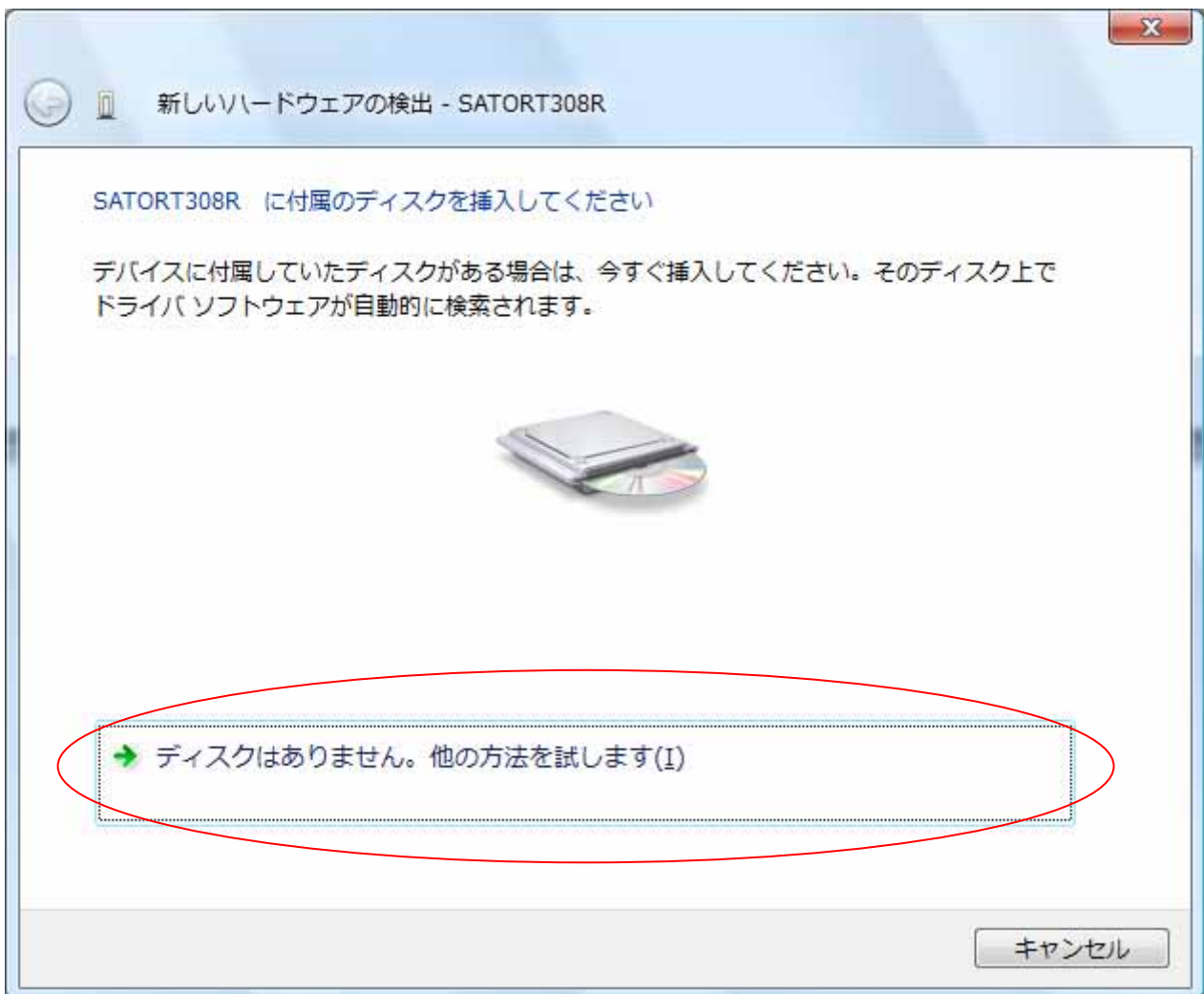
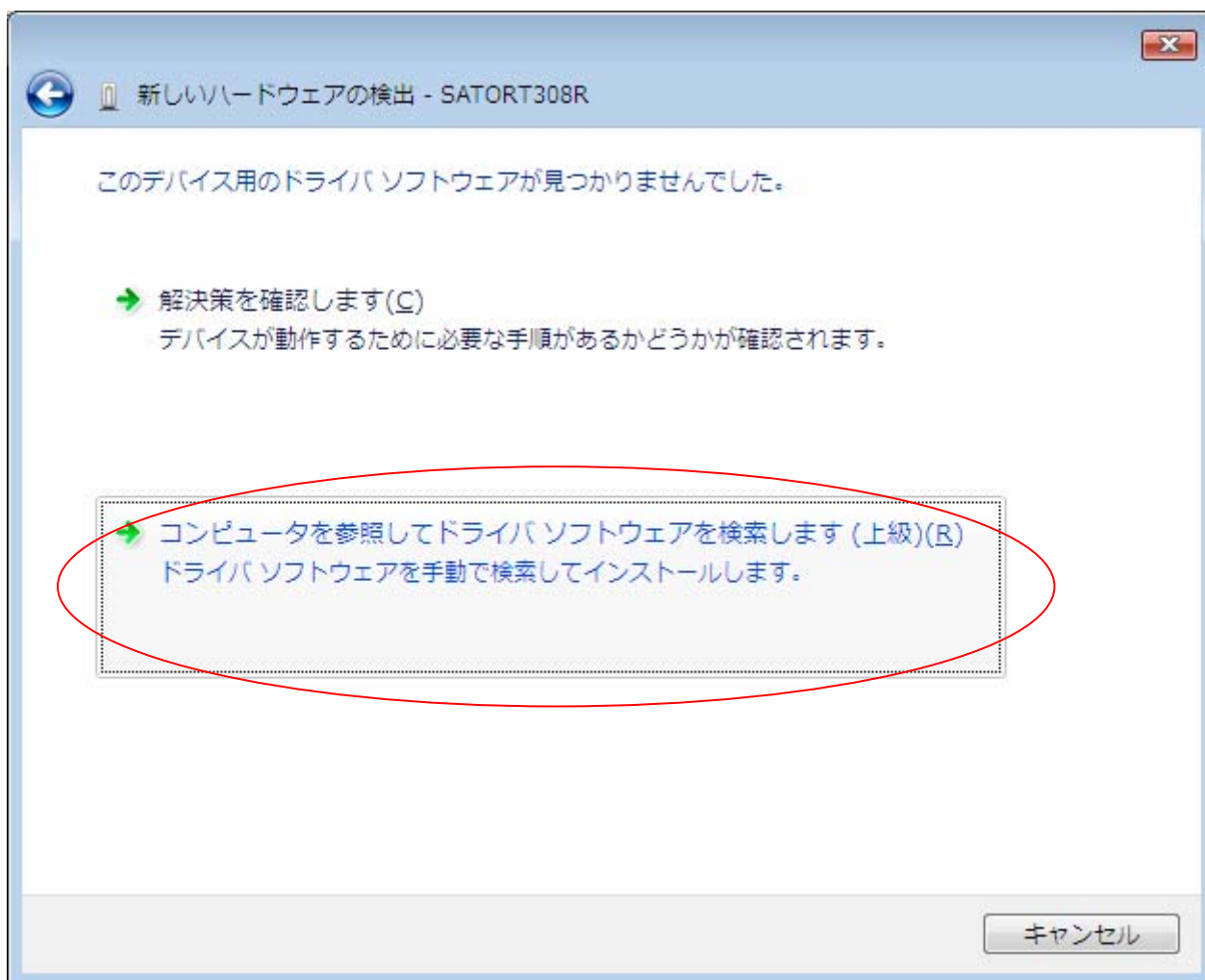


図 5.1.1.4 Windows のインストール開始画面

丸枠部分をクリックします。

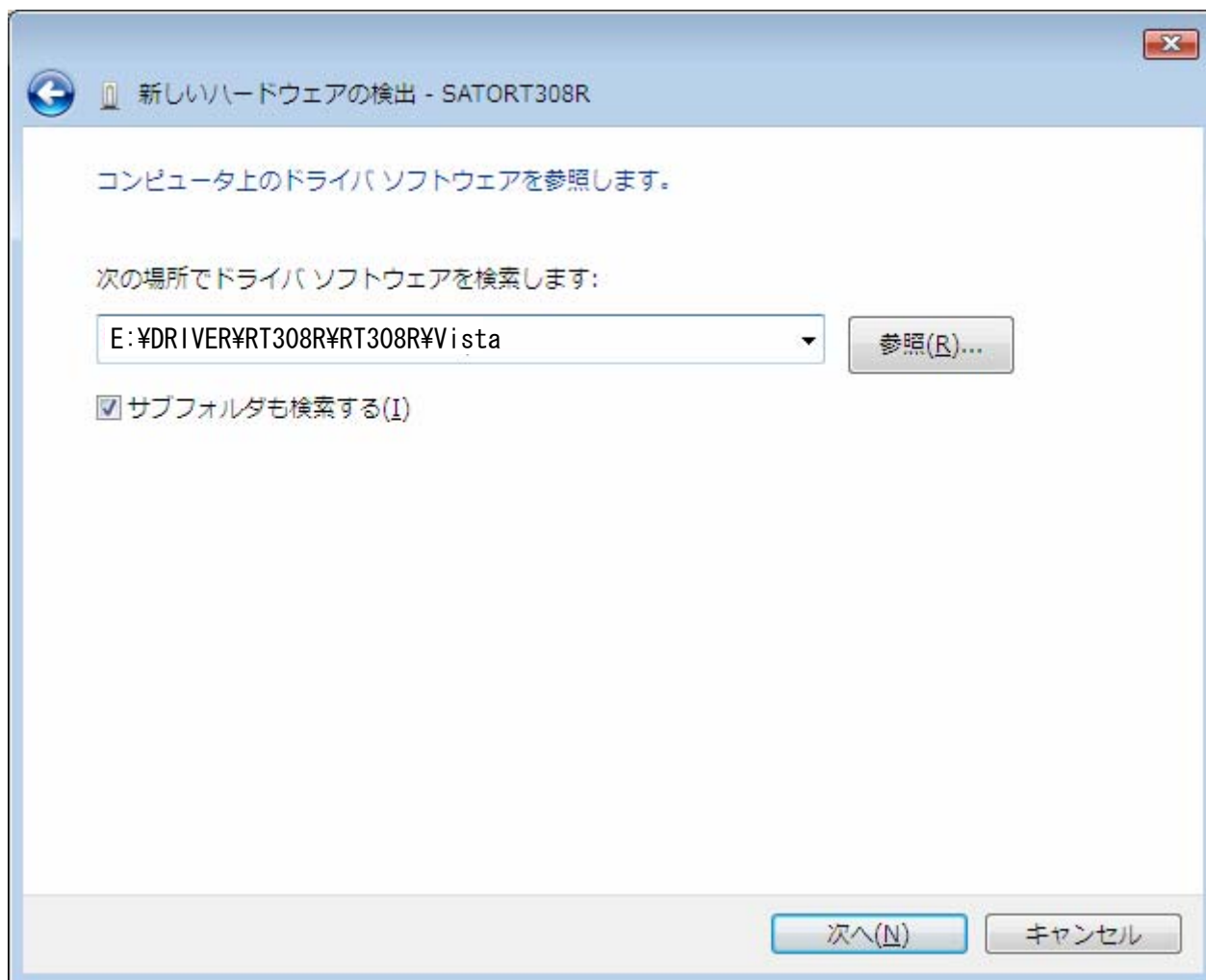
「図 5.1.1.5 Windows のインストール方法指定画面」が表示されます。



「図 5.1.1.5 Windows のインストール方法指定画面」

インストール情報ファイルを指定しますので、丸枠部分をクリックしてください。

「図 5.1.1.6 インストール情報ファイル指定画面」にてインストール情報ファイルの存在するフォルダを指定します。インストール情報ファイルとは、例の RT308R では「RTDRV.INF」となります。各インストール情報ファイルにつきましては、「5.2 インストール情報ファイルについて」を参照してください。



「図 5.1.1.6 インストール情報ファイル指定画面」

フォルダを指定して「次へ(N)」をクリックします。

インストールを開始すると、「図 5.1.1.7 Windows セキュリティ警告画面」が表示されます。「このドライバソフトウェアをインストールします(I)」をクリックしてください。

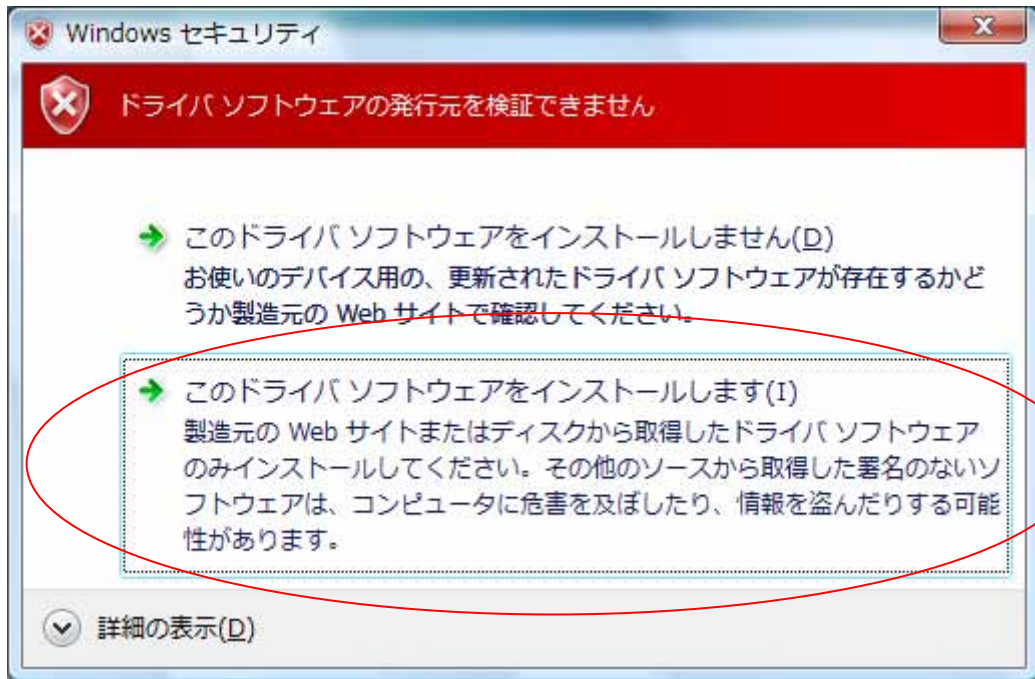


図 5.1.1.7 Windows セキュリティ警告画面

インストールが開始され、「図 5.1.1.8 Windows のインストール実行画面」が表示され、インストール処理を実行しています。

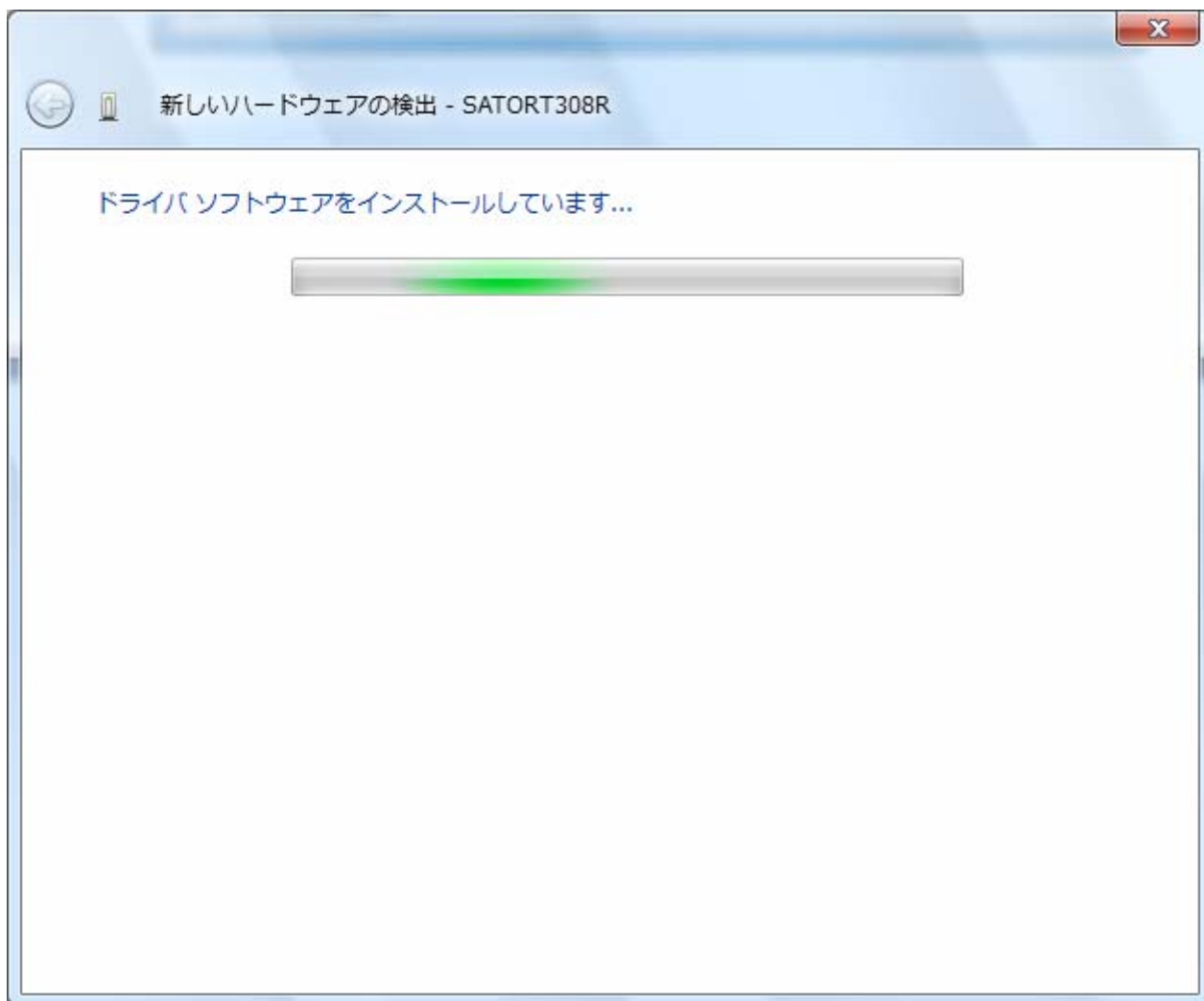


図 5.1.1.8 Windows のインストール実行画面

インストール処理が終了しますと、「図 5.1.1.9 Windows のインストール完了画面」が表示されます。



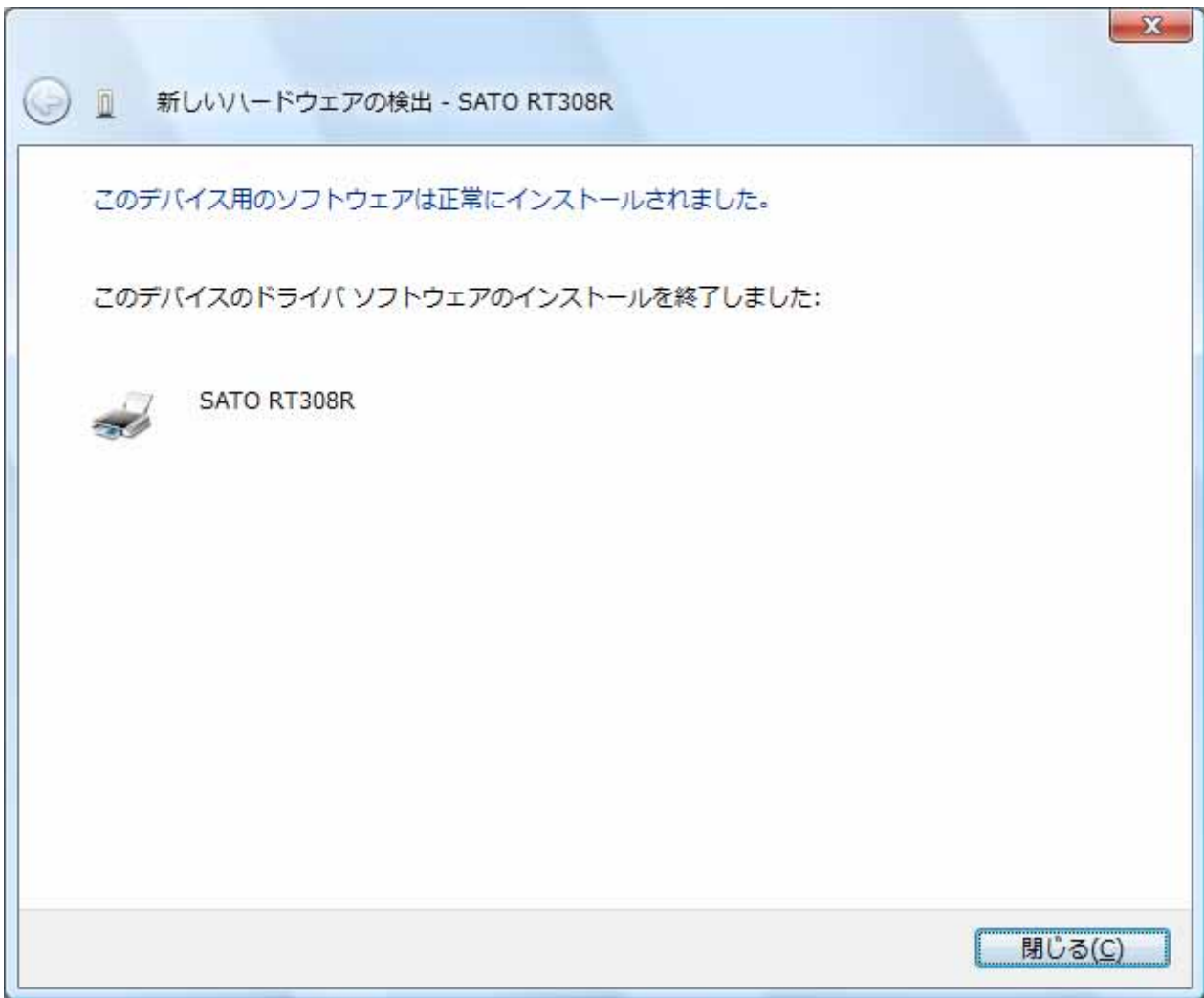


図 5.1.1.9 Windows のインストール完了画面

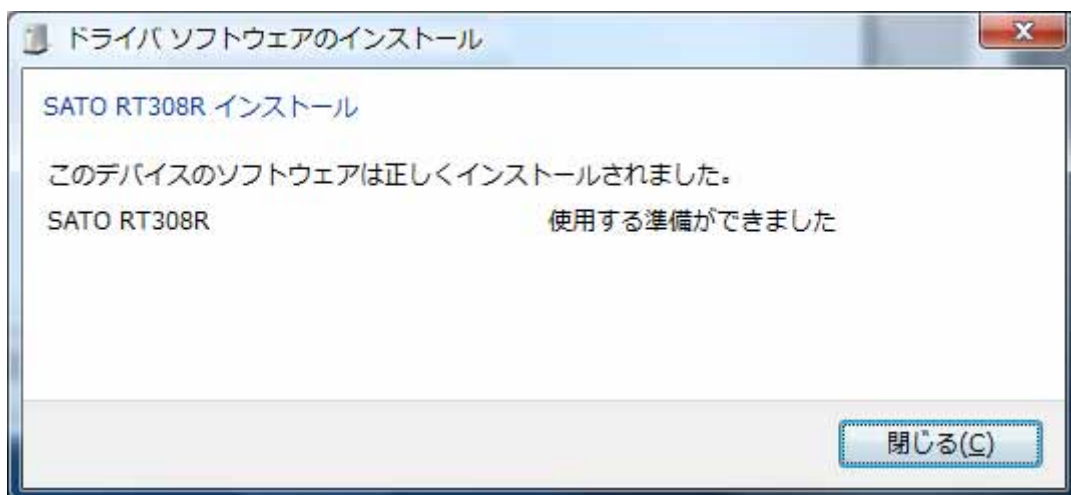


図 5.1.1.10 Windows のインストール完了メッセージ

インストール完了を「図 5.1.1.9 Windows のインストール完了画面」、「5.1.1.10 Windows のインストール完了メッセージ」を表示して通知します。

以上で USB 標準印刷サポートのインストール処理は完了です。

## 5.1.2. Windows XP でのインストール手順

USB 標準印刷サポート対応の機種を USB ポートに接続し、機種の電源を ON としますと、Windows が自動的に認識し、「5.1.2.1 Windows のインストール確認画面」が表示されます。

「いいえ、今回は接続しません(I)」を選択した後、「次へ(N)」をクリックしてください。

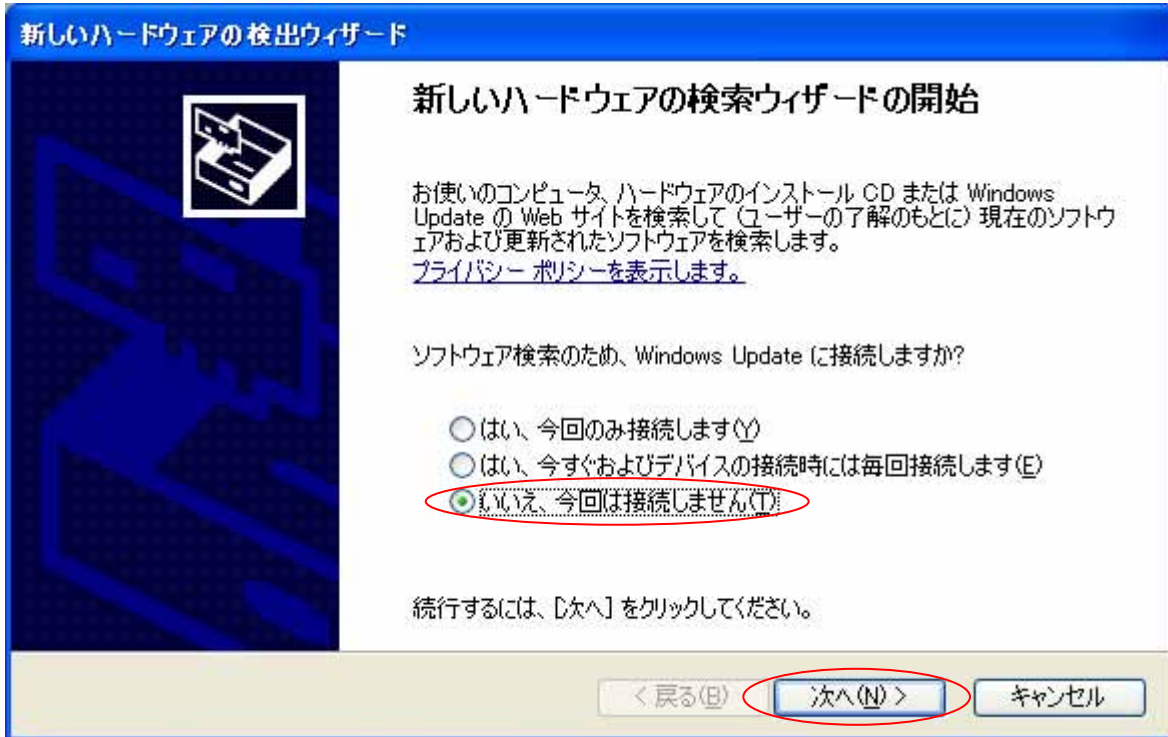


図 5.1.2.1 Windows のインストール確認画面

「図 5. 1. 2. 1 Windows のインストール確認画面」で丸枠部分をクリックすると、「図 5. 1. 2. 2 Windows のインストール準備画面」が表示されます。インストール情報ファイルを指定しますので、丸枠部分を選択し、「次へ(N)」をクリックしてください。

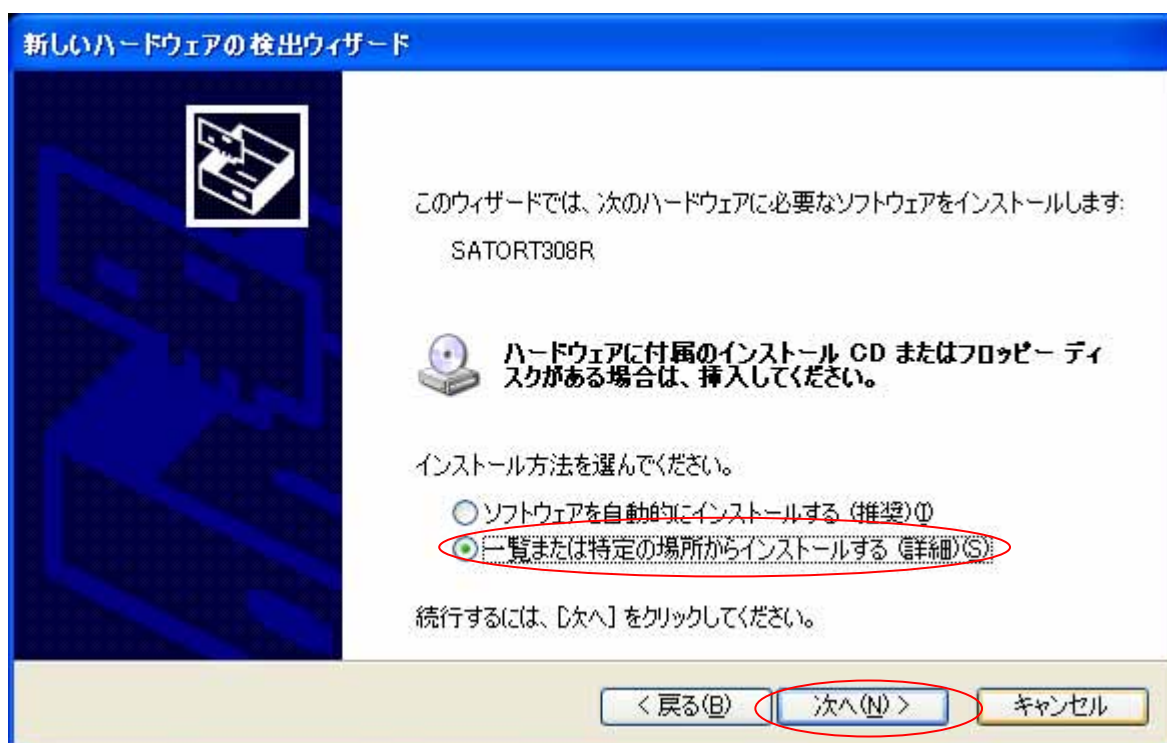
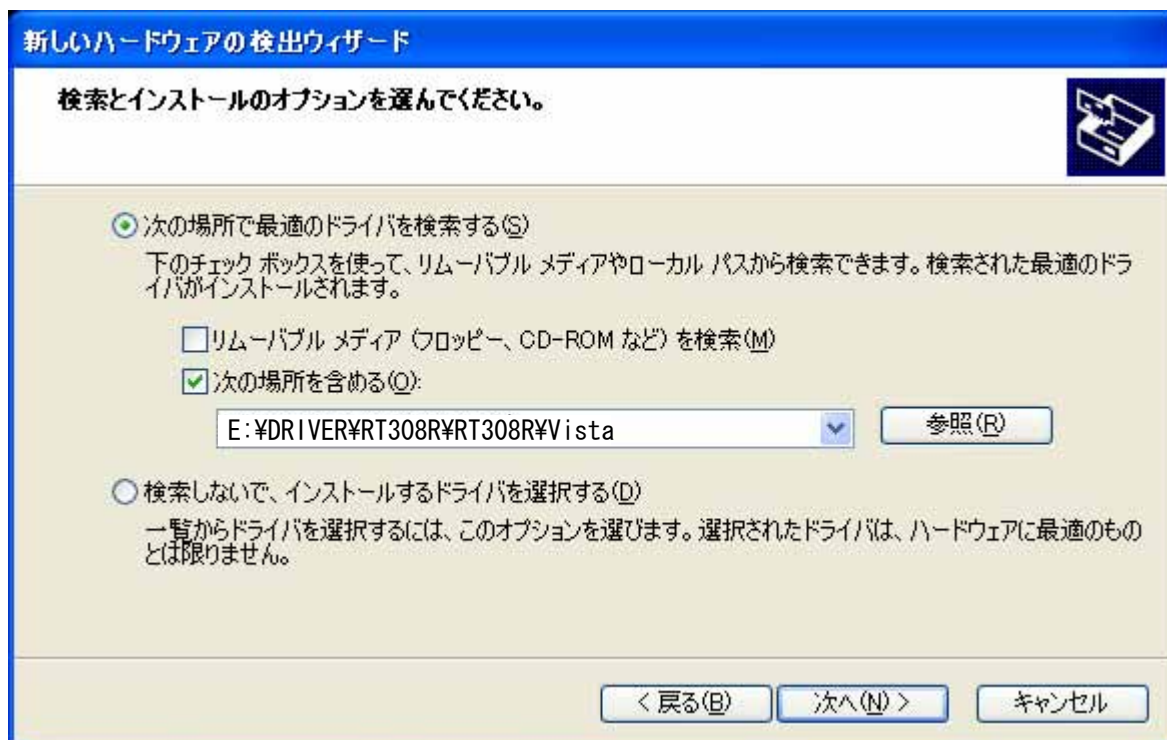


図 5. 1. 2. 2 Windows のインストール準備画面

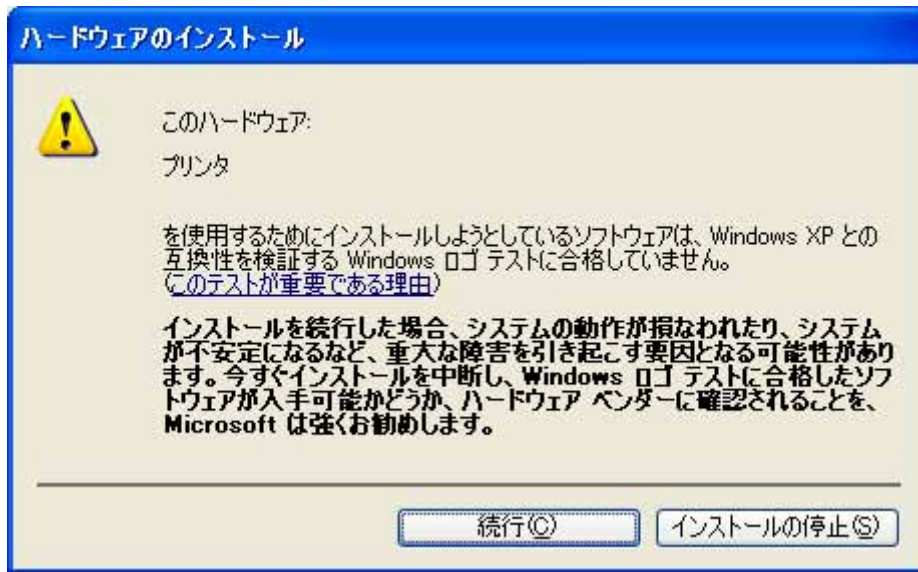
「図 5.1.2.3 インストール情報ファイル指定画面」にてインストール情報ファイルの存在するフォルダを指定します。インストール情報ファイルとは、例の RT308R では「RTDRV. INF」となります。各インストール情報ファイルにつきましては、「5.2 インストール情報ファイルについて」を参照してください。



「図 5.1.2.3 インストール情報ファイル指定画面」

フォルダを指定して「次へ(N)」をクリックします。

インストールを開始すると、「図 5.1.2.4 Windows セキュリティ警告画面」が表示されます。



「図 5.1.2.4 Windows セキュリティ警告画面」

「続行 (C)」をクリックしてください。

「図 5. 1. 2. 5 Windows のインストール完了画面」が表示されます。「完了」をクリックしてください。

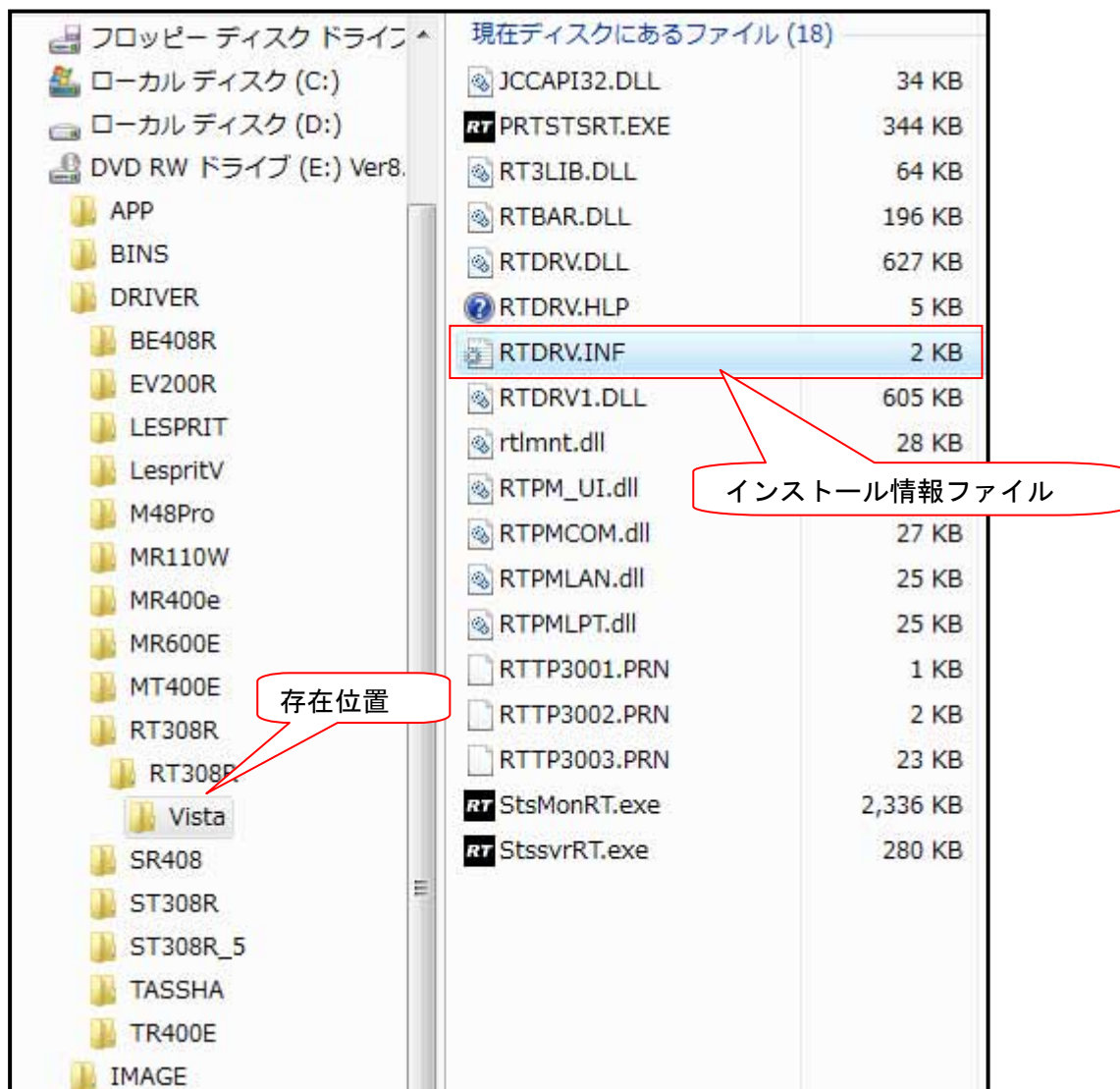


図 5. 1. 2. 5 Windows のインストール完了画面

以上で USB 標準印刷サポートのインストール処理は完了です。

## 5.2. インストール情報ファイルについて

USB 標準印刷サポートのインストール時に必要となる、インストール情報ファイルの存在位置を「図 5.2 インストール情報ファイル」、「表 5.2 インストール情報ファイルの存在位置」で説明します。



※本図では CD-ROM ドライブは E ドライブとなっています。

図 5.2 インストール情報ファイル

表 5.2 インストール情報ファイルの存在位置

USB 標準印刷サポート対応機種	インストール情報ファイルの存在位置
RT308R	(CD-ROM ドライブ):¥DRIVER¥RT308R¥RT308R¥Vista
ST308R/ST312R	(CD-ROM ドライブ):¥DRIVER¥ST308R¥ST308R¥Vista
EV208R/EV212R	(CD-ROM ドライブ):¥DRIVER¥EV200R¥EV200R¥Vista

- ※ USB 標準印刷サポート対応機種は、上記となります。
- ※ 上記は一例として OS:Windows Vista でアクセサリ CD-ROM 使用時のフォルダ構成を表現しています。  
ネット上などからドライバー式をダウンロードした場合は、任意の位置を指定してください。

「表 5.2 インストール情報ファイルの存在位置」にて各機種のインストール情報ファイルの存在位置を示します。各機種の存在位置を「図 5.1.6 インストール情報ファイル指定画面」で指定してください。



### 5.3. USB 標準印刷サポートインストール時の障害回避方法

USB 標準印刷サポート対応機種で USB ポート使用時に、図 5.1.1 の※1 を選択しますと、インストールが不可能な状態になりますので、注意が必要です。

もし選択してしまった場合は、デバイスマネージャ（図 5.3）を起動し、「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」の「USB 印刷サポート」を削除してください。削除後にプリンタの電源を入れ直すと、図 5.1.1 の画面が起動するようになります。

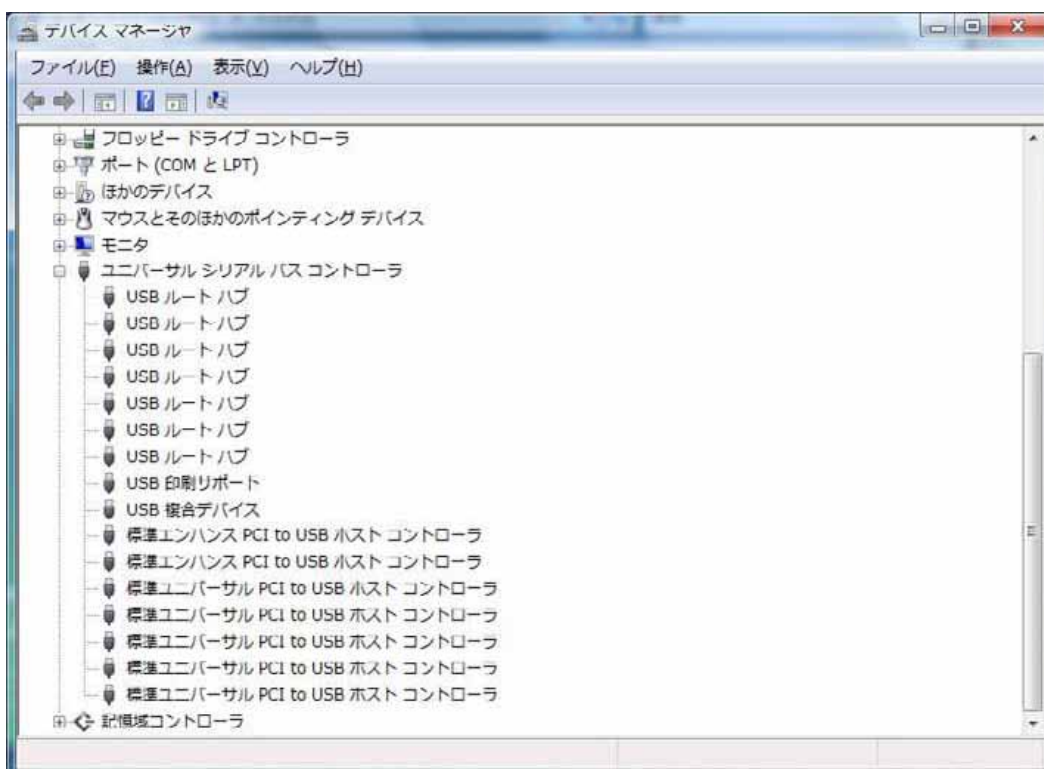


図 5.3 デバイスマネージャ画面

## 6. 注意事項

### 6.1. インストール起動時のエラーメッセージ

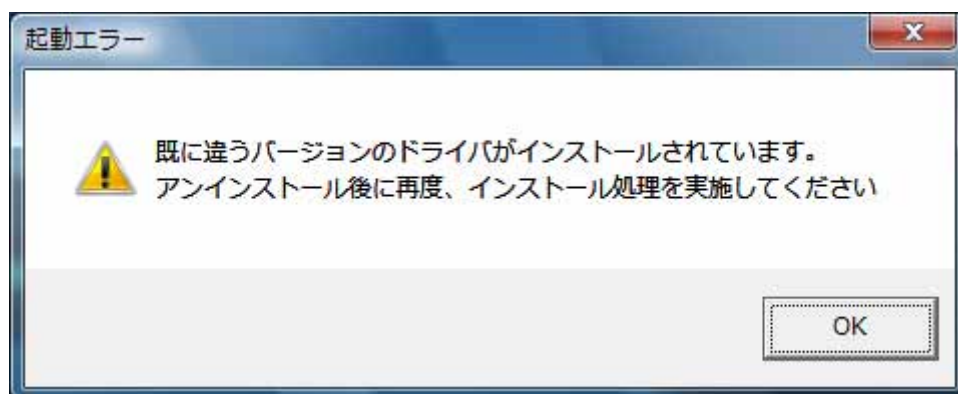


図 6.1 起動エラーメッセージ

インストール起動時に、図 6.1 のメッセージが表示される場合があります。このメッセージは、既に違うバージョンのドライバがインストールされている場合に表示されます。

アンインストール実施後に再度、インストールを行ってください。

注 1 プリンタドライバのインストールでは、インストール先のシステムフォルダに、既に同名のファイルが存在する場合、上書きコピーを行えません。従って、図 6.1 のメッセージが表示された場合は、必ずアンインストール処理を行ってください。

注 2 インストールが途中で失敗した場合、アンインストールを行わずにプリンタを削除した場合に、システムフォルダにプリンタドライバ関連のファイルが残ってしまい、図 6.1 のメッセージが表示される場合があります。その際はアンインストールを実施後、再度インストールを行ってください。

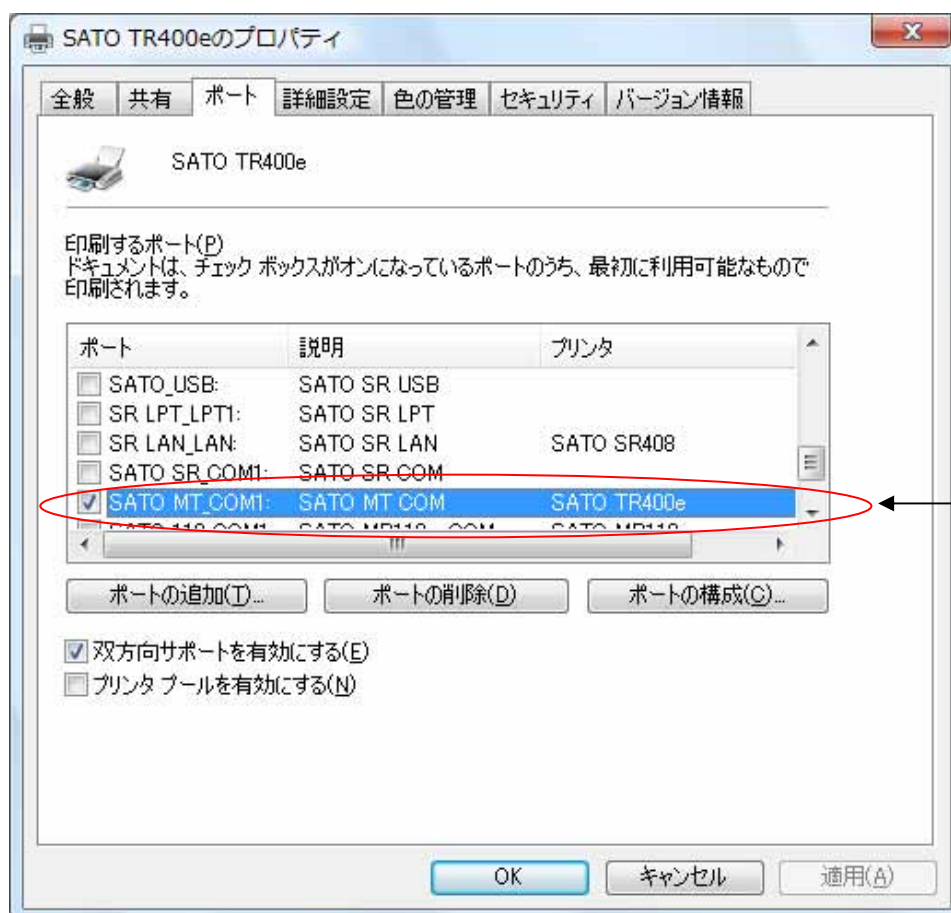
(そのようなケースの場合、アンインストール画面にプリンタ名が表示されない場合があります。「4.2 アンインストール プリンタ選択画面」注 1 を参照してください。)

## 6.2. アンインストール時のポート共有メッセージ



図 6.2.1 ポート共有メッセージ

アンインストールするプリンタの接続ポートを、他のプリンタでも使用している場合、「図 6.2.1 ポート共有メッセージ」が表示されます。このメッセージが表示された場合は「図 6.2.2 ポートモニタの画面」を開き、ポートの共有を外してからアンインストールを行ってください。



例では、MT400e の COM ポートを TR400e が共有していますので、TR400e プリンタドライバから、この画面を開き、違うポートを選択させます。

図 6.2.2 ポートモニタの画面

### 6.3. Plug & Play 回避方法

LPT ポート、USB ポート接続の場合、プリンタをパソコンに接続した状態でプリンタの電源を入れた場合や、プリンタの電源を入れた状態でパソコンを起動すると、「新しいハードウェアが見つかりました」の画面が表示される場合があります。

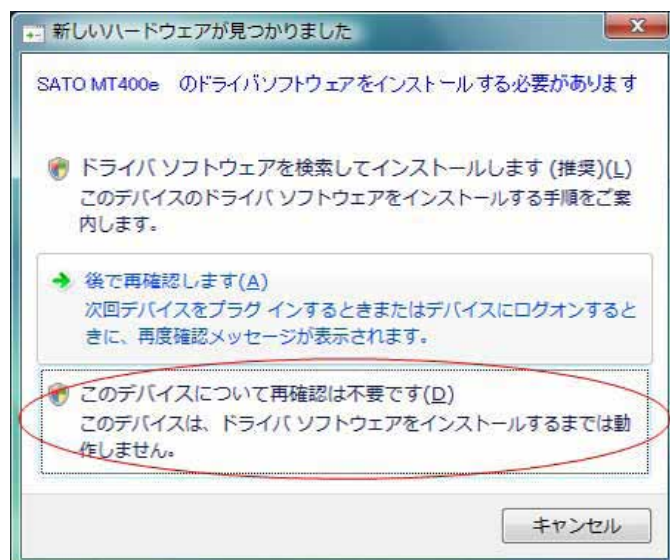


図 6.3.1 新しいハードウェアが見つかりました 画面 (Windows Vista)

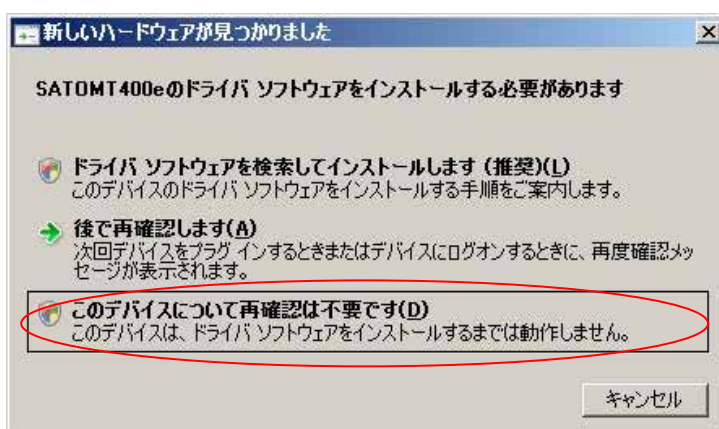


図 6.3.2 新しいハードウェアが見つかりました 画面 (Windows Server2008)

USB 標準印刷サポート対応機種 (5. USB 標準印刷サポートのインストール方法) の場合、USB ポートに限り、Plug&Play によるインストールを行いますが、それ以外のケースで、図 6.3.1、図 6.3.2 が表示された場合は丸枠部分を選択し、インストール処理を行わないでください。

Windows Vista/Server2008 以外の OS の場合は、次ページ以降を参照してください。

## WindowsXP/Server2003 の場合

- (1) 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。「次へ(N)」ボタンをクリックしてください。(CD-ROM は、CD ドライブに入れたままの状態にします。)



図 6.3.3 新しいハードウェアの検索ウィザードの開始 画面 (Windows XP)

- (2) 下記の画面が表示されたら「完了」ボタンをクリックしてください。

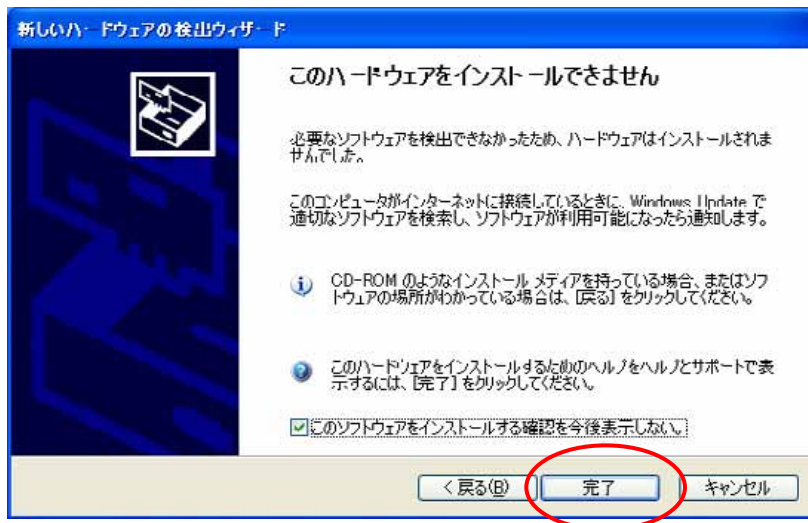


図 6.3.4 このハードウェアをインストールできません 画面 (Windows XP)

## Windows2000 の場合

- (1) 「新しいハードウェアの検索ウィザード」が表示されます。「次へ(N)」ボタンをクリックしてください。

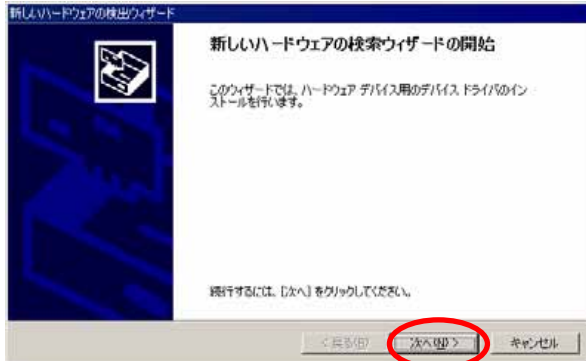


図 6.3.5 新しいハードウェアの検出ウィザードの開始 画面 (Windows 2000)



図 6.3.6 インストール中 メッセージ画面 (Windows 2000)

- (2) 「次へ(N)」ボタンをクリックしてください。

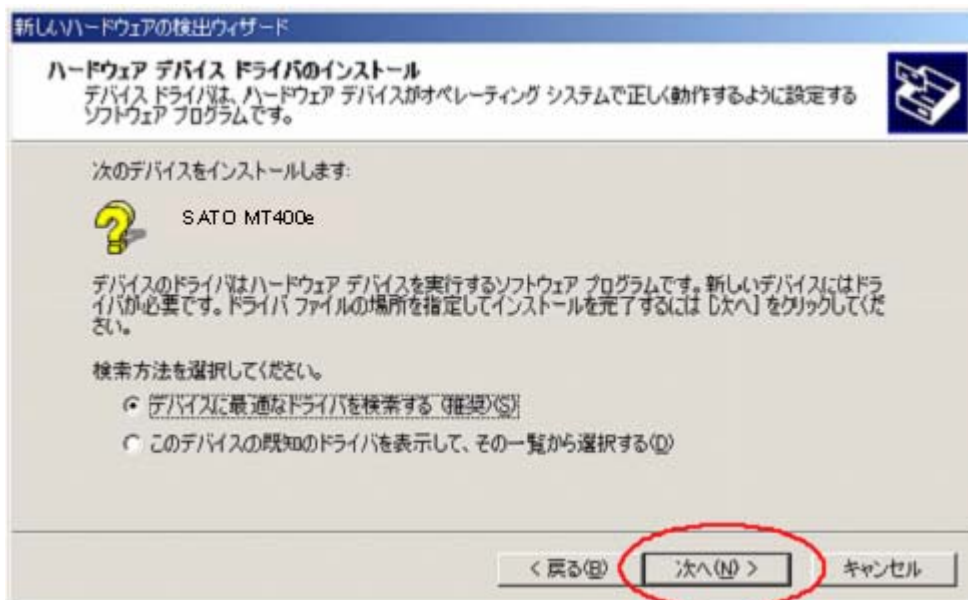


図 6.3.7 ハードウェア デバイス ドライバのインストール画面 (Windows 2000)

(3) 「次へ(N)」 ボタンをクリックしてください。



図 6.3.8 デバイス ドライバ ファイルの検索場所指定 画面 (Windows 2000)

(4) 「完了」 ボタンをクリックしてください。



図 6.3.9 デバイス ドライバ ファイル検索終了 画面 (Windows 2000)